

明治三十三年事變 一六六・六七 九一・〇五 一〇一・〇二 一七九・一六  
 明治三十七八年戰役 二〇五・二八 一八五・三二 一一〇・三八 四四〇・九一  
 大正三年戰役 三三・二〇 四一・五七 二二・九一 一一七・七六

戰地入院患者ニ就キテ其ノ發病地ヲ調査スルニ在郷間ニ發病シ帶患應召シタル者十四出征前ノ發病十七出征途上船内ニ於テ發病シタル者六十八アリテ事實戰地ニ於テ發病シタル者ハ二百六ニ過キササルモ他ト比較對照ノ便宜上悉ク戰地發病トシテ記述スヘシ  
 内地發病者ハ百七十ニシテ内地健康人員ノ二六・六二%内地發病非戰傷總患者ノ二五・四五%ヲ占メタリ

第二轉歸

轉歸率 本病ノ發病地別轉歸率ハ左表ノ如シ

轉歸別	戰地		内地		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
治癒	四一六	九四・一二	九七	五七・〇六	五一三	八三・八二
死亡	三	〇・六八	一	一	三	〇・四九
轉事	九	二・〇四	一	〇・五九	一〇	一・六三
計	四四二	一〇〇・〇〇	一七〇	一〇〇・〇〇	六一二	一〇〇・〇〇

(備考) 内地發病ニ事故ノ多キハ召集解除ノ爲ナリ

戰地入院者ニ就キテ其ノ轉歸地ヲ區別スレハ戰地轉歸ハ僅々一六・〇七%ニシテ内地轉歸八三・九

三%ヲ占メタリ即チ大多數ノモノハ内地ニ還送セラレタルモノナリ  
 死亡率 本病ニ因スル死亡數ハ僅ニ三名ニシテ之ヲ既往戰役ニ比較スルニ其ノ率著シク寡少ナリ左ノ如シ

脚氣患者百ニ對シ 總死亡者百ニ對シ 非戰傷總死者百ニ對シ 人員一千ニ對シ  
 明治二十七八年戰役 九・八一 二〇・一六 二〇・五三 一七・八二  
 明治三十三年事變 五・二九 一一・九一 一三・一八 七・八九  
 明治三十七八年戰役 二・九三 一八・三七 二五・五一 四・九九  
 大正三年戰役 〇・四九 一・一四 一・九〇 〇・一五

第三 治療日數

本病ノ總治療日數ハ一萬九千七百八十三日一人平均三二・三日ニシテ非戰傷患者治療日數ノ九三・〇八%ヲ占メタリ之ヲ既往戰役ニ比較スレハ左ノ如ク著シク減少セリ

一人平均治療日數 非戰傷患者治療日數一千ニ對シ  
 明治二十七八年戰役 三九・一 二七九・六七  
 明治三十三年事變 四八・九 二〇三・五九  
 明治三十七八年戰役 四五・七 二二八・一二  
 大正三年戰役 三二・三 九三・〇八

發病地別ニ治療日數ヲ區別スレハ戰地發病者ハ一人平均治療日數三六・三日ニシテ戰地發病非戰傷患者治療日數ノ一一三・一〇%ヲ占メ内地發病者ハ一人平均治療日數二二・一日ニシテ内地發病



非戰傷患者治療日數ノ五三・〇〇%ヲ占メタリ  
 戰地入院者ノ一人平均治療日數ハ四六・五日ニシテ戰地入院非戰傷患者治療日數ノ一五・〇一〇%ヲ占メ内地入院者ノ一人平均治療日數ハ三八・九日ニシテ内地入院非戰傷患者治療日數ノ五・五四三%ヲ占メタリ  
 戰地患者ノ治療日數ヲ既往戰役ニ比較スレハ左ノ如シ

戰役	戰地發病		戰地入院	
	一人平均治療日數	戰地非戰傷總患者治療日數一千ニ對シ	一人平均治療日數	戰地入院非戰傷總患者治療日數一千ニ對シ
明治二十七八年戰役	三九・八	二五六・一五	四三・六	三〇八・四〇
明治三十三年事變	五八・〇	一七四・八七	七〇・二	二五四・六九
明治三十七八年戰役	五〇・八	一九七・五二	六〇・五	四四九・九三
大正三年戰役	三六・三	七五・四五	四六・五	一五一・〇〇

更ニ戰地入院者ノ治療日數ヲ其ノ轉歸地別ニ區分スレハ一人平均戰地轉歸者ハ一四・〇日内地轉歸者ハ五・二八日戰地一四・〇日 内地三・八八日ニシテ兩者ノ間ニ著シキ差異アリ之レ一定日間治療ノ後經過稍遷延ノ傾向アルモノハ内地ニ送還シタルニ因ル

### 第二節 發生ノ概況

本戰役間本病發生ノ狀況ヲ觀ルニ内地ニアリテ受診シタル者既ニ八月六十二名九月七十一名アリ戰地ニ於テハ九月上陸ニ於テ受診シタル者實ニ二百五十一ヲ算シタリ又應召時身體檢査ノ際本病ヲ發見シテ歸郷セシメタル者尠カラズ又入院患者ノ役種ヲ見ルニ現役者ハ僅々一一七三%

ニシテ其ノ他ノ八八・二七%ハ實ニ應召員ナリキ由之觀之ハ應召員ニシテ既ニ在郷中發病セルモ自覺症輕易ナリシヲ以テ其ノママ入隊シ爾後増惡シテ遂ニ受診スルニ至リタル者或ハ檢査醫官ニ於テ發見シタルモ症狀輕易ニシテ歸郷程度ニ達セサリシヲ以テ入隊セシメタル者又ハ入隊後數日ナラスシテ初發症狀ヲ呈シタル者及既ニ發病シアリタルモ受診スルニ至ラスシテ出征ノ途ニ就キ航海中或ハ戰地上陸後漸次増惡シテ遂ニ受診スルニ至リタル者等甚多數ヲ占メタルモノノ如シ以下戰地内地ニ別チ其ノ概況ヲ記述セム

#### 第一 戰地

戰地ニ於ケル脚氣患者ハ其ノ健康人員一千ニ對シ野戰部隊九六九在隊二・六六 兵站部隊一一・三三在隊三・九五 其他ノ部隊四〇〇在隊一・六三ヲ算シ兵站部隊最少ク其ノ他ノ部隊著シク高率ヲ示セリ左ノ如シ

部隊別	在隊		入院		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
野戰部隊	八一	二・六六	二一四	七・〇三	二九五	九・六九
兵站部隊	二二	三・九五	四三	七・三八	六六	一・三三
其他ノ部隊	三三	一・六三	四八	二・三七	八一	四・〇〇
計	一三七	四・〇九	三〇五	九・一〇	四四二	一三・一九

今之カ發生ノ狀況ヲ觀ルニ上陸當月ニ於テ二百五十一即チ戰地本病患者ノ半數ニ達セシカ十月ノ新患ハ百五十四ニ減シ十一月ニ至リテハ頓ニ減シテ僅々三十六ヲ出シタルニ過キス更ニ十二月ニ入りテ以後唯タ一名ノ新患ヲ見タルノミ斯ノ如ク上陸後日ヲ經ルニ從ヒテ患者逐次減少セ



リ之ヲ以テ觀レハ本病ハ其ノ因内地ニ胚胎シ戰地ニ於テ發病シタルモノト解セラヘルシテ而シテ在隊患者ニアリテハ其ノ狀況詳カナラサルモノアルヲ以テ專ラ入院患者ニ就キテ記述スレハ大ノ如シ

戰地ニ於ケル入院患者三百五ノ内帶患ノママ應召入隊シ受診セシテ出征シタル者十四内地ニ於テ出發前既ニ發病セルモ受診セシテ出征シタル者十七出征途上船内ニ於テ發病シタル者六十八アリ又上陸後初發症狀ヲ發現シタル者ニシテ其ノ上陸月日ノ記載明瞭ナルモノノ内四分ノ三強ハ上陸後一週間以内ニ發病セリ

應召員身體検査當時本病ノ爲ニ召集解除シタル者ハ稍多數ニ上リタルモノノ如ク(殊ニ深山ニ於テ然リトス)留守隊ニ編入後召集解除シタル者十八アリ出征部隊ニ編入後出發迄ニ受診シタル者四十八其ノ内入院十五、入院後召集解除者九アリ是等ノ狀況ハ後條内地ノ部ニ於テ詳記スヘシ

以上ノ狀況ニ依テ觀レハ本病ノ大部分ハ既ニ内地ニ於テ胚胎シアリタルモ症狀輕易ニシテ自他覺的ニ之ヲ感知シ能ハサリシ者、又ハ既ニ之ヲ感知セルモ作業ニ何等ノ支障ナカリシ者或ハ自覺的稍支障ヲ感シタルモ受診セシテ出征シタル者等ニシテ早キハ乘船地迄ノ行軍或ハ船内ニ於テ發病シ若クハ上陸後種々ナル有害感作ヲ受ケ發病シタルモノニシテ上陸後、日ヲ閱スルニ從ヒ漸次其ノ發生ヲ減セリ以下戰地患者ニ就キテ更ニ野戰部隊、兵站部隊及其他ノ部隊ニ別テ其ノ發生ノ狀況ヲ略述セムトス

野戰部隊

野戰部隊 戰地野戰部隊ニ於ケル本病在隊患者八十一ニ就キテハ其ノ發生ノ狀況詳カナラス入院患者二百十四ニ就キテ之ヲ調査スルニ帶患ノママ應召セル者十、内地ニ於テ出征前即内地發病者十、船内發病者五十六、上陸後初發百二十四(他病ヨリ轉症シタニシテ之カ發生ノ時期ハ上陸後前進行軍間自九月二十五日石門山及孤山浮山附近ノ戰闘至同九月二十六日ニ於ケル期間ニ於テ既ニ半

數以上ノ患者ヲ出シ攻城準備間 自九月二十九日ニ於テ漸次減少シ青島要塞本防禦線攻撃間 自十九日至十月十 及爾後凱旋期ニ至ル間ニ於テ頓ニ新患ノ發生ヲ減セリ其ノ景況左ノ如シ

前進行軍中

石門山及孤山、浮山附近戰闘間

- 五五 攻城準備間
- 四 本防禦線攻撃間
- 五〇 占領砲臺、堡壘監視間
- 四 計
- 一二四

箇々ノ部隊ニ就キテハ野戰重砲兵第三聯隊輜重隊ハ他ニ比シ著シク多發シ(應召員中帶患入隊者多テ次項内地ノ部ニ詳記スヘシ) 同第二聯隊輜重隊之ニ亞キタルモ其ノ他ノ部隊ニ於テハ特ニ多發ト認ムヘキモノナカリキ、今人員一千ニ對シ十以上ノ患者ヲ發生シタル部隊ヲ列記スレハ左表ノ如シ

部隊名	在		院		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
野戰重砲兵第三聯隊輜重隊	二二	一七・三六	三四	二六・八四	五六	四四・二〇
野戰重砲兵第二聯隊輜重隊	一三	一八・二一	一〇	一四・〇〇	二三	三二・二一
第二糧食縱列	一	—	一二	二六・九七	一二	二六・九七
野戰重砲兵第三聯隊第一糧食縱列	一六	九・〇七	二七	一五・三一	四三	二四・三八
第四糧食縱列	三	六・六五	九	二〇・四一	九	二〇・四一
獨立攻城重砲兵第四大隊	—	—	六	一三・三〇	九	一九・九六
步兵第四十六聯隊	六	一・七七	七	一七・四一	七	一七・四一
			四〇	一一・七九	四六	一三・五五

兵站部隊

兵站部隊 戰地兵站部隊ニ於ケル本病在隊患者二十三ニ就キテハ其ノ發生ノ狀況詳カナラス入院患者四十三ニ就キテ之ヲ調査スルニ帶患應召ノ者三内地ニ於テ出征前即内地發病者二、船内發病者八上陸後初發者二十六(他病ヨリ轉症シタニシテ其ノ發病地ハ龍口 卽墨 新城 南村 各



其他ノ部

主哥庄菜州李村各平里店藏家庄店子平度各等ナリ又箇々ノ部隊ニ就キテハ何レモ在隊入院ヲ合シタル實數十以下ニアリ多發セシ部隊ナカリキ

其他ノ部隊 戰地其他ノ部隊ニ於テハ本病在隊患者四十三ニ就キテハ其ノ發生ノ狀況詳カナラス入院患者四十八ニ就キテ之ヲ調査スルニ帶患應召ノ者一内地ニ於テ出征前即チ内地發病者五船内發病者四上陸後初發者三十八ニシテ其ノ發病地ハ西哥庄二十龍口一王哥庄四沙子口一等ナリ又箇々ノ部隊ニ就キテハ水上輪卒隊ニ稍多發シ殊ニ第三水上輪卒隊ニ於テ著シク多發ノ傾向アリタルモ其他ノ部隊ニ於テハ多發ト認ムヘキモノナカリキ今人員一千ニ對シ十以上ノ患者ヲ發生シタル部隊ヲ列記スレハ左表ノ如シ

部隊名	在		院		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
第三水上輪卒隊	一〇	三三・九〇	一八	六一・〇二	二八	九四・九二
第二水上輪卒隊	八	二五・四〇	九	二八・五七	一七	五三・九七
第一水上輪卒隊	四	一三・七九	九	三一・〇三	一三	四四・八二
第十一陸上輪卒隊	三	九・六五	六	一九・二九	九	二八・九四
第十二陸上輪卒隊	三	九・四六	三	九・四六	六	一八・九三

第二 内地

内地ニ於ケル脚氣患者ハ其ノ健康人員一千ニ對シ一六五六<sub>在隊</sub>一・五九<sub>入院</sub>ニシテ之カ發生ノ狀況ヲ觀ルニ應召員身體検査時本病ヲ發見シテ歸郷セシメタル者稍多數ヲ出シ又應召時輕易ナル自覺症アリタルモ其ノママ入隊シタル者或ハ検査醫官ニ於テ之ヲ發見シタルモ症狀輕易ニシテ歸

郷程度ニ達セサリシヲ以テ入隊セシメタル者等ニシテ漸次症狀増悪シタル者尠カラス殊ニ在深山野戰重砲兵第三聯隊及同輜重隊ニ於テ然リトス

入院患者ニ就キ深山衛戍病院長ノ調査報告要旨

野戰重砲兵第三聯隊輜重隊ヨリ脚氣ノ病名ノ下ニ八月中ニ入院セル者總數九名ニシテ内三名ハ脚氣ニ非サリシヲ以テ之ヲ控除セル六名ニ就キ調査スルニ何レモ帶患入營者ニシテ明治三十六年ヨリ同三十九年迄ノ間ニ發病セル者四名他ノ二名ハ最近三箇年内ニ罹患セルモノトス之カ爲日露戰役間内地ニ還送後召集解除セラレタハ現役ヲ免除セラレ或ハ勤務演習、簡閱點呼等ニ出席シ得サリシ者ナリ何レモ發病以來殆ト毎年同時期ニ於テ又ハ一、二箇年ヲ隔テテ再發シ全治ニ至ラス本年八月應召員身體検査時何レモ已ニ輕度ノ自覺症狀アリシモ出征ヲ願慮シ秘シテ語ラサリキ唯一名ハ其ノ歩行狀態ヨリ本病ノ疑ヲ置キシモノアリタリ當時短少時間内ニ多數應召員ヲ検査シタルノ結果著シキ障礙アルモノハ歸郷ヲ命シ單ニ自覺的症狀ノミヲ訴フルモノハ入營後精檢スルノ方針ナリシカ入營後日々ノ勤務ハ體力ヲ要求スルコト多ク過勞ノ結果症狀ノ増進ヲ來シ受診スルニ至レルナリ云々

以上ノ狀況ヨリ綜合スルニ少クモ深山ニ於ケル本病ノ大部分ハ帶患入隊者ナリシコトヲ立證スルニ足ルヘク其ノ他又各地ニ於テ出征部隊ニ編入セラレタル者ニシテ出征前受診シタル者八月二十八、九月二十ヲ出シ留守部隊編入者ニシテ受診シタル者八月三十四、九月五十一ヲ算シタリシカ十月ニ入りテハ頓ニ減少シテ二十トナリ十一月十一、十二月四ノ受診者ヲ出シタルニ過キヌ又入院患者五十一ノ内二十三<sub>出征部隊ノ出征前</sub>十五<sub>留守部隊</sub>ハ即チ帶患入隊者ナリキ又入院者ニ就キテ其ノ發病地及入院地ヲ調査スルニ人員ニ對スル比例ハ深山ヲ以テ首位トシ殊ニ帶患者ハ深山ニ於テ其ノ半數以上ヲ占メタルハ左表ノ如シ

入院地	帶患入隊	屯營地發病	計	入院地	帶患入隊	屯營地發病	計
久留米	八	二〇	二八	深山	一四	一	一四



由良、各一、各一、千、葉、一、二、二、  
 長崎、二、二、四、計、二六、二五、五一  
 又箇々ノ部隊ニ就キテハ在隊入院ヲ合シ野戰重砲兵第三聯隊六十四人員ニ對シテ最多トシ同聯隊編重隊二十四人員ニ對シテ之ニ亞キ其ノ他ニ多發ト認ムヘキ部隊ナカリキ

### 第三節 原因的事項

#### 第一 箇人的素因

兵種 入院患者兵種別實數ノ最多カリシハ輻重兵百二十ニシテ步兵七十重砲兵及水上輸卒隊兵各四陸上輸卒隊兵三十等順次之ニ亞キ罹患率ノ最多カリシハ水上輸卒隊兵三九・二ニシテ輻重兵一九・五 建築輸卒隊兵四・〇等順次之ニ亞ケリ

兵種	戰地		内地		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
步兵	六四	三・五〇	九	一・〇〇	七三	二・九八
砲兵	二	一・五〇	四	八・二〇	六	三・八六
砲重	二九	五・五七	一	五・二二	四〇	六・四七
工兵	二	一・二三	三	四・〇〇	三	一・〇〇
交通兵	一	一・二二	二	二・四二	四	一・八一
輻重	一〇七	二〇・六六	一五	七・一一	一二二	一九・一一
建築	五	一・五九七	一	七・一一	五	一・五七
陸上輸卒	三四	八・〇五	一	一・五	三四	一四・一一
水上輸卒	一	一・五	一	一・五	二	一・一一
計	三〇五	九・一〇	五一	四・九七	三五六	一一・二一

經水	戰地入院		内地入院		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
衛生部	一	五・七八	一	一一・〇五	二	一〇・三一
衛生部員	一一	八・四四	一	三・二七	一二	九・六六
衛生部員	一一	一・九六四	二	三・二七	三	一九・二六
衛生部員	一一	一・九六四	二	三・二七	三	一九・二六
計	三〇五	九・一〇	五一	四・九七	三五六	一一・二一

(備考) 一、本表ハ入院患者ニ就キテノ調査ナリ、以下之ニ準ス  
 二、本表以外ノ兵種ニハ入院患者ナシ  
 三、衛生勤務ニ從フ者トハ衛生部員以外ニシテ衛生機關ニ勤務スル者ヲ云フ

役種 役種別患者數ノ最多カリシハ補充兵役ニシテ實ニ其ノ四一・五七%ヲ占メ豫備役之ニ亞キ現役ト後備役ト殆ト相伯仲シ共ニ少數ナリキ役種別健康人員ノ調査ヲ缺キ其ノ罹患率ヲ明ニセスト雖患者ノ實數上補充兵役及豫備役ノ現役ヲ凌駕セルコト數倍ニ達セルハ其ノ罹患率ノ甚タ高キニアリシヲ證スルニ足ルヘシ

階級	戰地入院		内地入院		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
現役	三三	五	三八	三・八	七一	一四・八
豫備役	九〇	九	九九	二・五	一八九	三・二
後備役	二九	一〇	三九	三・〇五	六八	一・五
計	一五二	一・五	一七六	一・八	三二八	三・三

階級 階級別罹患數ハ將校一、准士官二、下士十二、兵卒三百四十一ニシテ兵卒ノ内輸卒二百八ヲ算ス、以テ輸卒ノ罹患率最多カリシヲ知ルヘシ前項役種別ニ於テ補充兵役ニ最多ナル理由亦茲ニ存ス



既往症  
主食

既往症 入院患者三百五十六ノ内本病罹患前ニ於テ疾病ニ罹リタルコトアル者五十九一六・五  
就中胃腸病及胸膜炎各十五一六・九ヲ最多トシ腸窒扶私ヲ經過シタル者六七・〇一之ニ亞ケリ  
發病時主食 廣島衛戍病院ニ於ケル還送患者百十五ニ就キテノ調査ニ據レハ常主食トシテ米  
食ヲ攝リタル者ハ米麥混食者ニ比シテ患者數少ク上陸後ノ主食ニ於テモ米麥混食者ニ多數ノ患  
者ヲ見唯船中ノ主食ニ於テノミ米食者ニ患者ノ多キヲ見タリ  
久留米衛戍病院ニ於ケル還送患者百三十二就キテノ調査ニ據レハ患者ノ三分ノ一強ハ白米食或  
ハ最初白米食ヲ爲セシ者ナリキ  
以上ノ成績ニ據テ觀レハ一見主食ノ種類ニ關係ナク卻テ米麥混食者ニ多發セルノ感アルモ之レ  
其ノ當時ニ於ケル米食者及米麥混食者ノ健康人員ニ對スル比例ヲ求ムルニアラサレハ眞ノ罹患  
率ヲ求ムル能ハサルヘシ唯米麥混食者ニモ本病ノ侵襲ヲ免レサルコトヲ證スルニ過キス然レト  
モ主食別ニ健康人員ニ對スル比例ヲ求ムルコトハ到底不可能事ニ屬スルヲ以テ一般給養ノ概況  
ヨリ之ヲ推斷スルニ如カス 給養ノ關係ハ第一章  
第十章ヲ參照スヘシ

以上給養ノ關係ト本病發生ノ狀況ヲ照合スルニ第二發生ノ概況條下ニ詳記シタルカ如ク戰地入  
院者ノ三分ノ一以上ハ内地若クハ船内ニ於テ發病シタル者ニシテ上陸後ニ於テハ上陸當月ノ發  
生最多ク爾後漸次減シタルハ即チ野戰部隊ニアリテハ十月初旬兵站部隊及其他ノ部隊ニアリテ  
ハ九月初旬米麥混用普及セラレテ以來日ヲ經ルニ從ヒテ患者ノ發生漸次減少シタリ之レハ内  
地ニ於テ既ニ胚胎シアリタル患者多數ヲ占メタルニ因ルナラムモ米麥混食乃至半搗米麥混食ノ  
影響亦其ノ一因タルヘシ  
患次 脚氣ハ一回之ヲ耐過スルモ卻テ再三罹患シ易キ傾向ヲ有スルハ既ニ世人ノ知ル所ニシ

テ入院患者ノ内其ノ三分ノ一強ハ再患以上ノ者ナリキ殊ニ内地入院者ニアリテハ初患ト再患以  
上ト殆ト相半セリ一般ニ戰地内地共ニ明治三十七八年戰役ニ比シ再患以上ノ者著シク多數ヲ算  
シタリ患次ヲ入院地別ニ示セハ左ノ如シ

患次	戰地		内地		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
初患	一九二	六二・九五	二七	五二・九四	二一九	六一・五二
再患	六一	二〇・〇〇	一三	二五・四九	七四	二〇・七九
三患以上	五二	一七・〇五	一一	二一・五七	六三	一七・七〇
計	三〇五	一〇〇・〇〇	五一	一〇〇・〇〇	三五六	一〇〇・〇〇

(備考) 一、患次詳カナラサルモノハ悉ク初患ニ計上セリ、以下同シ  
二、三患以上ノ者ハ十四患ニ達セル者ヲ最高トス

更ニ之ヲ實際ノ發病地ニ就キテ調査スルニ戰地上陸後發病シタル者ニアリテハ初患三分ノ二以  
上七〇・三ヲ占メ再患以上ノ者ハ二九・六一%ナリシモ内地屯營地ニ於テ發病シタル者ハ初患半數  
強ニシテ再患以上ノ者四四・七六%ヲ占メ帶患入隊者ニアリテハ初患ハ半數ニ達セス再患以上ノ  
者五二・五〇%ヲ占メ又出征途上航海中ニ於テ發病シタル者ニアリテハ再患以上ノ者五二・九四%  
ヲ占メタリ患次ヲ發病地別ニ示セハ左ノ如シ

患次	戰地		屯營地		帶患入隊		船内		計	
	員數	%	員數	%	員數	%	員數	%	員數	%
初患	一四五	七〇・三九	二三	五四・七一	一九	四七・五〇	三二	四七・〇六	二一九	六一・五二
再患	七〇	二九・六一	一	二・五	一	二・五	一	二・五	七四	二〇・七九
三患以上	一	〇・三	一	二・五	一	二・五	一	二・五	六三	一七・七〇
計	一四五	一〇〇・〇〇	二四	一〇〇・〇〇	二一	一〇〇・〇〇	三六	一〇〇・〇〇	三五六	一〇〇・〇〇



再患	三七	一七・九六	一〇	二二・三三	九	二二・五〇	一八	二六・四七	七四	二〇・七九
三患以上	二四	一一・六五	九	二二・四三	一二	三〇・〇〇	一八	二六・四七	六三	一七・七〇
計	二〇六	一〇〇・〇〇	四二	二〇・〇〇	四〇	二〇・〇〇	六八一	一〇〇・〇〇	三五六	一〇〇・〇〇

第二 誘因の事項

季節 晩夏ヨリ冬季ニ限局セル本戰役ニ於テ仔細ニ季節ト罹患ノ關係ヲ律スル能ハスト雖モ九月ニ於テ受診シタル者最高率ヲ呈シ十月之ニ亞キ十一月ニ入リテ頓ニ減少セリ之レ既ニ第二發生ノ概況ノ條下ニ詳記シタル如キ種々ナル因由アルヘシト雖亦以テ季節ニ關係ナシトセス月別受診患者數ヲ示セハ左表ノ如シ

月別	戰地		内地		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
八月	二五一	七〇・九	六二	一・四六	六二	一・三五
九月	一五四	三一・六	二二	四・二八	三三二	六・一九
十月	三六	〇・七二	一一	一・八一	一七六	二・八九
十一月	一	〇・〇四	四	〇・三九	五	〇・八一
計	四四二	一三・一九	一七〇	一六・六三	六一二	一九・三五

(備考) %ハ各月ニ於ケル當該地人員ニ對スル千分比例ナリ

前表患者ノ内在隊患者及入院患者中帶患入隊者ニアリテハ其ノ發病時詳カサルモノアリ又内地入院者中既ニ動員前ヨリ入院中ノ者アルヲ以テ是等ヲ除外シ戰地入院者 戰地及船内ニ就キテ

實際ノ發病時期ヲ調査スルニ九月上旬ヨリ多發ノ傾向アリテ同月中旬最高率ヲ示シ爾後漸次減シタルモ十月中旬迄ハ尙多發シ同月下旬以後頓ニ減少シ十一月下旬以後全ク發生ヲ見サルニ至レリ月別旬別發生數ヲ示セハ左ノ如シ

月別	旬	戰地	内地	計
八月	上旬	一	五	五
	中旬	五八	八六	一四四
	下旬	二六	三五	六一
九月	上旬	六	五	一一
	中旬	二六	三五	六一
	下旬	九	三一	四〇
十月	上旬	九	三一	四〇
	中旬	二六	三五	六一
	下旬	六	五	一一
十一月	上旬	九	三一	四〇
	中旬	二六	三五	六一
	下旬	六	五	一一
計				二七五

(備考) 本表ハ戰地入院患者中帶患入隊者十四、他病ヨリ轉症十六ヲ除外シタル數ナリ

發病時ノ境遇及勤務ノ狀況 發病時ノ境遇及勤務ノ狀況ハ八十三例ノ患者ニ就キテハ行軍中ニ起リタルモノ最多ク露營揚陸作業輸送業務等主トシテ立業時ニ於テ發現シタルモノ比較的多數ヲ占メタリ之ヲ表示スレハ左ノ如シ

歩哨	彈藥庫掘鑿	行軍
揚陸作業	一六	三
遭難船救助	二	二
	輸送業務	露營
		計
		八三

廣島衛戍病院ニ於テ收容患者百十五ニ就キテ原職及發病當時ノ作業狀態ヲ調査シタルニ患者ノ八八七〇%ハ發病時立業ニ從事シタル者ニシテ就中五九・一三%ハ原職ニ於テ既ニ立業ニ慣習ヲ有シ發病時亦立業ニ從事シタル者二九五七%ハ當時ノ原職主トシテ坐業ヲ採レル者ニシテ發病



時ノ作業立業ニ屬セシ者ナリキ  
又同院ニ於テ收容患者七十五ニ就キテ發病前ニ於ケル被服乾濕ノ状態竝ニ發病時及其ノ以前ニ居住シタル土地ノ狀況ヲ調査シタルニ患者ノ三分ノ二ハ被服濕潤状態三分ノ一ハ乾燥状態ニアリシ者又三八六八%ハ海岸二二六八%ハ山地ニ居住セシ者ナリキ  
更ニ同院ニ於テ收容患者百十五ニ就キテ宿營ノ状態ヲ調査シタルニ患者ノ三分ノ二ハ露營三分ノ一ハ舍營シタル者又三分ノ二ハ濕潤地三分ノ一ハ乾燥地ニ宿營シタル者ナリキ

### 第四節 症 候

#### 第一 病 型

一般ノ症候及經過ヲ按シ本病ヲ初期(未熟性)萎縮性浮腫性急性惡性ノ四類ニ分チ左ニ各病型ノ症候ヲ記述スヘシ

未熟性

初期(未熟性) 下肢倦怠重感、知覺異常或ハ鈍麻膝關節萎弱、步行困難程度ノ浮腫、腓腸部緊滿握痛、食慾不振、胃部膨滿便秘、心悸亢進等ヲ主症候トシ他型ノモノト大差ナキモ其程度概シテ輕易ニシテ浮腫ハ多クハ數日ニシテ消退シ知覺鈍麻ノ領域ハ比較的廣汎ナリシモノアルモ概シテ下腿ニ限局シタルモノ多ク且其ノ度甚シカラス運動麻痺亦輕易ニシテ多ク下腿ニ來リ稀ニ步行不能トナリタル者アルモ概シテ步行困難ヲ訴ヘ心悸亢進ハ身體動作ノ際ニ於テ自覺セシ者多ク其ノ他脚氣通有ノ症候ヲ具備セサルモノアリ經過亦時ニ遷延シタルモノアルモ概シテ短日數ニシテ治癒シタルモノ多シ要スルニ一般ノ症狀輕易ニシテ本戰役間ニ於ケル脚氣ノ大部分ハ本型ニ屬シタリ

#### 症例第一 未熟性

航

空

陸 工兵二等卒

長谷 某

十八歳ノ時脚氣ニ罹リ三箇月間醫藥ニ依リ治セリ本症ハ十月十四日ヨリ流亭ニ於テ足及下腿ニ知覺異常ヲ發來シ腓腸筋痛アリ歩行困難トナリ翌十五日(發病第二日)受診第五日入院當時全身羸瘦、眼窩陷沒、皮膚蒼白、心悸僅ニ亢進、脈搏九十至ヲ算シ食慾不振、惡心嘔吐アリ足及下腿知覺鈍麻殊ニ左ニ著明、左指亦知覺異常アリ腓腸筋握痛アリテ歩行困難ヲ訴フ膝蓋腱反射左殆ト消失右減退ス入院第三日(發病第七日)諸症全ク消散シ翌日治癒退院

#### 症例第二 未熟性

知覺障礙程度——運動障礙ナシ——初メ浮腫アリ暫時ニシテ消退——經過短日數——治癒ノ例

第 二 陸 上 輸 卒 陸 輸 卒 益本 某

脚氣ノ既往症ナシ本症ハ九月十日新城ニ於テ兩下腿濕疹様物ヲ生シ浮腫ヲ呈シ翌十一日(發病第二日)受診同日入院當時體格榮養共ニ佳良、兩下腿帽針頭大ノ膿疱疹多發、下腿一般ニ浮腫、膝部以下知覺鈍麻、腓腸筋握痛著明、膝蓋腱反射亢進、心尖第一音稍旺、盛脈搏六十六至ヲ算ス第九日膿疱疹落屑ト共ニ浮腫全ク去リ第十九日心悸亢進アリ第二十日知覺鈍麻ハ下腹部以下ニ進ミ膝蓋腱反射全ク消失脈搏七十五至ヲ算ス第二十二日以後諸症全ク去リ第二十六日治癒退院

#### 症例第三 未熟性

知覺運動障礙高度——浮腫ナシ——經過遷延——治癒ノ例

第 二 糧 食 縱 列 輸 卒 木村 某

前年六月脚氣ニ罹リタルコトアリ本症ハ九月十日ヨリ龍口附近ニ於テ兩下腿倦怠次テ心悸亢進、胃部停滯ノ感アリ同十二日發病第三日(受診第五日)入院當時體格中等、榮養不長、兩下腿輕度ノ知覺鈍麻、腓腸筋握痛アリ、心悸亢進シ脈搏九十三至ヲ算ス胃部停滯、食慾不振、便秘、時々咳嗽、喀痰アリ肩胛間部ニ笛聲ヲ聽キ體溫三十八度一分ヲ呈ス爾後症狀漸次進行シ第十二日膝蓋腱反射消失第十四日腰部以下知覺鈍麻アリ脈搏百五至ヲ算ス第二十一日遷延、知覺鈍麻ハ心窩部以下ニ及ヒ赤手ニ來リ脈搏ハ減シテ八十五至トナリタルモ肺動脈音稍不純トナル第二十二日步行全ク不能トナリ第三十七日杖ニ倚リ僅ニ歩行スルコトヲ得第四十五日杖ニ倚ラスシテ僅ニ獨歩スルコトヲ得ルニ至リ知覺鈍麻ハ第四十九日鼠蹊部以下トナリ第七十六日膝部以下トナリ第九十五日全ク去リ膝蓋腱反射ハ第七十日ヨリ現出シ第百八日尋常ニ復



シ又第八十四日以後脈搏七十二至内外トナリ第百一日以後脈歩可能トナリ心悸亢進全ク去リ第百十八日治癒退院

萎縮性

萎縮性 初期ハ未熟性ノ症候ヲ以テ初マリ漸次進行シテ知覺鈍麻及運動障礙共ニ比較的高度ニ達シ下腿筋或ハ甚シキハ全身筋肉ノ瘦削ヲ來シ歩行不能ニ陥リ又往々上下肢ノ關節強剛ヲ來セシモノアリ稀ニ初期ノ症候ヲ呈セスシテ卒然四肢ノ知覺運動麻痺ヲ呈シ漸次進行スルモノアリテ經過概シテ遷延セルモ浮腫及心臟症候ハ他型ノモノニ比シテ概シテ輕易ナリ

症例第四 萎縮性 知覺運動障礙高度—上下肢關節強剛—浮腫ナシ—下肢筋肉瘦削—經過遷延—治癒ノ例

第一 陸 上 輪 卒 除 輪 卒 永 潤 某

脚氣ノ既往症ナシ本症ハ九月二十日龍口ニ於テ食慾不振、心悸亢進、兩下腿麻痺ノ感ヲ起シ腓腸部ノ緊滿ヲ來シ同二十五日(發病第六日)受診第九日入院、當時體格榮養共ニ中等、心音一般高調肺動脈第一音不純第二音旺盛心悸亢進シ易ク脈搏百十至ヲ算ス下腿僅ニ鈍麻脱力ノ感アリテ歩行困難、腓腸筋痙攣アリ膝蓋腱反射消失ス入院ノ翌日(發病第十日)知覺鈍麻ハ下腹部以下ニ達シ第二十日遷延知覺鈍麻ハ胸部以下ニ進ミ更ニ上肢ニ於テ肘關節以下ニ鈍麻ヲ來シ下腿筋瘦削ス第二十六日知覺鈍麻ハ稍減シテ心窩部以下トナリタルモ手及下腿ニ高度ノ運動麻痺ヲ來シ指關節及足關節強剛ス第四十五日以後脈搏七十至内外トナリタルモ第五十一日歩行全ク不能トナリ第六十九日僅ニ歩行スルヲ得ルニ至リ第八十一日以後知覺鈍麻ハ下腹部以下トナリ下肢筋ノ瘦削ハ恢復シ第八十四日腓腸筋痙攣去リ第八十七日心音尋常ニ復シ第九十五日膝蓋腱反射尋常トナリ第九十七日治癒退院ス

症例第五 萎縮性 知覺運動障礙輕度—初メ浮腫アリ暫時ニシテ消退—全身筋肉瘦削—經過中等度—治癒ノ例

第十 二 陸 上 輪 卒 除 輪 卒 坂 井 某

脚氣ノ既往症ナシ本症ハ九月十八日西河庄ニ於テ身神違和、食慾不振、下腿浮腫、知覺鈍麻、歩行萎弱ヲ來シ同月二十三日(發病第六日)受診第十三日入院、當時體格中等榮養不良、心尖音稍不純、脈搏七十二至ヲ算シ關節以下及下腹部以下兩下肢全數ニ亙リ知覺鈍麻アリ膝蓋腱反射消失シ下腿筋肉稍瘦削ス第十四日脈

搏九十至ヲ算ス第二十二日遷延、第二十七日以後脈搏七十至以内ニアリ第三十五日知覺鈍麻減シ大腿中央以下及指尖ニ限局セルモ全身ノ筋肉瘦削ス第四十六日膝蓋腱反射現出シ第五十八日知覺鈍麻全ク去リ翌第五十九日治癒退院

症例第六 萎縮性 知覺運動障礙高度—關節強剛—初メ浮腫アリ暫時ニシテ消退—四肢筋肉瘦削—經過稍遷延—治癒ノ例

架 橋 從 列 輪 卒 江 越 某

脚氣ノ既往症ナシ本症ハ八月三十一日出征途上船内ニ於テ下腿浮腫アルニ心付キ九月五日(發病第六日)上陸後降雨ニ遭ヒ且ツ低濕ノ海邊ニ露營シタルニ急ニ増悪シ第七日受診第八日入院、當時體格榮養共ニ佳良、顔貌僅ニ浮腫狀ヲ呈シ上下肢ノ末梢部知覺鈍麻アリ膝蓋腱反射亢進シ脈搏八十二至ヲ算ス第九日心濁音界上ハ第三肋間右ハ胸骨右緣左ハ乳線ニアリ肺動脈第二音旺盛ナリ第十日浮腫全ク去ル第十四日前膊及肘部以下兩下肢ニ亙リ知覺鈍麻アリ上下肢筋肉著明ノ瘦削ヲ呈シ指ハ著シク運動麻痺アリテ恰モ擔骨神經麻痺ノ狀ヲ呈ス第十六日遷延、第十七日知覺鈍麻ハ口唇、上肢及肘部以下ニ進ミ心濁音界右ハ胸骨右緣左ハ乳線外一指横徑ニ達シ肺動脈第二音高調、股動脈音騾鳴ヲ聽キ膝蓋腱反射減退シ腓腸筋痙攣強シ第十九日平流電氣ニ對シ左右腓骨神經ハ全變質反應ヲ呈ス第二十五日前膊及下腿運動麻痺ノ爲起居自由ナラス第二十七日足關節背屈全ク不能第三十二日膝蓋腱反射全ク消失シ下腿運動麻痺稍輕快シ杖ニ倚リ歩行スルコトヲ得ルニ至ル第三十七日知覺鈍麻ハ心窩部以下ニ達シ指及下腿運動麻痺アリ僅ニ獨歩スルコトヲ得第四十一日知覺鈍麻ハ減シテ肘部以下トナリ第五十日手及大腿以下トナリ歩行亦確實トナリ第五十四日電氣ニ對シ腓骨神經及筋共ニ不全變質反應ヲ呈スルニ至ル第六十五日膝蓋腱反射尋常第六十九日心濁音尋常ニ復シ腓腸筋痙攣去リ第八十六日治癒退院

浮腫性

浮腫性 主症候ハ全身ノ浮腫ニシテ初メ下腿ニ來リ漸次進行シテ四肢、軀幹ニ及ヒ稀ニ顔面ニ來ルモノアリ而シテ知覺運動障礙ハ前二型ニ比シテ概シテ輕ク之ニ反シ心臟ノ症候強ク心濁音界擴張、心音變調、心悸亢進、胸内苦悶ヲ呈シタル者多シ而シテ經過中ニ於ケル各症候ヲ觀察シ全身稍高度ノ浮腫ヲ呈シタルモノニ限リ本型ニ算入シ假令浮腫ヲ呈スルモ輕度ニシテ他ニ重キ症候ヲ呈セシモノハ何レモ夫レニ適スヘキ病型ニ算入セリ從テ本病型ニ屬セシメタルモノハ甚タ少



數ナリ

症例第七 浮腫性

知覺障礙高度—運動障礙程度—心臟症狀高度—全身浮腫高度—胸水、腹水

—經過稍遷延—治療ノ例

步兵 第四十八聯隊 上等兵 井波 某

七年前脚氣ニ罹リタルコトアリ本症ハ九月二日出征途上船内ニ於テ下腿知覺鈍麻アリ上陸後降雨中ニ行軍シタリシニ下腿及兩手背浮腫ヲ呈シ心悸充進、胸内苦悶アルヲ以テ同月六日(發病第五日)受診同日入院當時體格榮養共ニ佳良ニシテ兩下腿及兩手背ニ中等度ノ浮腫アリ該部知覺亦鈍麻シ脈搏軟小ニシテ九十四至ヲ算シ胸内苦悶心悸充進甚シクシテ心尖第二音雜音ヲ聽ク第七日大動脈第二音、心尖第一音亦雜音ヲ聽キ咳嗽アリテ喀痰ナシ第八日心尖搏動左乳線ヨリ一指横徑外方ニアリ心尖雜音胸内苦悶心悸充進著シクシテ脈搏百二至ヲ算シ浮腫ハ増加シテ下腿、大腿、手背、前膊及顔面ニ及テ第十六日浮腫益増加シ顔面及胸背ニハ輕度ナルモ腹部以下甚シク高度ニシテ體動困難、心臟症狀益著明トナリ膝關節痛ヲ訴ヘ尿量減ス第二十日前胸内苦悶稍輕快セルモ浮腫ハ益増加シ陰囊及包皮亦著明ニ浮腫ヲ呈シ肘關節痛ヲ訴テ第二十四日右胸下部濁音ヲ呈シ呼吸音減弱ス腹部亦濁音ヲ呈シ波動アリ(胸水、腹水胸内苦悶ノ爲仰臥位ヲ取ル能ハス知覺鈍麻ハ下腹部以下ニ達シ膝蓋腱反射消失ス第二十七日多量ノ排尿アリ浮腫大ニ減シタルモ陰囊水腫及下腿ノ浮腫尙著明ナリ第二十九日還送、知覺鈍麻ハ前膊手背及心窩部以下兩下肢ニ蔓延シ上下肢ノ諸筋ニ疼痛ヲ訴ヘ膝蓋腱反射減退シ浮腫ハ下腿ニ於テ輕度ニ存スルノ他消退ス第四十五日知覺鈍麻ハ減シテ手尖及下腹部以下トナリ指及下腿ノ運動麻痺アルモ僅ニ獨歩スルコトヲ得ルニ至リ浮腫全ク消退シ第八十一日治療退院

急性惡性

急性惡性 初メ中等度ノ浮腫ヲ呈シタルモノ、初メヨリ下腿筋肉瘦削ヲ呈シタルモノ及惡寒發熱ヲ以テ發病シタルモノ各一例アリ何レモ知覺運動障礙未タ高度ニ達セサルニ先チ險惡ナル心臟症候ヲ呈シ急速ノ經過ヲ以テ死亡セリ

症例第八 急性惡性

浮腫中等度—知覺障礙輕度—運動障礙ナシ—心臟症狀強劇—經過急速—死亡ノ例

野戰電信隊 輪卒 白石 某

脚氣ノ既往症ナシ本症ハ九月五日龍口ニ上陸當時ヨリ下肢倦怠、知覺鈍麻ヲ感シ心悸充進著シカリシモ勤務履行中心悸充進、呼吸促進ノ爲行軍ニ堪ヘサルニ至リ同月十日(發病第六日)受診同日入院當時體格榮養共ニ佳良、胸内苦悶、呼吸促進ノ爲苦悶シ兩下腿ヨリ足背ニ互リ中等度ノ浮腫ヲ呈シ知覺鈍麻アリ脈搏細小不正ニシテ百二十至ヲ算シ心尖第一音大動脈第二音共ニ雜音ヲ聽ク第七日腓腸筋疼痛強クシテ步行全ク不能第八日午前三時頃ヨリ胸内苦悶益劇シテ尿閉ヲ來シ「カテーテル」ヲ以テ探尿セシニ同時ニ粘液便ヲ下痢シ心音一般ニ雜音、脈搏細小ニシテ殆ト觸知スル能ハス呼吸促進四十至ヲ算シ兩下肢全部、兩手掌、顔面ニ一般浮腫ヲ呈シ下腹部以下一般知覺鈍麻シ同日午後六時在院僅々三日ニシテ死亡

症例第九 急性惡性

下腿筋瘦削—知覺障礙輕度—運動障礙ナシ—心臟症狀強劇—經過急速—死亡ノ例

第三水上輪卒 輪卒 内山 某

脚氣ノ既往症ナシ本症ハ九月十四日出征途上船内ニ於テ身神違和、食慾不振、兩下腿知覺鈍麻ヲ感シタルモ當時船内ニ軍醫ノ乗組ナカリシ爲適當ノ治療ヲ得ス同月十九日勞山灣ニ上陸セシモ當時ノ戰況人馬、貨物ノ揚陸ヲ急キシヲ以テ靜養スルノ暇ナク直ニ揚陸作業ニ從事セシニ翌二十日(發病第七日)ニ至リ諸症増惡セシヲ以テ受診第八日入院當時體格榮養共ニ中等顔貌蒼白色ヲ呈シ脈搏細軟ニシテ九十五至ヲ算シ心尖搏動第六助間ニ於テ濁音ニ觸レ心濁音界左方ニ擴張シ心音一般疾速ニシテ不純、兩膝關節以下知覺鈍麻シ膝蓋腱反射消失、腓腸筋瘦削シテ握痛著明ナリ第十二日頃ヨリ胸内苦悶ヲ呈シ脈搏百四至ヲ算シ第十四日病院船ニ轉送内地還送ノ途中胸内苦悶劇增、脈搏細軟不正ニシテ百二十至ヲ算シ症狀漸次險惡トナリ第十八日宇品港ニ於テ船内ニテ死亡

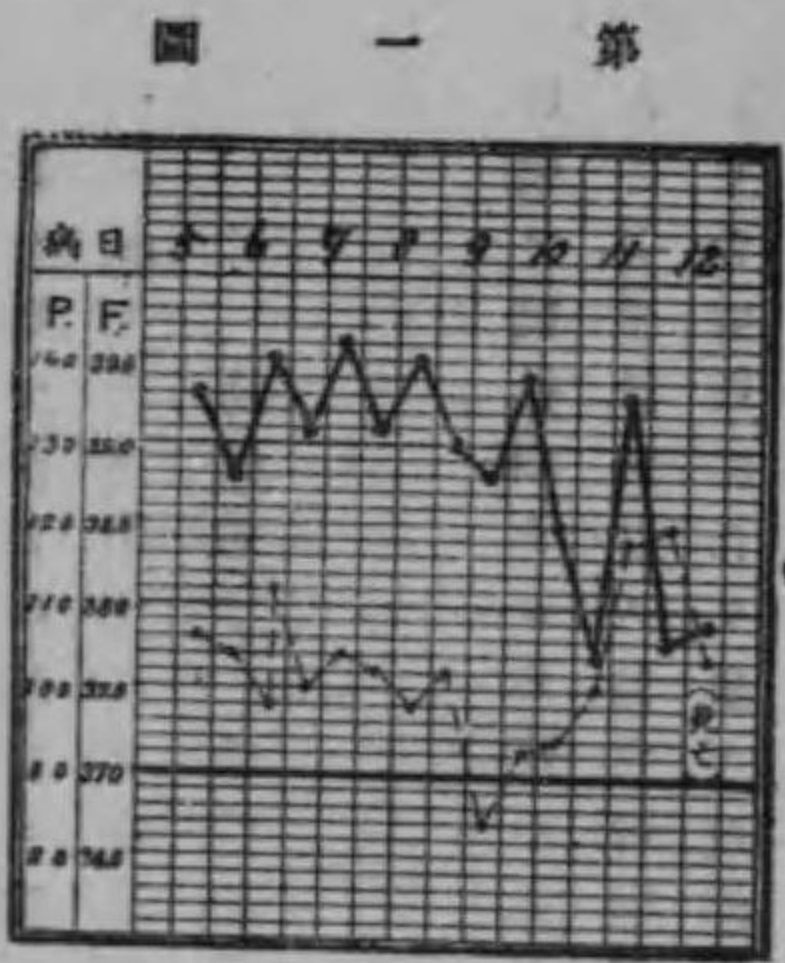
症例第十 急性惡性

惡寒發熱—室扶私樣症狀—知覺障礙中等度—運動障礙ナシ—心臟症狀、胸症狀強劇—經過急速死亡ノ例(第一圖參照)

野戰重砲兵第三聯隊 三等計手 竹中 某

脚氣ノ既往症ナシ本症ハ九月二十三日西哥庄ニ於テ全身違和、惡寒發熱、心悸充進ヲ來シ翌二十四日(發病第二日)受診同日入院當時體格佳良榮養中等顔貌苦悶狀ヲ呈シ體温三十九度脈搏稍軟弱ニシテ百八至ヲ算シ舌糜爛紅色ヲ呈ス頭痛、眩暈全身倦怠、惡心アリ腹部緊滿シ口唇指、下腿及兩下腿知覺鈍麻アリ右肺尖打診抵抗アリテ呼吸音微弱心悸充進アリ心尖音及肺動脈第二音共ニ充進、膝蓋腱反射消失、腓腸筋握痛ア





リテ便秘ス第六日胸部ニ數箇ノ蕈疹ヲ發生シ肝臟脾臟共ニ腫大シ舌乾燥厚苔ヲ衣シ百脈部雷鳴アリ第九日知覺鈍麻ハ下腹部及兩大腿前脚、口唇ニ及ヒ頭痛劇甚、口渴強クシテ口渴乾燥シ蕈疹ハ胸背部ニ著明ニ發生シ體温三十九度内外ニ稽留ス第十日以後心臟各瓣口ニ雜音ヲ聽キ第十二日脈搏重複性ニシテ百二十至ヲ算シ脚氣強ク意識ヲ發シ不語呻吟シ轉輾反側操攪床シ同夜遂ニ死亡

本患者ハ單純脚氣ニアラスシテ腸室扶私ヲ併發シタルカ或ハ寧ろ腸室扶私カ主症ニシテ之ニ脚氣ヲ併發シタルニアラサルカヲ疑フモ經過中腸室扶私及「バラチフス」ニ就キテ數回ノ檢索ヲ行ヒタル結果何等得ル所ナカリキ或ハ異例ノ脚氣ナリシヤ暫ク記シテ後日ノ參考ニ資セム

罹病率別

上記ノ分類法ニ從ヒ病型別ニ其ノ罹病率ヲ求ムルニ左表ノ如ク大部分ハ未熟性ニシテ他型ニ屬スルモノハ唯タ一小部分ニ過キス殊ニ浮腫性及急性惡性ノ全部竝ニ萎縮性ノ殆ト全部ハ何レモ戰地入院者ノミニシテ内地入院者ニナシ

病型	入院地		内地		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
未熟性	二六四	八六・五六	五〇	九八・〇四	三一四	八八・二〇
萎縮性	二七	八・八五	一	一・九六	二八	七・八六
浮腫性	一一	三・六一	一	一・九六	一一	三・〇九
急性惡性	三	〇・九八	一	一・〇〇〇	三	〇・八四
計	三〇五	一〇〇・〇〇	五一	一〇〇・〇〇	三五六	一〇〇・〇〇

戰地入院者ノ病型別

更ニ戰地入院者ニ就キテ其ノ轉歸地別ニ病型ヲ觀ルニ戰地内地共ニ未熟性大部分ヲ占メタルモ就中萎縮性及浮腫性ノ大部分ハ内地轉歸ニシテ急性惡性ハ戰地轉歸多カリキ

病型	戰地		内地		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
未熟性	四四	一四・四三	二二〇	七二・一三	二六四	八六・五六
萎縮性	二	〇・六六	二五	八・二〇	二七	八・八五
浮腫性	一	〇・三三	一〇	三・二八	一一	三・六一
急性惡性	二	〇・六六	一	〇・三三	三	〇・九八
計	四九	一六・〇七	二五六	八三・九三	三〇五	一〇〇・〇〇

病型別浮腫發症數

以上ノ如キ病型別ノ比例ヲ見タルモ更ニ各病型別ニ經過中浮腫ヲ發呈シタルモノト否ラサルモノトニ大別スレハ半數以上ニ於テ浮腫ヲ發呈シタルコト左表ノ如シ而シテ其ノ發現ノ時期程度及持續等ニ就キテハ「第十皮膚ノ項浮腫」ノ條下ニ詳記スヘシ

病型	浮腫アリシモノ		浮腫ナカリシモノ		計	
	員數	%	員數	%	員數	%
未熟性	一七七	五六・三七	一三七	四三・六三	三一四	一〇〇・〇〇
萎縮性	一四	五〇・〇〇	一四	五〇・〇〇	二八	一〇〇・〇〇
浮腫性	一一	一〇〇・〇〇	二	六六・六七	一三	一〇〇・〇〇
急性惡性	一	三三・三三	一	四三・九八	二	一〇〇・〇〇
計	二〇三	五七・〇二	一五三	四三・九八	三五六	一〇〇・〇〇

轉型別 病型ニ別テ轉歸左表ノ如シ

病型	治癒		死亡		轉歸		事故		計	
	員數	%	員數	%	員數	%	員數	%	員數	%
未熟性	二六九	八五・六七	一	一・三五	八	二・五五	三七	一一・七八	三一四	一〇〇・〇〇







響ヲ受ケスシテ發熱シタルモノナシ

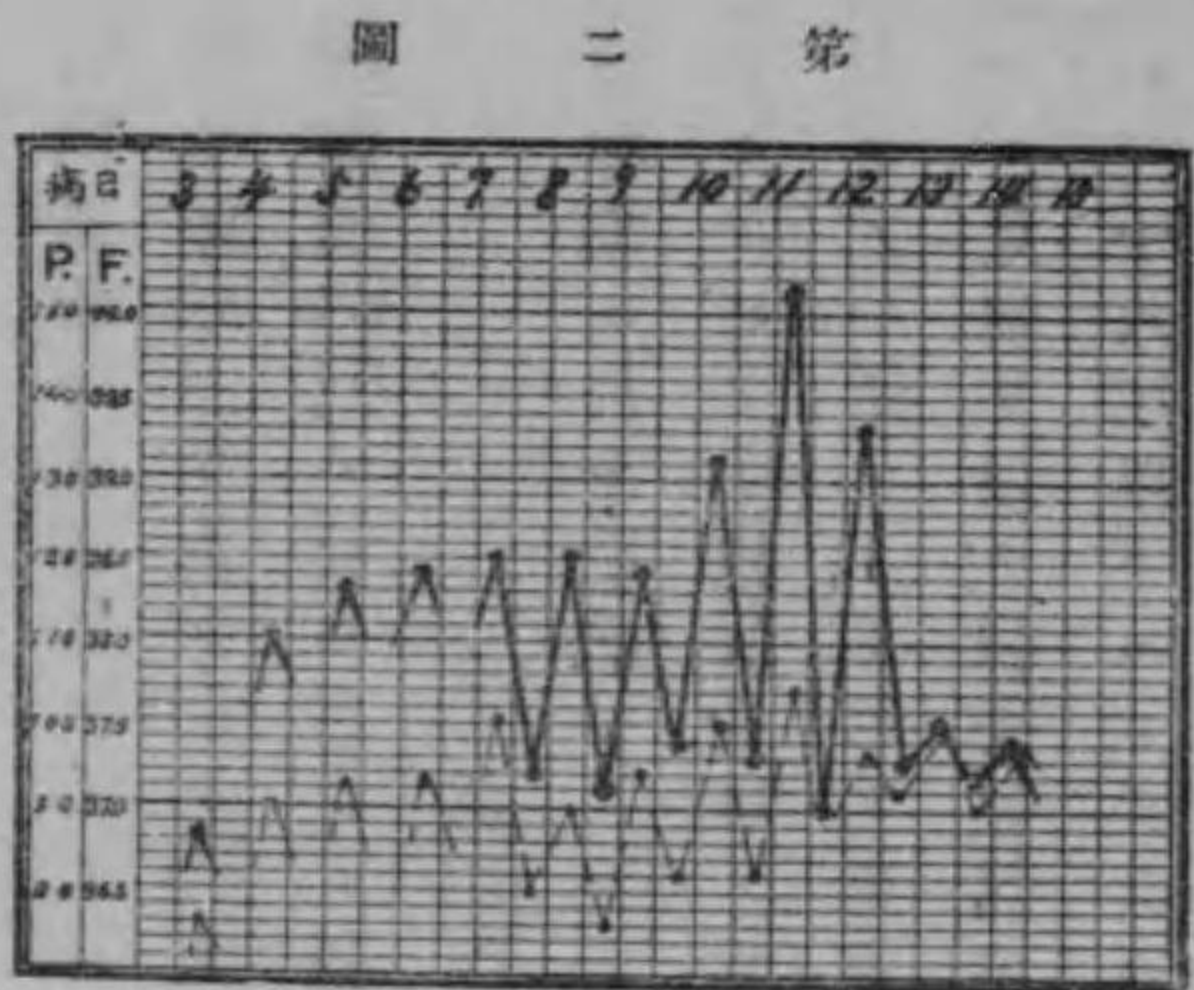


圖 二 第

症例第十一 惡寒戰慄—弛張性高熱—治癒ノ例(第二圖參照)

三年前脚氣ニ罹リタルコトアルモ前年ハ發熱セザリキ本症ハ九月五日頃ヨリ龍口ニ於テ兩下腿ニ浮腫ヲ來シ六日夜(發病第二日)浮腫増加シ歩行自由ナラス惡寒戰慄アリテ發熱ヲ感シタリシカ翌朝稍輕快セシモ七日(第三日)夕刻再ヒ惡寒戰慄ノ後發熱ノ感アリ心忪甚シク尤通シ胸内苦悶ヲ起セシヲ以テ受診同日入院當時體格榮養共ニ中等顔貌蒼白色舌薄苔ヲ衣ス心濁音界上ハ第三肋間右ハ胸骨右緣左ハ乳線外一指横徑ニアリ心尖及肺動脈第一音稍不純兩下腿ノ浮腫ハ中等度ニ存シ膝蓋腔反射稍尤進腓腸筋痙攣アリ體温三十六度八分脈搏七十六至ヲ算ス第四日以後毎日午前中平温ニアリテ午後七時頃ニ至リ惡寒戰慄ニ次テ高熱ヲ呈スルコト約二週間反覆シ第十五日以後平温ニ復シ(中略)第二十六日退院、第五十二日治癒退院

第五 神經系及五官器

頭重頭痛 ヲ發シタル者四十二〇%一八%アリ其ノ内頭重ニ止マリシ者十一三%頭痛ヲ訴ヘタル者三十一・八%即チ腦症狀中最多キ症ニシテ初期既ニ之ヲ訴ヘタル者アルモ多クハ經過中ニ發現セリ

眩暈 ヲ發シタル者ハ頭痛ニ次テ多ク其ノ數二十・五%ヲ算シ其ノ三分ノ一ハ既ニ初期ニ於テ發シ其ノ他ハ經過中ニ發現セリ

意識障礙 ヲ發シタル者二〇%五%其ノ内一ハ室扶私様症狀ヲ呈シタル急性惡性ノ末期ニ於テ意識全ク濁濁シ頻リニ譫語ヲ發シ不斷呻吟轉輾反側撮空摸床同日死亡シ 一參照第十一ハ未熟性重

症ニシテ氣管支炎ヲ兼發シタルモノノ初期ニ於テ意識ノ濁濁アリ言語ヲ發セス且ツ兩便ノ失禁アリ數日ノ後消散セシモノナリ 四參照第十

不眠症 ヲ發シタル者五〇%何レモ未熟性ノ經過中ニ來リ稍頑固ナルモノアリタルモ暫時ニシテ恢復セリ

尿閉 急性惡性ノ末期ニ於テ浮腫高度トナリ尿閉ヲ發シカテトテルヲ以テ導尿シ其ノ翌日死亡シタル者一例アリ 九參照第九

症例第十二 卒倒—意識濁濁—兩便失禁—治癒ノ例

第五 陸 上 輪 卒 陸 卒 福田 某

十月三日即暈ニ於テ眩暈アリテ卒倒シ暫時ニシテ恢復セシカ其ノ時ヨリ歩行ノ自由ヲ缺キ發語不明瞭トナリ咽頭部ニ灼熱ノ感アリ嚙下ニ支障ナク翌日ハ宿舍ニアリテ靜養セシカ獨歩全ク不能トナリ指及足尖知覺異常、ビリビリスル感ヲ來シ其ノ翌日發病第三日(受診同日)入院當時指ハ知覺、運動共ニ麻痺シ鉤ヲ脫スルサヘ甚タ困難ヲ感シ歩行亦困難ニシテ發語ニ支障アリ且右前胸部ニ氣管支炎症狀アリテ體温四十度ヲ呈シ脈搏百十五ヲ算ス同日夕體温四十度五分ニ達シ第五日胸部他覺的症狀去リ唯咳嗽アルノミトナリタルモ兩下肢知覺鈍麻アリテ歩行全ク不能ニシテ膝蓋腔反射消失シ意識濁濁シテ時々不明ノ言ヲ發シ兩便ノ失禁ヲ來シ第六日脈搏微弱ニシテ時々結滯シ體温尙三十九度三分乃至三十九度八分ノ間ニ昇降ス第七日平温ニ復シタルモ其他ノ症狀依然トシテ去ラス第八日脈搏結滯止ミ其ノ數百二十至ヲ算シ第九日失禁止ミ意識明瞭トナリ第十一日脈搏七十八至トナリ尿中デアアツオ反應陽性第二十一日退院、第二十三日知覺鈍麻ハ口唇、上膊及兩大腿以下ニ達シ膝蓋腔反射尤進シ第二十五日徐々ニ獨歩スルコトヲ得ルニ至リ膝蓋腔反射尋常ニ復シ第二十七日咳嗽全ク止ミ第三十九日知覺鈍麻全ク去リタルモ輕度ノ歩行障礙ト心音ノ高調ヲ呈シ長日數間在院加療ノ後百十一日治癒退院

運動麻痺 上肢運動麻痺ヲ呈シタル者十五(指八、手一、手及前膊三)、下肢運動麻痺ヲ呈シタル者ハ上肢ニ比シテ著シク多數ニシテ其ノ數二百四十九(四六六%九)ヲ算シ其ノ起ルヤ最初多クハ下肢倦怠







膝蓋腱反射消失シニ頭部筋腱反射尋常ナリ膀胱直腸障礙ナシ以上ノ諸症ハ左右ヲ比較スレハ左側ニ於テ強シ第二十三日趾及足關節強剛シテ内臓馬足狀ヲ呈シ他力ニ依ルモ伸展不能トナリ第二十八日運動筋及前脚ノ筋肉ニ壓痛アリ膝蓋腱反射消失シ上下肢ノ運動麻痺アリテ筋肉瘦削ス第三十一日趾及足關節強剛内臓馬足狀ヲ呈スルコト依然タリ平流電氣ニテ左側ハ全、右側ハ不全變質反應ヲ呈ス第三十三日左上肢ニモ不全變質反應ヲ呈シ握力左一、五趾右七、五趾ニ減シ第三十七日觸覺計ノ小距離大腸中央部九五密米下腹中央部一七、五密米ヲ呈ス第四十三日漸ク人ノ肩ニ倚リ歩行スルヲ得ルニ至リ第五十四日知覺麻痺ハ減シテ膝關節部以下トナリ第六十三日膝蓋腱反射現出シ第六十九日心濁音界殆ト尋常ニ復シ心音純トナリ握力現出シテ左一、五趾右一八〇趾トナリ運動麻痺輕快シテ一、二町ノ距離ヲ獨歩スルニ至リ第八十四日電氣ニ對スル反應左右共殆ト常態トナリ第九十五日知覺障礙全ク去リ膝蓋腱反射尋常ニ復シ第一百一日運動障礙全ク去リ歩行確實トナリ第一百五五日治療退院

知覺麻痺

知覺麻痺 最初知覺異常ヲ感シ漸次鈍麻シ或ハ最初ヨリ鈍麻ヲ感シタル者多ク全經過中知覺全脫失者ハ一モナク知覺鈍麻ハ三百三十七九四・六ヲ算シ單ニ知覺異常ノミヲ訴ヘタル者十三三六・五全ク知覺障礙ナカリシ者六九・六ニ過キス  
知覺鈍麻最高度ニ達シタル時期ニ於テ其ノ領域ヲ調査スルニ單ニ下腿下腿及足部ノ後サレタルモノ若クハ若ニ限局シタルモノ最多ク七二・四腹部及下肢三一・六大腿下腿八二・〇等之ニ亞ケリ之ヲ身體各部ノ比例ニ求ムレハ左表ノ如シ

部位	員數	百分比
下部肢	三三七	九四・六六
上部肢	一二四	三四・八三
腹部	一六五	四六・三五
胸部	六	一・六九

顔面

五〇

一四・〇四

知覺障礙ノ發現ハ運動障礙ヨリモ概シテ早ク發病後一週間以内八二・一六%殊ニ發病第一日七〇・二七%ヲ算シ二週間以後ニ於テ發現シタルモノハ頓ニ其ノ數ヲ減シ最遲モノモ二十四日以内ニ發現セリ

發現病日	未熟性	萎縮性	浮腫性	急性惡性	計
一週間以内	一二九	一六	四	三	一五二
二週間以内	一七	四	一	一	二一
三週間以内	八	一	一	一	一〇
四週間以内	一	一	一	一	二
計	一五五	二一	六	三	一八五

(備考) 單ニ知覺異常ノミヲ訴ヘタル者ヲ含マズ

又知覺障礙初發部位ノ最多キハ下肢七九・二ニシテ殊ニ下腿ニ初發シタルモノ七二・七三%ヲ算シタリ然レトモ上下肢同時或ハ下肢ト顔面ニ初發シ間々上下肢ト顔面ニ初發シ其ノ初發部位各獨立セルコトヲ推測セシムルモノアリ身體各部ノ末梢ヨリ漸次中樞ニ向テ進行シ恢復ハ之ニ反シタルハ運動麻痺ニ於ケルト同シ其ノ恢復時期ハ患者二百三十七例ノ調査ニ據レハ最早キハ發病第四日最遲キハ第九十八日ニシテ第四週乃至第七週ノモノ最多ク五八・六一般ニ運動麻痺ニ比シテ速カナリキ

知覺異常 知覺異常ハ概ネビリノスル感灼熱ノ感蟻走様ノ感等ニシテ往々知覺鈍麻ノ前驅トシテ初期ニ現ハレ或ハ經過中之ニ隨伴シ稀ニ恢復期ニ至リ鈍麻去リテ後異常ヲ感シタル者ア



リ其部位ハ下肢殊ニ下腿ニ多ク腹部指等之ニ亞ケリ  
知覺過敏 筋壓痛ハ殆ト必發症ト認ムヘク殊ニ腓腸筋ニ於テ最多ク八七・七 大腿筋一六・二 及上肢  
ノ諸筋六・二之レニ亞ケリ

筋痛

筋痛 筋ノ自發痛ヲ呈シタル者十八五・〇 下肢筋十二・八(腓腸筋振擧ノ爲疼痛ヲ) 上肢筋一八・二 上  
下肢筋四二・一 軀幹筋軀幹及下肢筋軀幹及上下肢筋各一トス

神經痛

神經痛 戰傷及赤痢ヨリ轉症シタルモノニ於テ各一例坐骨神經痛ヲ發シタリ  
關節痛 之ヲ發シタル者二十二五・六 最多キハ膝關節一ニシテ足關節上肢各關節二腕及足關節指  
及膝關節肩肘及膝關節肘及膝關節膝及腕關節各一等ナリ

反射機

膝蓋髓反射 全經過中ニ於テ消失セシモノ最多ク五・六九 亢進二・八一 減弱六・四九 等之ニ亞キタ  
リ而シテ病ノ初期ニアリテハ亢進セルモノ最多ク減弱消失等順次之ニ亞キ間々尋常或ハ左右不  
同ナルモノアリキ中期及後期ニ至リテハ消失セルモノ最多キモ亢進セルモノ尙約三分ノ一ヲ算  
シ亦此期ニ於テモ尋常或ハ左右不同ナルモノアリキ恢復期ニ入り諸症ノ輕快ト共ニ膝蓋髓反射  
ノ漸次尋常ニ復シタルモノ約四分ノ一ニ達シタルモ尙消失セルモノ最多ク亢進セルモノ亦約五  
分ノ一ヲ算シタリ各期ニ於ケル膝蓋髓反射ノ狀態左表ノ如シ

	初 期	中 期	恢 復 期
亢 進	三六・八四	三一・八八	二〇・六七
減 弱	三一・五八	一六・六七	一六・八三
消 失	二三・六八	四八・二九	三五・一〇
尋 常	三・五一	二・一七	二四・〇四

左 右 不 同

四・三九

一・〇九

三・三七

(備考) 本表ハ調査シタル患者初期百十四中期二百七十六恢復期二百八ニ對スル百分比例ナリ

其他ノ反

其他ノ反射 之カ記事ハ甚タ稀ニシテ中期ニ於テアキリス髓反射亢進 一消失 五 舉墨筋反射亢  
進ニ減弱 一消失 一腹壁反射亢進 一減弱 一頭膊筋髓反射亢進 一等ノ記事ヲ散見セリ

五 官 器

視器 病ノ中期ニ於テ輕キ夜盲ヲ發シタル者一及結膜炎ヲ發シタル者四アリキ  
聽器 初期ニ於テ難聽ヲ發シタル者三中期ニ於テ耳鳴難聽ヲ發シタル者單ニ耳鳴ヲ發シタル  
者及中耳炎ヲ發シタル者各アリキ

第六 呼 吸 器

呼 吸 呼吸 呼吸促進ヲ呈シタル者三十二九・九 胸内苦悶ヲ訴ヘタル者八十四 〇・三六 是等呼吸障礙ヲ  
呈シタル者ニハ殆ト每常心悸亢進ヲ隨伴セリ

氣管支炎 呼吸音粗烈笛聲水泡音等氣管支炎症狀ヲ呈シタル者二十五七・〇 終ニ慢性氣管支炎  
ニ轉症セシモノ一例ノ他何レモ症狀輕易ニシテ數日乃至十數日ノ後漸次消退セリ

肺尖浸潤

肺尖浸潤 肺尖打診抵抗呼吸音粗烈呼吸延長或ハ水泡音ヲ聽取スル等肺尖浸潤ノ症狀ヲ認メ  
タル者八五・二 終ニ肺炎炎ニ轉症セシ者二肺結核ニ轉症セシ者一其ノ他ハ何レモ漸次消退セリ

軀 血

軀血 經過中軀血ヲ發セシ者二ノ内一ハ一過性ニシテ一ハ數日間持續セシモ共ニ本病ニ對シ  
惡影響アリシヲ認メサリキ

咯 血

咯血 氣管支炎症狀ヲ呈セシ者ニシテ咯痰中血液ヲ混シタル者二アリ一ハ其ノ量少ク且一過  
性ナリシモ他ノ一ハ慢性氣管支炎ニ轉症シ脚氣症狀輕快セルモ榮養著シク不良ニシテ經過中約  
五瓦乃至二十瓦ノ血液ヲ咯出スルコト數回ニ及ヒビルケ一反應陽性ヲ呈セシモ結核菌ヲ認メサ



聲音嘶啞 肺尖炎ニ轉症セシ者ノ經過中ニ於テ聲音嘶啞ヲ呈シタル者一例アリ知覺運動共ニ稍高度ノ障礙アリテ經過遷延シタル萎縮性脚氣ノ極期ニ現ハレタリ或ハ廻歸神經麻痺ニ因ルカ姑ク記シテ疑ヲ存ス

其他ノ變狀 肺水腫一例、肺氣腫二例、扁側濕性胸膜炎一例及浮腫性脚氣ノ經過中腹水ニ隨伴シテ胸水ヲ呈セシモノ一例七參照第ヲ認メタリ

第七 循環器

脈性 發熱及心臟症候顯著ナラサリシモノニアリテモ概ネ頻數疾速ナリキ稀ニ經過中一過性ニ遲脈重複脈ヲ呈セシモノ或ハ時々結滯セシモノアリキ

脈數 病症ノ輕重時期並身體ノ動靜ニ依リ一定セサルモ全經過中ニ於ケル安靜時測定ノ最多脈數ハ八十一以上百以下ノモノ半數以上ヲ占メ百一以上百二十以下ノモノ之ニ亞キ稀ニ七十以下ノモノ及百三十ヲ超エタルモノアリ之ヲ病型別ニ示セハ左ノ如シ

脈數	未熱性		萎縮性		浮腫性		急性惡性		計	
	員數	%	員數	%	員數	%	員數	%	員數	%
六〇	六〇	一九・五四	三	一〇・七一	三	二五・〇〇	—	—	六六	一八・八六
八〇	一六四	五三・四二	一七	六〇・七一	四	三三・三三	—	—	一八五	五二・八六
一〇〇	七三	二三・七八	八	二八・五七	五	四一・六七	—	—	八九	二五・四三
一二〇	一〇	三・二六	—	—	—	—	—	—	一〇	二・八六
計	三〇七	一〇〇・〇〇	二八	一〇〇・〇〇	一二	一〇〇・〇〇	三	一〇〇・〇〇	三五〇	一〇〇・〇〇

(備考) 本表外ノ患者ハ脈數詳カナラス

心悸亢進 初期ニアリテハ主トシテ體動時ニ自覺セルモ病機ノ進ムニ從ヒ安靜時ト雖モ之ヲ感スルニ至リ且呼吸促進胸内苦悶ヲ伴フコト多カリキ而シテ心悸亢進ハ殆ト本病必發ノ症候ト認ムヘク病ノ輕重病型ノ如何ヲ問ハス之ヲ發現シ患者ノ約三分ノ一ハ初期既ニ之ヲ訴ヘシカ全經過ヲ通シ其ノ數二百七十五七七・二ヲ算シタリ

心尖搏動 稍著明ナリシモノ五十三四・八其ノ位置ハ第五肋間乳線ノ内方ニ認メタルモノ大部分ナリシモ第四肋間ニ昇リシモノ一第六肋間ニ降リシモノ五乳線外ニ出テタルモノ四又瀾瀾性搏動ハ心窩搏動一等ヲ認メタルモノアリ

心音 輕症ニアリテハ何等ノ變調ヲ呈セサリシモノアリシモ多クハ一般ニ旺盛ニシテ就中肺動脈第二音ノ高調最著明ナリキ稍重症ニアリテハ心尖其ノ他各瓣口ニ於ケル心音不純トナリ或ハ雜音ヲ聽取シ稀ニ分裂性ヲ帶ヒタルモノアリ其ノ發呈ノ概況左表ノ如シ

心音區分	聽取部位		心尖		肺動脈瓣口		大動脈瓣口	
	員數	%	員數	%	員數	%	員數	%
第一 亢進	二〇	五六・二	三	〇・八四	五	一・四〇	五	一・四〇
第一 不純	一〇三	二八・九三	一八	五・〇六	二	〇・五六	—	—
第二 亢進	二四	六・七四	—	—	—	—	—	—
第二 不純	一〇	二・八一	二七	七・九七	—	—	—	—
雜音	四	一・一一	九	二・五三	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—

第五編 疾病 第五章 脚氣



音分

裂

二

〇・五六

一

〇・二八

一

〇・二八

二〇六

(備考) 一、各變調毎ニ計上セシテ表面ノ員數ハ複數ナリ  
二、%ハ脚氣患者全員ニ對スル百分比例ナリ

心濁音界

心濁音界 病症ノ増進ト共ニ心濁音界ノ擴張ヲ呈シタルモノ百二五%<sup>二八・六</sup> 右方ニ擴張シタルモノ最多ク其ノ數六十二%<sup>五八・八</sup> 左右三十二%<sup>三一・三</sup> 之ニ亞キ左方ノミニ擴張シタルモノハ最少ク十九%<sup>〇</sup>ヲ算シタリ濁音界ノ最大ナルモノハ上ハ第三肋骨下緣、右ハ胸骨右緣外一指横徑、左ハ乳線外一指横徑ニ達セリ之ヲ細別スレハ上界ハ二十二例中第三肋骨下緣一例ヲ除クノ他悉ク第三肋間ナリ右界ハ八十六例中胸骨正中線五十七%<sup>六六・二</sup> 胸骨右緣二十五%<sup>二九・〇</sup> 胸骨右緣外一指横徑四%<sup>四・六</sup> ニシテ左界ハ三十八例中乳線上十五%<sup>三九・四</sup> 乳線外〇五仙米四%<sup>一〇・五</sup> 乳線外一指横徑十九%<sup>五〇・〇</sup> ナリ

濁音界ノ擴張ヲ臨床上初認セル時期ハ八十一例中發病第二日ナルモノ最早ク第三十四日ナルモノ最遅カリキ之ヲ細別スレハ一週以内十一%<sup>一三・五</sup> 二週以内二十二%<sup>二七・一</sup> 三週以内二十四%<sup>二九・六</sup> 四週以内十九%<sup>二三・四</sup> 五週以内五%<sup>七・一</sup> ナリキ而シテ多クハ病症ノ輕快ト共ニ復舊シ恢復後擴張ヲ貽シタル例ヲ認メス

動脈

淋巴腺

股動脈音 特ニ旺盛ナリシモノ二十三%<sup>六・四</sup> 内雜音ヲ聽取セシモノ十一%<sup>三・〇</sup> ニシテ病症ノ輕重ニハ著明ナル關係ヲ見サリキ其他頸動脈ニ雜音ヲ聽取セシモノニアリキ  
淋巴腺 病ノ初期ニ於テ股腺ノ腫脹セシモノ二經過中頸腺腫脹セシモノ四、肘腺腫脹セシモノ二共ニ輕易ニシテ漸次消退セリ

第八 榮養器

舌

舌 舌苔ヲ被リシ者九十五%<sup>二六・六</sup> 内十五%<sup>四・二</sup> ハ厚苔其ノ他ハ灰白色薄苔ナリキ

咽頭

咽頭 咽頭粘膜炎發赤シ咽頭炎症狀ヲ呈セシモノ五十七%<sup>一六・〇</sup> 就中共ノ度強クシテ粘膜炎ノ著シク荒蕪セラレシモノ<sup>四</sup> 及聲音嘶啞セシモノ<sup>一</sup> アリキ

扁桃腺

扁桃腺 扁桃腺ノ發赤腫脹セシ者六%<sup>一・六</sup> 内兩側ナルモノ<sup>二</sup> 扁側ナルモノ<sup>四</sup> 及腫脹高度ニシテ聲音嘶啞セシモノ<sup>一</sup> アリキ

耳下腺

耳下腺 扁側耳下腺炎ヲ呈セシ者ハ一例ナリキ

胃症狀

食慾 初期食慾不振ヲ訴ヘシ者一割強アリシハ既記ノ如シ病ノ増進ニ伴ナヒ之ヲ訴ヘタル者益々多ク全經過中食慾減退セシ者百五十五%<sup>四三・五</sup> 全ク缺損セシ者四%<sup>一・一</sup> ヲ算シタリ然レトモ病症ノ輕快ト共ニ何レモ振興シ快復期ニ入りテ亢進セシ者多カリキ

口渴

口渴 熱ノ有無ニ關セス口渴ヲ訴ヘシ者九%<sup>二・五</sup> アリ

惡心嘔吐

惡心嘔吐 惡心ノミアリシ者十二%<sup>三・三</sup> 嘔吐ヲ伴ナヒシ者十一%<sup>二・八</sup> 多クハ其ノ他ノ胃症狀ニ伴ナヒタリ

胃部停滯膨滿壓重

胃部停滯膨滿壓重感 食慾障礙ニ伴ナヒ多クノ患者ニ來リ其ノ數百三十五%<sup>二七・九</sup> ヲ算シ就中高度ニシテ心窩苦悶ヲ訴ヘシ者二十六%<sup>七・三</sup> アリ

其他

其ノ他ノ胃症狀 噯氣四%<sup>一・一</sup> 吞酸四%<sup>一・一</sup> 嘈雜八%<sup>二・二</sup> 胃痛四%<sup>一・一</sup> 又胃下垂シ其ノ下緣臍上二指横徑ニ達セシモノ二%<sup>〇・五</sup> アリ

腸症狀

腸症狀 鼓腸ヲ呈セシ者二%<sup>〇・五</sup> 兩腸骨窩部ニ壓痛ヲ訴ヘシ者九%<sup>二・五</sup> 腹痛ヲ訴ヘシ者七%<sup>一・九</sup> アリ



便秘 初期便秘セシ者少數アリシハ既記ノ如シ經過中下劑連用スルモ著シキ反應ナク便秘ノ傾向アリシモノ百五十五四三・五ヲ算セリ

下痢 藥物ノ反應ニ因ラスシテ下痢セシ者十三三・六就中混血粘液便數行ヲ排泄シ裏急後重下腹痛S字狀部索狀硬結ヲ觸レ壓痛アリテ一見輕症赤痢ニ似タル症狀ヲ呈セシモノ二例アリ一ハ四日間一ハ十四日間持續ノ後消散セリ

寄生蟲 蛔蟲ヲ吐出セシ者一例ニ糞便ト共ニ排泄セシ者四例最多其ノ他檢便ニ依リ蛔蟲卵ヲ證明セシ者八例十二指腸蟲卵ヲ證明セシ者二例ナリシモ共ニ母蟲ノ排出ナク又是等寄生蟲ノ爲ニ特ニ惡影響ヲ受ケタルヲ認メス

肝臟 經過中肝臟腫大シ其ノ下縁ヲ觸知シ得タル者七七・九内一例ハ發熱ヲ伴ナヒシ者症例第十參照他ハ何レモ平温ニシテ黃疸ヲ伴ナヒシモノナシ

脾臟 脾臟腫大シ其ノ下縁ヲ觸知セシ者二例アリ共ニ發熱ヲ伴ナヒ一ハ室扶私様症狀ヲ呈セシ者症例第十參照他ハ一過性發熱ヲ呈セリ

腹水 全身浮腫高度ニシテ胸水ト共ニ腹水ヲ呈セシモノ一例アリ症例第七參照

尿 尿ニ就キテノ記事アルモノ少數例ニ過キス浮腫性四例未熟性三例ハ増進期或ハ極期ニ於テ尿量減少シ就中浮腫性一例ノ如キハ一日約百瓦ニ減シタリ然レトモ病症輕快ト共ニ皆漸次其ノ增量ヲ見タリ尿色ハ淡黃色乃至茶褐色ヲ呈シ比重ハ概ネ一・〇二〇ヲ上下セリ蛋白四五%ヲ證明セシモノ二痕跡ヲ認メタルモノ七インデカン反應陽性成績ヲ得タルモノ四十五ヲ算シタリ黃疸ヲ發現セシモノニ就キテハ胆汁色素陽性成績ヲ得タリ腎臟尖ノ疑アリシ者二例中其ノ一例ニ

尿管柱及腎上皮ヲ認メタリ又急性惡性一例ハ末期ニ於テ尿管閉ヲ呈シ浮腫性一例ハ經過中輕度ノ尿意頻數ヲ呈セシモノナリキ

久留米衛戍病院ニ於テ檢尿シタル成績ニ依レハ反應ヲ檢セシモノ二十六ニシテ強酸性六弱酸性十五中性二アルカリ性三蛋白ヲ檢セシモノ三十一ニシテ之ヲ證明セシモノ七共ニ蛋白僅微ニシテ定量スルヲ得サリキ又インデカン反應ヲ檢セシモノ三十ノ内陽性成績ヲ呈セシモノハ六例ナリキ

腎臟 浮腫性一例ノ極期ニ於テ尿量一日百瓦内外ニ減シ比重一・〇二〇ヲ算シ蛋白四五%ヲ證明シ圓柱及腎上皮ヲ認メ又未熟性一例ノ恢復期ニ至リ右腰腎臟部ニ相當スル深部ニ自發痛アリ腹部ヨリ右腎臟部ヲ觸診スルモ疼痛著明ナラス體温不正ニシテ時トシテ四十度以上ニ昇ルコトアルモノ一、二時間ニシテ下降シ檢尿ニ依リ蛋白ノ痕跡ヲ證明セリ

第十 皮膚 浮腫 浮腫ヲ認メシ者初期ニ於テ百十三三・九・五全經過ヲ通シ二百三二・五・七・〇ヲ算シタルハ既記ノ如シ之カ發現時期ノ明カナルモノ百七十五ノ内百十三一・七・七ハ一週以内ニ之ヲ證明セリ

持續ハ最短一日最長九十三日ニシテ二週以内ノモノ最多ク四・〇・〇一週以内〇・九・〇三週以内〇・六・〇等順次之ニ亞キ三週ヲ超ヘタルモノ甚少カリキ

部位ハ初メ下腿前面ニ來リ間々顔面或ハ足背ニ現ハレ漸次進行セシモ稀ニ最初ヨリ全身ニ來リシモノ或ハ經過中隱顯出沒セシモノアリ極期ニ於テ尙其ノ五分ノ四ハ下腿ニ限局セリ

程度ノ輕キハ下腿前面僅ニ指壓痕ヲ印スルニ過キサリシカ重キハ全身高度ノ浮腫ヲ呈シ體腔内ニ漿液滯溜シ胸水、腹水ヲ呈セシモノアリ其ノ間種々ナル階級アリシモ概シテ輕度ナルモノ多カ



リキ而シテ浮腫ノ程度ト持續日數ハ必スシモ一致スルモノニアラサルコトハ既往戰役ノ調査ニ於テ既ニ記載セラレシ所ニシテ本戰役患者ニ於テモ亦此ノ關係ヲ見タリ

症例第十四 全身浮腫——持續五日間——全經過八日——治療ノ例

第一 糧 食 雜 列 一等卒 橋本 某

九月二十三日即墨ニ於テ惡寒ニ次テ上腹部ニ疼痛ヲ感シ翌日ニ至リ左半部顔面痛アリ次テ全身浮腫ヲ呈シ發病第三日受診同日入院當時顔貌浮腫狀ヲ呈シ體温三十七度四分脈搏七十八至算ス全身一般浮腫シ殊ニ下腿ニ於テ著明膝蓋腱反射僅ニ尤進シ左半部顔面痛アリ知覺運動障礙ナク心悸尤進シ便秘ノ傾向アリ第五日胃部停滯ノ感アリ第七日浮腫全ク去リ他ノ症狀亦同時ニ消退シ第九日治療退院

症例第十五 下腿浮腫——持續五十日——全經過五十四日——治療ノ例

第一 糧 食 雜 列 輪卒 江口 某

九月二十五日即墨ニ於テ下腿倦怠、下腿浮腫ヲ發シ十月六日(發病第十二日)受診同日入院當時脈搏九十至心音一般旺盛肺動脈、大動脈第二音尤進、心濁音界右ハ胸骨正中線ヨリ二指横徑右ニアリ心尖搏動ハ第五助間乳線上ニアリ下腿浮腫著明ナリ知覺運動障礙ナク膝蓋腱反射常便通一日一行第十七日ニ至リ下腿知覺鈍麻ヲ呈シ膝蓋腱反射消失シ膝腸筋痙攣アリ第十九日知覺鈍麻ハ大腿ニ及ヒ第二十日還送第二十一日膝關節萎弱ヲ感ス第二十九日腓腸筋痙攣去リ第四十七日知覺鈍麻全ク去リ第五十一日下腿ノ浮腫去リ心濁音界及膝蓋腱反射尋常ニ復シ第五十五日治療退院

其他ノ皮膚變狀

其他ノ皮膚變狀 未熟性輕症ノ恢復期ニ至リ眼球結膜黃染セラレ皮膚癢痒ヲ感シ檢尿ニ依リ胆汁色素ヲ證明シ加答兒性黃疸ニ轉症シ肝臟腫大發呈セスシテ二箇月ノ後治療セシ者一例、急性惡性ノ初期窒扶私樣症狀ヲ呈セシモノニシテ胸背部ニ「ロゼオラ」ヲ散發セシ者一例、其他經過中疥癬、下腿膿疱疹ヲ發セシ者各一例、濕疹ヲ發セシ者三例アリテ原病恢復セルモ頑固ニシテ去ラス病名ヲ轉症セシモノ一例アリ

第五節 繼發症及併發症

本症ノ經過中ニ繼發又ハ併發シタル諸症ニ就キテハ概ネ、第四節症候ノ條下ニ略記シタリ是等ノ諸症中症狀稍著明ニシテ特ニ兼症トシテ取扱ハレシ者十三<sup>三六</sup>% 他病ヲ併發或ハ繼發シ本病治療後他病ニ轉症シタルモノ十二<sup>八</sup>% 其ノ病名ヲ列記スレバ左ノ如シ

病名	兼症	轉症	病名	兼症	轉症
腸 窒 扶 私	—	—	慢性氣管支炎	—	—
急性關節レウマチス	—	—	胸 膜 炎	—	—
肺 結 核	—	—	兩 下 腿 濕 疹	—	—
肺 炎	—	—	慢 性 腸 炎	—	—
急 性 胃 炎	—	—	加 答 兒 性 黃 疸	—	—
大 腸 炎	—	—	軟 下 疳	—	—
神經性心悸尤進	—	—	急 性 腎 臟 炎	—	—
上頸寶蓄腺症	—	—	計	—	—
急性氣管支炎	—	—		—	—

兼症ハ何レモ本病恢復ト同時或ハ其ノ以前ニ於テ治療シ本病ノ經過ニ惡影響ヲ與ヘシモノナカリキ

第六節 診斷及豫後

診斷ハ容易ニシテ特ニ他病トノ鑑別ニ苦ミシモノ殆トナカリキ唯タ初期發熱ヲ呈セシモノノ内窒扶私樣症狀ヲ呈セシモノ<sup>十參照</sup> 麻刺利亞樣症狀ヲ呈セシモノ<sup>一參照</sup> 或ハ浮腫高度ニシテ腎



臟炎ヲ疑ハシメタルモノノ如キハ診斷ヲ困難ナラシメタリ  
豫後ハ一般ニ佳良ナリキ死亡セシ者三名ハ急性惡性ニ屬シ一ハ戰地ニ於テ症例第一ハ病院船内  
ニ於テ症例第九他ノ一ハ衛戍病院遷送後第四日ニ症例第十死亡セシモノナリ

### 第七節 療法

食餌

食餌 主食ハ米麥混用ニシテ米ハ概ネ半搗米ヲ用キ時トシテ精米ヲ與ヘタリ並食或ハ粥食又稀ニ麵  
麩食ヲ給セシコトアリ副食物トシテ糠味噌汁ヲ給セシハ寧ロ特異ノ例ニ屬シタリ

藥物

藥物 各期ヲ通シ一般ニ應用セラレタルハ硫酸マグネシアナリキ其ノ用量最少一〇〇最多四  
〇〇ニシテ一五〇乃至三〇〇ヲ使用セシモノ多ク浮腫高度ニシテ尿量減少セシモノニハ利尿劑  
トシテ之ニ酒石英ヲ伍用シタリ心臟ノ機能障礙稍高度ナル時期ニ於テハ「カムフル」ヂキタリス「ヂ  
ガレン」ニカフエイン「ストロファンツス」丁幾等ノ強心劑ヲ伍シテ服用セシメタリ食慾障礙ヲ訴ヘ  
シ者ニハ健胃劑トシテ健胃散重碳酸ナトリウムニ「ヂアスターゼ」製製マグネシア、番木鱈エキス等ヲ  
投シ口渴ニ對シテハ清涼劑トシテ鹽酸リモナーデ等ヲ與ヘ時々硼酸水ノ含嗽ヲ行ハシメタリ其  
ノ他或時期ニ於テ沃度加里、サリチール酸ナトリウム等ヲ用キシモノアリ又アンチペリリン<sup>ラ</sup>  
硫酸マグネシア<sup>ニ</sup>併用シ或ハ之ヲ單純ニ注射又ハ内服トシテ用キシモノアリ廣島衛戍病院ノ報  
告ニ據レハ注射ニ兼テ内服セシメシモノハ硫酸療法ニ比シ成績稍優リシモノアルモ單ニ内服セ  
シメシモノハ一般ニ稍劣レルカ如シト云フ

看護及理學的療法

看護及理學的療法 初期及増進期ニ於テハ可及的體動及精神感動ヲ避ケ心悸亢進著シキモノ  
ニハ心臟部ノ冷罨法ヲ施シ或ハ下腿ニ芥子泥ヲ貼用シ恢復期ニ於テハ特ニ榮養ニ注意シ適度ノ

轉地療養

運動ヲ爲サシメ電氣療法、按摩局所温浴及受働的關節運動ヲ行ヘリ

轉地療養 轉地療養二例ノ内一例ハ肺動脈第一音稍不純、膝蓋腱反射殆ト消失、足部内側知覺鈍  
麻アリテ歩行躊躇タリシモノ別府分院在院二十八日ニシテ完全ニ治癒シ一例ハ心尖第一音、肺動  
脈第二音旺盛、輕度ノ體動ニ因ル心悸亢進、下腿知覺鈍麻、膝蓋腱反射亢進アリシモノ熱海分院在院  
二十一日ナリシモ特ニ顯著ナル効果ヲ認メサリキ



## 第六章 稀有疾患

### 第一節 外傷性急性延髓球麻痺ノ一例

第四 陸 上 輸 卒 隊 輸 卒 高橋 某

血族 遺傳的關係ノ徵スヘキモノナシ  
既往症 生來強健ナラサルモ著患ヲ知ラス

原因及經過 大正三年十月三日午前六時平度ニ於テ糧秣ヲ支那車輛ニ積載セムトシテ梱包ヲ肩ニシツツ車輛ニ近ツキシ際該車輛ノ轆馬突然後退セシ爲車臺ニテ下腹ヲ壓迫セラレ後方ニ顛倒シ後頭部ヲ地上ニ衝突シ人事不省トナリ暫時ニシテ醒覺セシカ言語障礙アルニ依リ受診、即時入院

入院時ノ現症 體格榮養共ニ稍不良、顔面蒼白色ヲ呈シ瞳孔散大、反應消失、眼筋ノ運動亦消失ス、眼瞼麻痺ナシ舌ハ知覺運動共ニ麻痺ナシ發語嚥下共ニ不能、口唇亦麻痺シ緊約不能流涎ス咬筋ニハ異常ナシ四肢及其他ノ部位ニ於テ麻痺、知覺異常等ヲ認メス膝蓋髓反射ハ尋常、胸部内臟ニ著變ヲ認メス腹部陷沒シ壓痛ナシ尿利、便通尋常、熱ナシ頭痛強ク殊ニ後頭部ニ劇痛ヲ訴フ

入院後ノ經過 入院當日午後八時ニ到リ體溫昇騰三十八度三分ヲ呈シ脈搏九十二至ヲ算シ後頭部ノ劇痛ヲ訴ヘ苦悶ス同四日體溫三十六度八分ニ下降シ脈搏六十至ヲ算シ瞳孔中等度ニ散大、對光反應及輻輳反應ヲ缺キ眼球ノ上下左右運動殆ト認メラレス眼瞼ノ開大ハ殆ト尋常ナルモ閉目不充分ナリ最モ著明ノ症狀ハ發音及談話不能、嚥下障礙、舌ノ挺出及口笛運動不能、不斷流涎アリ四肢ノ知覺及運動異常ヲ認メス膝蓋髓反射殆ト尋常、呼吸ノ障礙ヲ認メス胸腹内臟ニ著變ヲ見ス



精神異常ナシ喉頭部ニ輕痛空腹言語嚥下障礙アリ同日午後九時惡寒ニ次テ體溫三十八度ニ上昇シ脈搏九十四至ヲ算シ喉頭部喘鳴ヲ發シ苦悶ス五日ネラトシカテ以テ牛乳二〇〇〇卵黃一箇ヲ攪和シ食道ヨリ注入セシニ徐々ニ嚥下シ全部攝取シ食道ニハ麻痺ナキモノノ如シ上下眼瞼ハ全ク麻痺シ眼ノ開閉不能右眼ハ殆ト閉鎖ノママ左眼ハ半開ノママ動カス視力ハ現存ス發語全ク不能トナル呼吸及心臟ノ狀況ハ前夜ニ比シ稍佳良トナル角膜稍潤濁ス同日午後八時發熱ナキモ喉頭喘鳴ヲ發シ苦悶ス脈搏微細頻數百二十至ヲ算ス六日一般ニ安靜ナルモ諸症増進シ脈搏百二十至微細角膜潤濁シ胸内苦悶ノ狀アリ衰弱一層加ハル同日午前八時三十分ヨリ喉頭喘鳴呼吸困難脈搏幽微苦悶シ同九時死亡

### 第二節 パセドウ氏病ノ一例

第九 陸上 輸卒 隊 輸卒 中村 某

既往症 生來虛弱十四五年前ヨリ、レウマチス及腹膜病ニ罹リ共ニ七十日餘ニシテ治シタルモ爾來健康勝レス

原因及經過 明治四十五年三月頃ヨリ心悸亢進呼吸促迫等アリ醫治ニ依リ一時輕快セシニ大正三年九月十九日頃ヨリ步行時下腿倦怠ヲ覺ヘ足關節及膝關節無力狀トナリ步行障礙ヲ發來シ二十二日ヨリ體動ニ伴ナヒ呼吸促迫ノ感アリ二十三日受診二十四日入院

入院時ノ現症 體格榮養共ニ中等以下體溫三十七度五分脈搏百至心臟左室稍擴大シ心尖音著ク亢進且不純心窩部壓痛アリ膝蓋腱反射減退下腿外側知覺鈍麻シ腓腸部握痛アリ自覺的呼吸促迫步行障礙ヲ感ス

入院後ノ經過 二十六日體溫三十七度便秘シ胸内苦悶アリ二十七日病院船ニ收容脈搏九十至舌清潔食慾良、心窩部壓痛胸内苦悶腰痛下肢痛アリ自然便通一行三十日還送脈搏整調九十至心尖音旺盛ニシテ亢進ス心窩部壓重壓痛アリ膝蓋腱反射尋常僅微ノ運動ニ依リ心悸亢進ス十月三日大腿後側及膝關節ニ壓痛及自發痛アリ殊ニ膝關節ヲ伸展シタルママ上體ヲ前屈セシムレハ疼痛増劇ス五日脈搏軟小百至心尖搏動著明ニシテ第五肋間乳線上ニアリ安靜時ニ於テモ尙心悸亢進著明ナリ甲狀腺僅ニ腫大シ瞬目運動減退シ頭重頭痛記憶力減退不眠症アリ食慾中等便通三行十日脈搏九十八至心尖部稍強キ跳動ヲ目載スルヲ得心尖搏動強盛ナリ心悸亢進ハ精神感動若クハ體動ニ因テ一層著明トナリ心濁音界右ハ胸骨正中線ニ一致ス甲狀腺ハ雞卵大ニ腫大シ柔軟ナリ不隨意的瞬目運動減弱シ指ノ震顫アリ頭痛眩暈記憶力及思考力ノ減退精神不安不眠症アリ病名決定十九日補充兵役免除退院

### 第三節 共齋運動性神經症ノ一例

航空 二等卒 兼坂 某

血族 遺傳的關係ノ微スヘキモノナシ

既往症 生來健全三年前右下腹部ニ腫瘍ヲ生シ手術ヲ受ケ約半箇年ニシテ治癒シ大正三年五月氣管支炎ニテ入院約二週間ニシテ治癒シ梅毒ノ既往症ナシ

原因及經過 大正三年十二月十日航空隊副官カ命令受領ノ爲狗塔埠ヨリ青島ニ往復スルニ當リ其ノ自動車ノ運轉手トナリ午前九時出發同十一時頃青島ニ到着ス此ノ日曇天ニシテ氣溫氷點以下ヲ示シ北風アリテ寒氣凜烈ナリキ午後三時頃歸途ニ就キタルニ途中ヨリ突然兩上肢脱力シ



又把手ヲ握レル手ノ知覺鈍麻ヲ感シ運轉ノ任ニ耐ヘサルニ至リ同乗者代テ運轉シ午後四時過宿營地ニ歸著爾後病狀頓ニ増惡シ上肢ニ加フルニ下肢亦脱力シ歩行蹣跚トシテ下車シ宿舍ニ就キタルモ手ハ屈曲位ヲ呈シタルママ伸展スル能ハス傍人ノ助力ヲ得テ脚絆ヲ脱シ著衣ヲ交換シ得タルノ狀況ニアリテ十五日受診爾來隊内治療ヲ加ヘツツ凱旋シ大正四年一月一日入院

入院時ノ現症 體格榮養共ニ中等顔貌尋常皮膚貧血ヲ認メス兩上肢運動筋弛緩性麻痺ヲ呈シ歩行及上肢ノ運動極メテ困難且前搏手及下腿以下知覺鈍麻シ膝蓋髓反射僅ニ減退其他ノ諸反射ハ尋常榮養障礙ナク膀胱直腸ノ麻痺ナシ胸腹部内臟ニ異狀ナク脊柱ニ壓痛點ナシ體溫三十六度七分脈搏七十至沃剝ヲ投ス

入院後ノ經過 八日自ラ箸ヲ持チテ攝食シ得十二日他人ノ扶助ヲ要セスシテ上固スルヲ得ルニ至ル三十日腕關節ハ掌側ニ屈シ背屈不能各指モ亦掌側ニ屈シ背屈不能各指間ノ離開亦不能各指末端知覺鈍麻ス他働的運動ニ障礙ナシ電氣變性反應ナシ臭剝沃剝劑ヲ投シ電氣療法、溫浴療法ヲ行フ二月二十四日下肢ノ運動障礙殆ト去リ上肢ノ障礙亦減シ握力右十二疋左十一疋トナル電氣扇ニ依ル熱氣療法ヲ行ヒ又レントゲン放線ニ依ル影響ヲ檢ス三月三日視野検査上著變ナシ十二日電氣療法ヲ廢シ熱氣浴<sup>六十分</sup>ヲ行フ十三日肘關節ヨリ末梢チアノ<sup>イゼ</sup>アリ冷却ス十五日ワツセルマン反應陰性十八日電氣療法再ヒ開始ス三十一日病名決定四月二日ホーレル水内用ヲ始ム五月四日熱海ニ轉地療養<sup>二十</sup>セシメタルモ效果顯著ナラス二十四日手指ノ屈曲位強剛ト兩上肢前半部ノ「チアノ<sup>イゼ</sup>」アリ「ホーレル」水内用及感傳電氣療法竝兩上肢ノ按摩ヲ持續的施行ス六月二十八日上肢ニハ略チアノ<sup>イゼ</sup>ヲ見サルニ至リタルモ下肢ニハ尙存ス七月十日チアノ<sup>イゼ</sup>全ク去ル十九日電氣療法ヲ廢シ電氣浴ヲ開始ス八月十三日深麻酔ヲ用キテ檢スルニ手指伸展可能

依テ副木繃帶ヲ施ス十四日副木ヲ除去スルモ手指伸展位ヲ保持ス九月八日握力増加シ左右共二十一疋トナル二十日手指冷感アルノ他認ムヘキ變狀ナキニ至リ二十四日治療退院

### 第四節 遊走腎ノ一例

野砲兵第二十四聯隊第四中隊 一等卒 堤田 某

原因及經過 大正三年十一月四日夜ヨリ感冒ノ氣味アリテ同八日受診同日入院

入院時ノ現症 體格榮養共ニ住良背面下部ニ乾性囉音ヲ聽キ腹部稍膨滿シ一日數回下腹部ニ發作性疼痛アリ該疼痛ハ強壓ヲ加フレハ緩解ス發病以來便通ナシ體溫脈搏尋常

入院後ノ經過 十一月十一日病名蟲樣突起炎ニ決定體溫脈搏尋常ニシテ便ハ常ニ秘結ス下腹部一般膨滿右側腹部ノ硬結物ハ打診上濁音ヲ呈ス爾後漸次轉送十二月十二日還送當時盲腸部ノ抗抵ヲ觸レス肝下緣季肋下三仙米右季肋下乳線部ヨリ臍ノ方向ニ鶯卵大ヨリ稍大ナル腫瘤アリ壓痛アリテ僅ニ移動ス肝下緣トノ境界判然タラス右季肋部及心窩部ニ發作性疼痛アリ食慾不進惡心アリ一月四日腫瘤ハ臍ノ右側ヨリ右上方ニ觸知シ大サ不變ニシテ稍硬ク表面ハ圓滑ナルモ稍凹凸アリ呼吸ニ伴ナヒテ僅ニ移動スルモ之ヲ左右ニ移動セシムルヲ得ス七日檢尿成績糖僅微ニ陽性蛋白、インヂカン陰性十九日疼痛殆ト去ル二月四日胃液検査ヲ行フニ液ハ透明ニシテ總酸量七〇〇遊離鹽酸四四〇乳酸ナシ又血液検査ヲ行フニ血色素七〇〇白血球一萬五千五百ヲ算ス五日全身麻酔ノ下ニ腹腔ヲ開キ檢スルニ腫瘤ハ後腹膜腔内ニアリテ右腎ナルヲ知ルモ麻酔ノ關係上固定法ヲ行ハスシテ中止シ病名ヲ右遊走腎ニ轉症シ三月八日再ヒ全身麻酔ノ下ニ開腹術ヲ施シローツジング氏法ニ依リ腎臟固定法ヲ行ヒ爾後創面漸次癒合シ四月三十日治療退院







第五編 戰病	第七章 青島獨軍ノ傳染病	二二二
計	五	五二
	六	六七
	七	七六
	八	二六
	九	二
	一〇	二二八
	一一	七一七
	一二	三二七
	一三	三四
(備考)	アラビア數字ハ疑似者トス	

## 第二節 赤痢

赤痢ノ  
症狀ノ

赤痢ニ就テハ何レモ病原菌檢索行ハレ赤痢アメーバヲ證明シ得タルモノ最モ多ク病原タル赤痢アメーバ、細菌共ニ不明ナリシモノ之ニ次キ兩者ノ混合傳染ニ因リシモノ一例ナリキ  
アメーバ性赤痢ハ下痢回数一日概ネ十乃至二十餘行ニシテ粘液血便ヲ洩シ裏急後重、腹部膨滿、腹鳴、腹部ノ自發痛及壓痛等ノ諸症ヲ呈シ屢惡心稀ニ嘔吐ヲ伴ナヘルモノアリキ體溫ハ初期數日ニ亘リ三十八度乃至三十九度以上ニ昇リ爾後平溫ニ降ルヲ例トセリ其ノ他經過中再ヒ數日ノ發熱アリシモノ或ハ終始發熱著明ナラサルモノアリキ

赤痢ノ  
治療法

赤痢ハアメトバ若クハ赤痢菌ヲ檢出シ能ハサリシ諸症例モ亦其ノ臨床的症狀ハ前者ト大差ナク一般ニ稍輕易ナリシカ如シ  
其ノ治療日數ハ概ネ十乃至二十日ニシテ最モ多キハ三十六日ヲ算セシモノアリ  
治療法ハ通則トシテ初數日間絶食若クハ減食、第一日硫酸ナトリウム頓服檢便、第二日以降甘汞分服四五日ノ後リチネ油頓服ノ順序ニ準ヒタルモノノ如シ下痢頻回ノ者ニハ次硝酸蒼鉛、タンナルピン、吐根等收斂劑ノ多量ヲ與ヘ、アメーバ若クハ其ノ胞子ヲ發見セシモノニハ隔日エメチンノ靜脈内注射或ハリオパンノ皮下注射ヲ行ヒ、アメーバヲ檢出セサルニ至ル迄之ヲ繼續セリ又前記療法ニヨリアメーバ消失セサル重症者ニハ、サルバルサン注射ヲ行ヘルモノアリキ而シテ何レノ患

## 第三節 腸室扶私

者ニ於テモ毎日尿中蛋白及、チアツオ反應檢査ニヨリ腎臟ノ健否ヲ檢スルヲ例トセリ症例  
病原不明ノ赤痢ニ於テハ食餌療法ト共ニ初期硫酸ナトリウム若クハ甘汞ヲ投シ後、次硝酸蒼鉛ヲ與ヘ次テリチネ油ヲ頓服セシメ又、ザロールヲ内服セシメタルモノアリ多クハ健胃劑ヲ併用セリ

症例第一 アメーバ赤痢—下痢、粘液血便、發熱、糞便檢査、アメーバ陽性、食餌療法、エメチン其ノ他藥物療法、治癒退院

第三海兵大隊第七中隊 後備軍曹 シヤイタウエル  
八月二十日朝下痢同二十二日入院、當時體溫三十八度六分下痢一日五—六行粘液血便、腹部膨滿、舌苔等アリ糞便檢査アメーバ陽性ナリ飢餓療法、吐根、硝若内服ノ外自八月二十三日至二十五日ニ毎日一回エメチン〇〇二宛及九月二日、三日各一回〇〇六宛皮下注射同四日エメチン〇〇六靜脈内注射ヲ行ヒ更ニ自九月六日至十四日及自十五日至二十五日隔日一回エメチン〇〇四宛靜脈内注射ヲ行フ熱型不規則ニシテ體溫一時下降セルモ九月四日四十度ニ達ス爾後漸次平溫ニ復ス但シ注射ノ當日體溫上昇ノ傾向ヲ示ス便通ハ漸次減少シ九月五日來一日一行トナリ、アメーバハ九月二十三日初メテ陰性トナリ九月二十九日治癒退院

症例第二 アメーバ赤痢—下痢、粘液、血便、發熱、糞便檢査、アメーバ陽性、飢餓療法、エメチン、リオパン注射其ノ他藥物療法、治癒退院

第三海兵大隊第四中隊 海軍歩兵 グ、ボレー  
八月二十八日來下痢十回粘液血便、嘔吐、腹痛アリ同三十日入院、當時體溫三十八度腹部膨滿、腰痛ナシ舌ハ乾燥シ白苔ヲ衣ス下痢一日七—八行粘液血便アメーバ陽性、飢餓療法、吐根、硝若内服ノ外自八月三十一日至十月二日毎日一回エメチン〇〇六宛皮下注射ヲ行フ熱型弛張性ニシテ三十七—三十九度ノ間上下



シ九月十四日ニハ約四十度ニ上昇シ嘔吐アリ下痢便依然一日數行アメーバ陽性ナリ自九月十四日至二十九日隔日一回エメチン〇〇二—〇〇四靜脈内注射及同二十八、三十兩日各一回リオパン〇〇四皮下注射ヲ行フ而シテ體温ハ九月十八日ヨリ略平温ニ復シ同二十六日以降軟便一日一行アメーバ陰性トナリ十月八日治癒退院

症例第三

アメーバ赤痢—下痢、粘液血便、糞便檢索、アメーバ陽性、肝臟膿瘍併發、肺臟内穿孔、混血膿性喀痰、エメチン、リオパン、其ノ他藥物療法、食餌療法、治癒退院

第三海兵大隊 第五中隊 上等兵 ユン

九月十四日來腹痛、下痢、粘液血便アリ同十六日受診體温平常腹痛アリ舌白苔ヲ衣ス肝臟脾臟異狀無シ下痢便一日五—十行ニシテ粘液ヲ混ス糞便檢索アメーバ陽性飢餓療法、吐根、硝着内服ノ外九月二十四日エメチン〇〇四同二十六日〇〇三靜脈内注射同二十八及二十九日リオパン各〇〇四皮下注射ヲ行フ便通ハ九月二十日以後一日一行トナリ二十八日以後アメーバ陰性トナル而シテ體温ハ初期平温九月十九日上昇シ不規則ニシテ最高三十九度三分ニ達シ二十七日以降平温ニ復セリ十月三日右側胸部及肝臟部ニ疼痛ヲ訴ヘシモ他覺的異狀ヲ見ス、アリスニツツ療法ヲ施ス同月十一日病日第十八日更ニ體温輕度ノ上昇ヲ示シ同時ニ混血膿性痰ヲ喀出シ初メテ肝臟膿瘍ノ肺臟中へ破レルヲ知ル而シテ喀痰中アメーバ陽性ナリ血液檢査ハ白血球一〇〇〇〇〇ヲ算ス同月十六日以來胸痛消失喀痰減シ十八日以後體温平常ニ復シ漸次恢復十一月十七日治癒退院

症例第四

アメーバ赤痢—下痢、輕熱、粘液血便、糞便檢索、アメーバ陽性、飢餓療法、リオパン注射其ノ他藥物療法、治癒退院

第三海兵大隊 第四中隊 海軍歩兵 フアスベンドル

九月二十一日來下痢晝夜三十行以上腹痛アリ粘液血便ヲ漏スニ至リ二十三日入院當時體温平常、左下腹部壓痛、粘液血便アリ糞便檢索アメーバ陽性ナリ下痢一日十數行ニ及フ熱型稍不規則ニシテ時々三十七度五—六分ニ達スルコトアルモ概ネ平温ニ經過ス飢餓療法、吐根、硝着内服ノ外自九月二十七日至十月六日毎日一回リオパン〇〇四皮下注射ヲ行フ便通ハ九月二十八日頃ヨリ漸次減少シ十月五日以後一日一—二行トナリ同九月アメーバ陰性十月十四日治癒退院

症例第五

アメーバ赤痢—下痢、粘液血便、糞便檢索、アメーバ陽性、食餌療法、エメチン其ノ他藥物療法、治癒退院

療法、治癒退院

海軍砲兵大隊 第五中隊 一等砲兵 ウ、ミレンツ

九月八日來腹痛、下痢同十日入院當時體温平常下痢便一日十數行粘液血便ヲ漏シ舌ニ薄苔ヲ衣ス糞便檢索アメーバ陽性吐根、硝着内服、飢餓療法ノ外自九月十二日至十六日隔日一回エメチン〇〇二宛自同二十日至二十六日隔日一回エメチン〇〇四宛靜脈内注射ヲ行フ全經過中體温略平常ナリ便通ハ九月十二日以後一日一行トナリアメーバハ九月二十八日始メテ陰性トナリ十月三日治癒退院

症例第六

アメーバ赤痢—下痢、粘液血便、糞便檢索、アメーバ陽性、食餌療法、エメチン、リオパン注射、其ノ他藥物療法、治癒退院

海軍砲兵大隊 第一中隊 二等砲兵 マ、メンフエルス

九月十五日來下痢アリ一日十行ニ及ヒ二日前ヨリ粘液血便ヲ混ス同二十二日入院、體温平常舌白苔ヲ衣ス下腹部壓痛アリ粘液血便、糞便檢索アメーバ陽性ナリ飢餓療法、吐根、硝着内服ノ外九月二十六日エメチン〇〇三同二十八日〇〇二靜脈内注射、同三十日ヨリ十月五日マテ毎日一回リオパン〇〇四宛皮下注射ヲ行フ而シテ十月四日以後便通一日一行アメーバ陰性トナリ十月十日治癒退院

症例第七

アメーバ赤痢—下痢、粘液血便、糞便檢索、アメーバ陽性、食餌療法、リオパン注射、其ノ他藥物療法、治癒退院

上等兵 ヨ、ラニウス

九月二十六日下痢十回、粘液血便、腹痛嘔吐アリ即日入院當時體温平常、舌乾燥シ薄苔ヲ衣ス腹部壓痛アリ糞便檢索アメーバ陽性ナリ飢餓療法、吐根、硝着内服ノ外自九月三十日至十月五日毎日一回リオパン〇〇四宛皮下注射ヲ行フ、全經過中體温平常ニシテ九月二十九日來便通一日一—二行トナリ十月三日以後アメーバ陰性、漸次治癒十月十七日退院

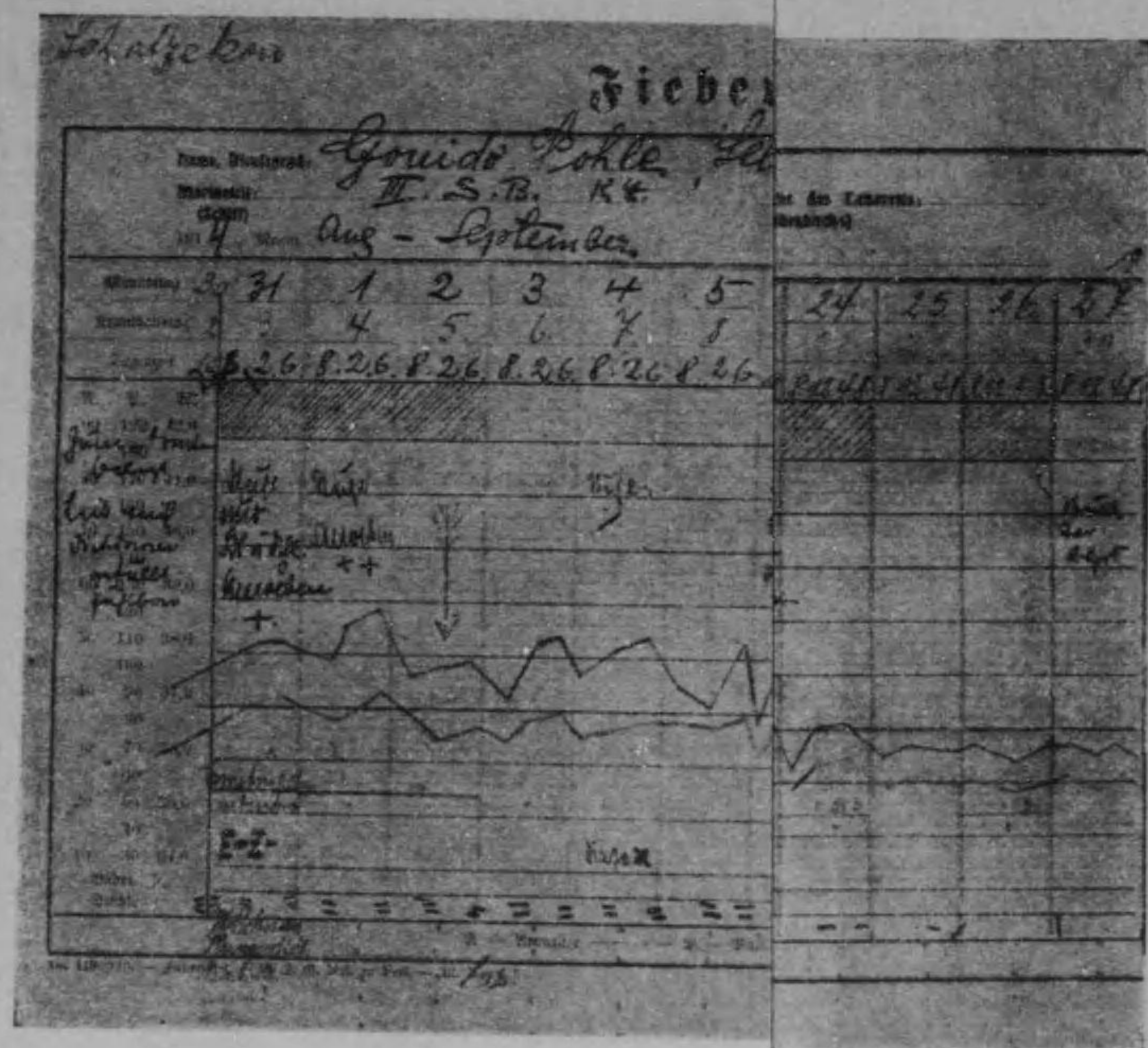
症例第八

混合性赤痢—細菌及アメーバ陽性、グラチン注射、食鹽水注入、カムフル、デガール、レンコカイン注射、死亡

第三海兵大隊 第三中隊

十月二十七日、第七病日入院、當時體温三十九度八分脈搏頻數、顔貌憔悴、舌ハ乾燥シ白苔ヲ衣ス腹部膨滿鼓張ヲ呈シ極メテ過敏ナリ腸出血著シク血便中アメーバヲ認メテフス前ヲ證明セム尿檢査ハ蛋白少量ヲ





第五編 戦病 第七章 青島獨軍ノ傳染病

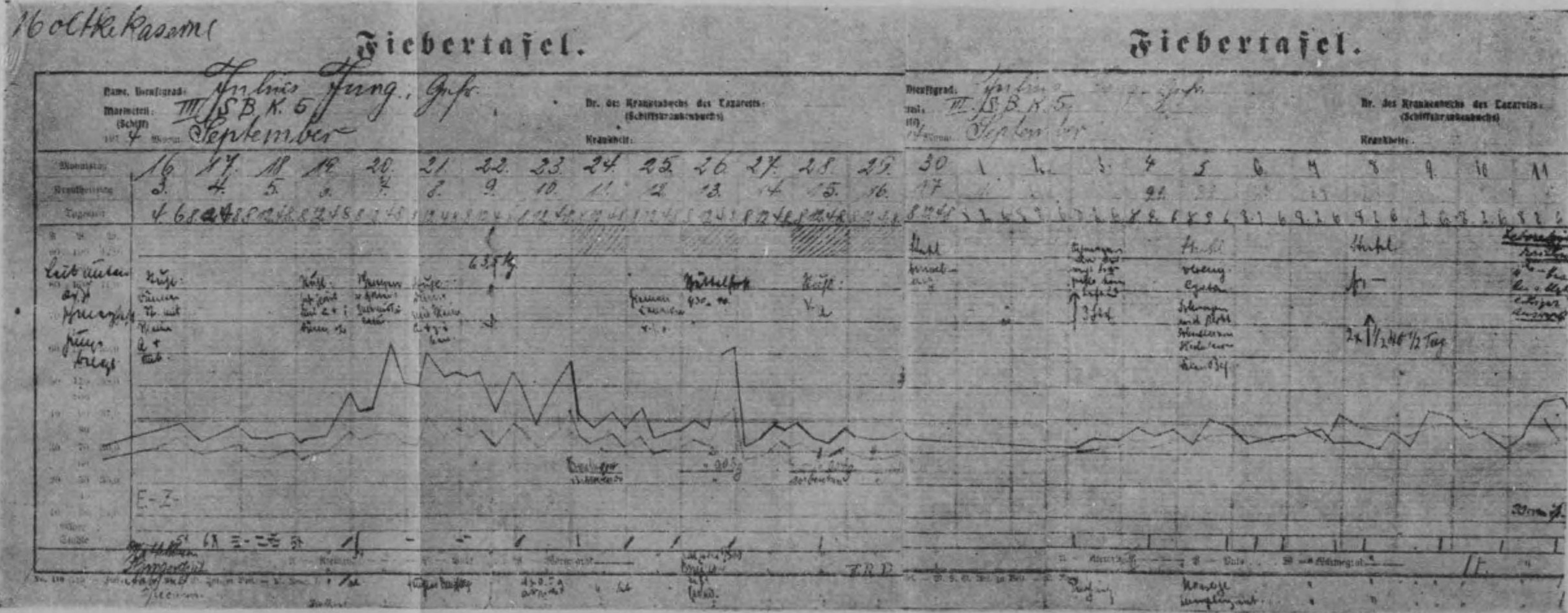
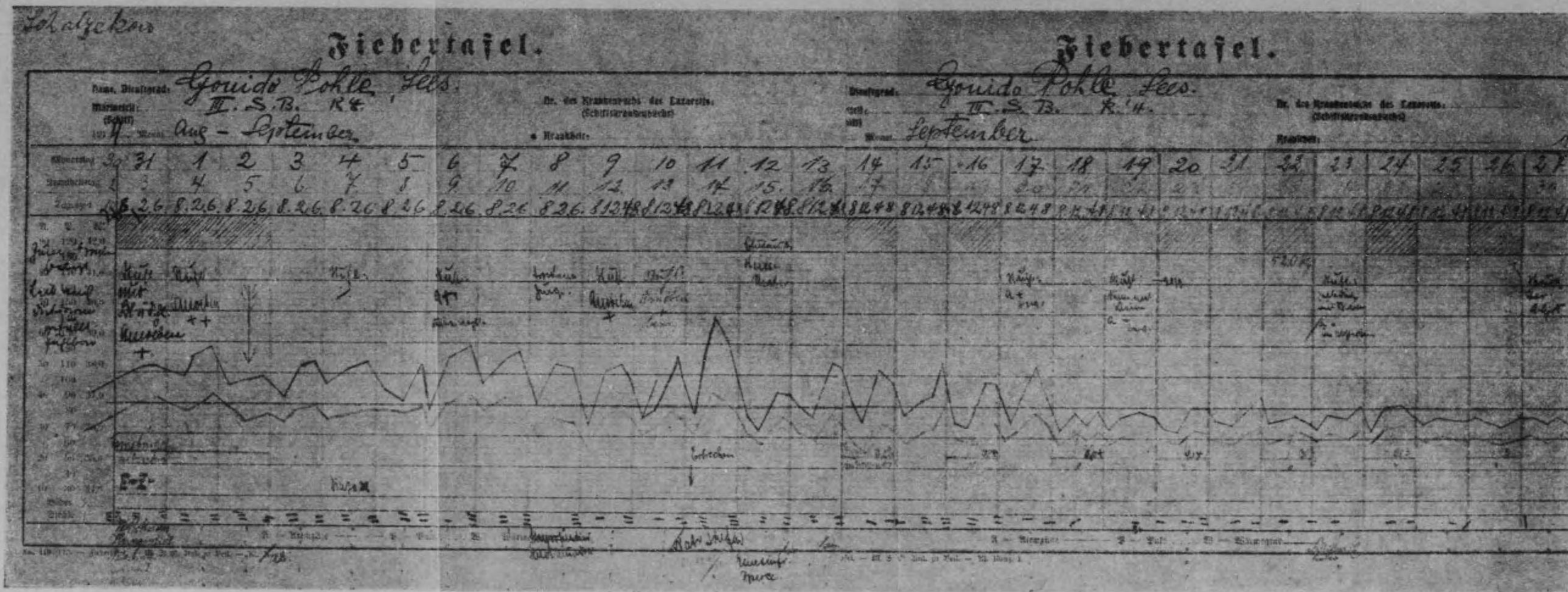
アツオ反應陽性ヲ示シ血液検査上白血球一六〇〇〇ヲ算ス阿片丁養内服腹部水滲法カムフル、デガ  
 レン、コカイン注射グラチン注入モ效ヲ奏セス入院翌日(發病第八日)午後五時三十分死亡  
 死體解剖所見 胃、十二指腸異狀ナシ肝臓稍充血、腫脹著ク大、硬、腎臓充血、輕度ノ潤濁、空腸流動内  
 ノ小腸ノ下部殊ニ盲腸ニ近クニ從ヒ漸次増加セル小血斑及處々灰綠色、暗綠色或ハ黃灰色糖批様  
 全大腸ハ直腸ニ至ル迄其ノ粘膜ハ暗綠色ヲ呈シ殆ト全部糖批狀割裂セル苦アリ深部ニハ小ナル赤色若  
 タハ暗赤色點狀稀ニ大ナル出血斑ヲ見ル處々淺キ小潰瘍アリ脾曲部處々腸壁肥厚充血若クハ出血部厚  
 浮腫アリ腹膜下淋巴腺稍腫脹、直腸粘膜剪絨樣發赤シ處々皺襞ニ相當シテ索狀出血斑及處々之ニ潰瘍ヲ  
 見ル、大腸腔ニ少許ノ麥兒色粥狀便アリ、鏡檢上アメーバ (Entamoeba tetragena) 及菌多數ヲ見ル  
 診斷 小腸下部及大腸ノアメーバ性並ニ細菌性赤痢

症例第九 赤痢、病原不明——發熱、腹痛、下痢、粘液血便アメーバ、赤痢菌陰性、飢餓療法、甘朮分服、腹部温包、  
 治療退院

海軍砲兵大隊第二中隊 海軍二等砲兵 ジョ、エブセン

八月七日夜砲ノ傍ニ睡臥翌朝腹痛下痢十一、二行粘液血便、即日入院當時體温三十九度九分脈搏九十四至、  
 舌白苔ヲ衣ス腹壁柔軟、壓痛著シカラス粘液血便數行、排便時腹痛アリ尿蛋白糖陰性肝臟脾臟共ニ異狀無  
 シ飢餓療法、腹部温包、甘朮一日一回毎時〇・ニヲ投ス三日ノ後平温リチネ油頓服、爾來便通常態ニ復シ一口  
 一行同月十六日治療退院、全經過中鏡檢並培養上赤痢病原菌陰性

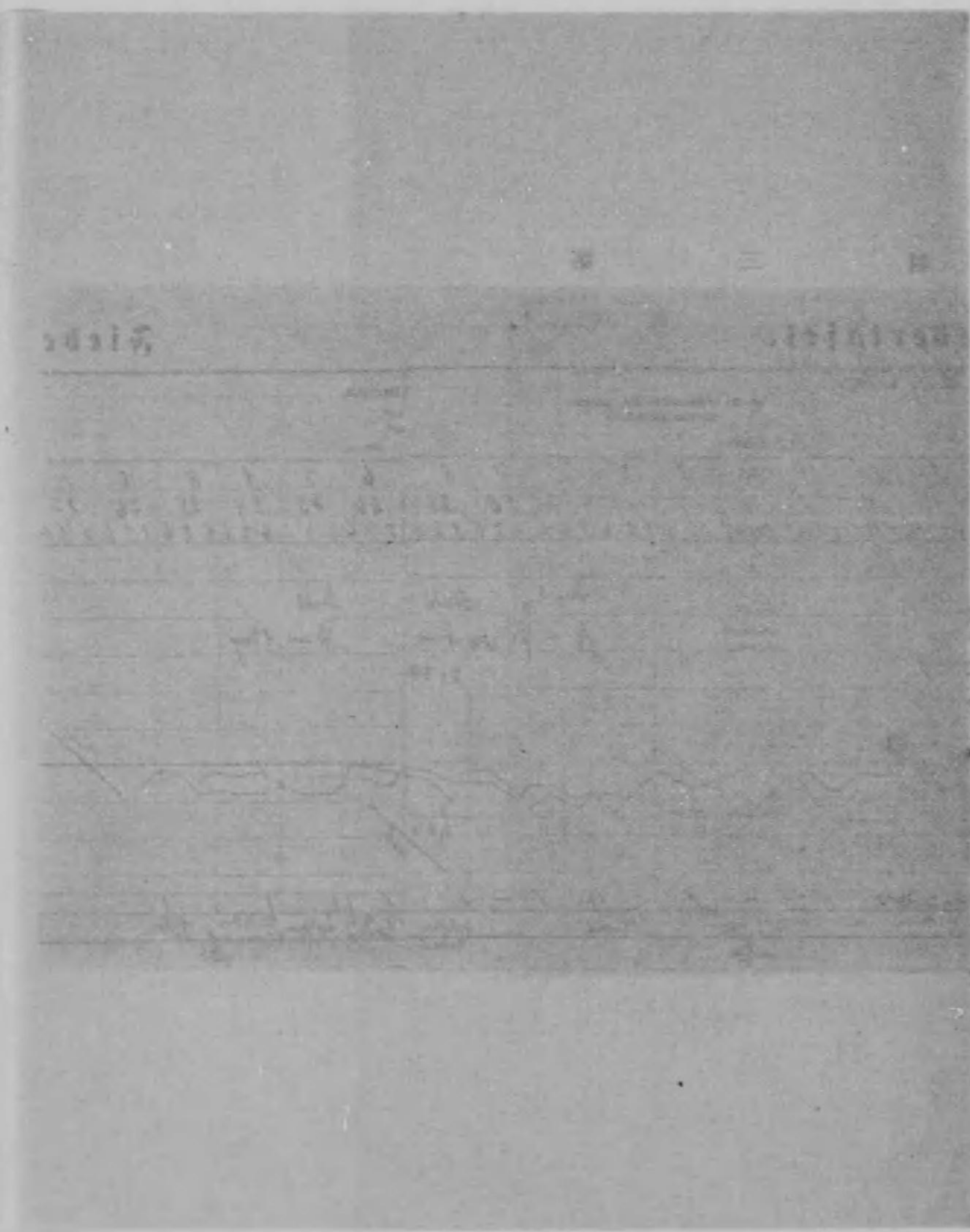
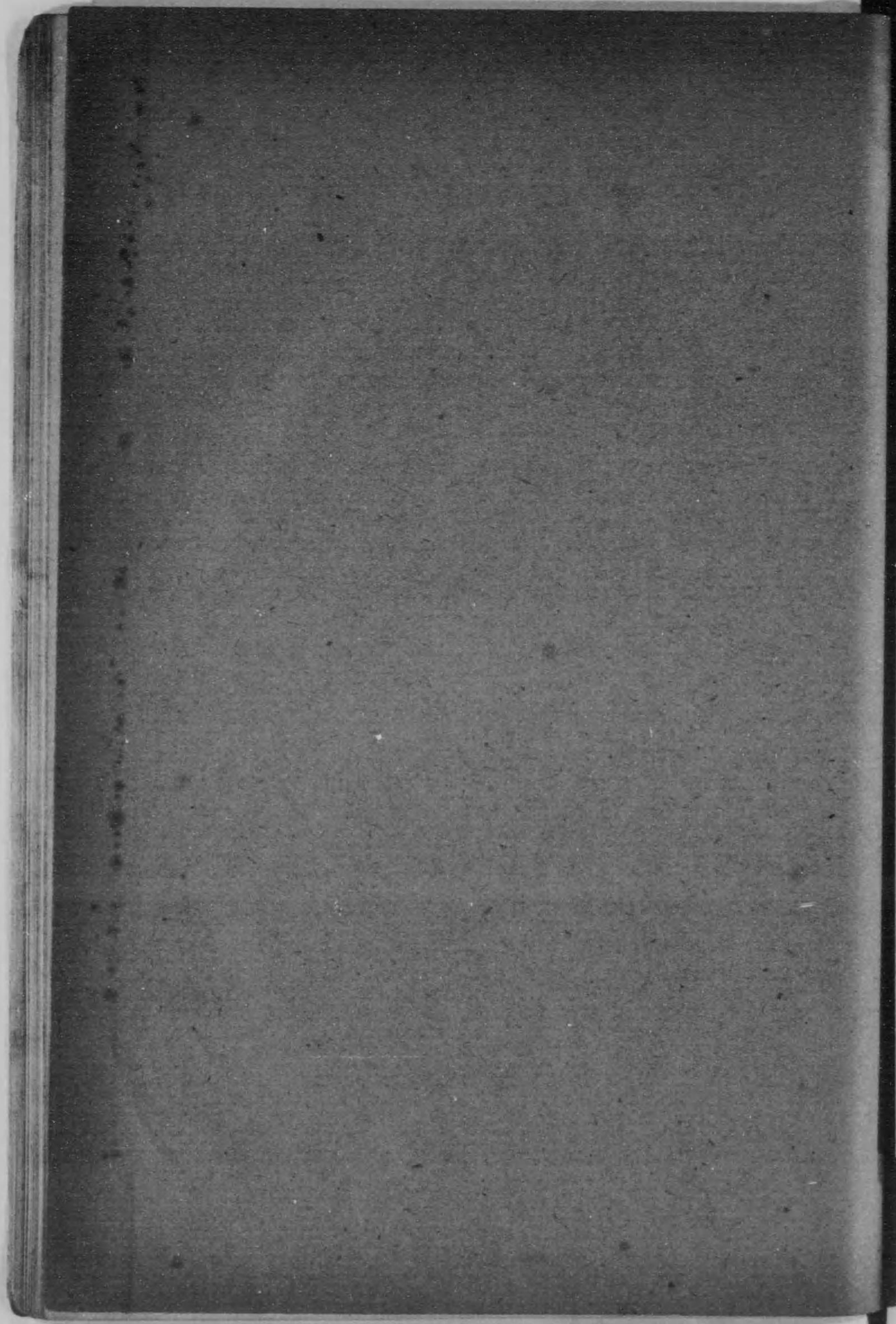














附 録

大正三年戰役衛生史編纂記事

第一 衛生史編纂ノ經歷

本戰役ノ終局ヲ告クルヤ陸軍省醫務局長陸軍軍醫總監醫學博士森林太郎ハ戰役衛生史ヲ編纂セムトシ大正四年六月案ヲ具シテ陸軍大臣ニ稟議セシカ同年八月十一日編纂委員長陸軍一等軍醫正下瀬謙太郎及委員ノ任命アリ同日陸軍大臣陸軍中將岡市之助ハ委員長ニ對シ左ノ件ヲ示達シタリ

大正三年戰役衛生史編纂ニ關シ左ノ通心得ヘシ

- 一、本衛生史ノ編纂ハ一箇年以内ニ之ヲ完了スルヲ要ス
  - 二、編纂業務ニ關スル事項ハ陸軍省醫務局長ヲシテ之ヲ區處セシム
  - 三、編纂ニ要スル經費及其ノ支出區分ハ陸軍省醫務局長ヲシテ之ヲ指示セシム
- 右達ニ基キ八月十二日陸軍省醫務局長ハ左ノ要旨ノ訓令ヲ下セリ

一、編纂ハ其資料ノ蒐集ニ遺算ナキヲ期シ且廣ク關係文獻ヲ參酌シ以テ内容ノ完全ヲ期スルヲ要ス

二、獨軍ノ衛生勤務衛生防疫診療創傷ノ狀況衛生材料俘虜ノ衛生其他參考トナルヘキ事項ニ就テ調査シ得タルコトハ收載スヘシ

三、衛生史ハ各冊約五百頁ノモノ三冊ニ收載シ得ルヲ程度トシテ編纂スヘシ

四、編纂ニ要スル經費及其ノ支出區分ハ別紙大正三年戰役衛生史豫算調書ニ依ルヘシ



五、編纂實施ノ場所ハ陸軍軍醫學校内ニ之ヲ設置スヘシ

委員長ハ右達及訓令ニ依リ八月十四日ヨリ陸軍軍醫學校内ニ於テ業務ヲ開始シ編纂要領ノ衛生史及内容、委員ノ業務形式ニ關シテ定メ逐次人員材料ヲ整備シ必要ナル資料ノ蒐集ニ著手シタリ各種ノ資料ハ十月下旬マテニ概ネ蒐集了リ之カ分類整理及統計様式ノ決定ニ約二箇月ヲ要シ大正五年一月ヨリ專任委員三名協力シテ先ツ患者及衛生材料統計ノ作成ニ著手シ二月下旬其ノ基礎成リタルヲ以テ三月ヨリ統計以外各分擔業務ノ調査起稿ヲ始メ又同月兼任委員三名ノ任命アリタリ

斯ノ如クニシテ患者統計ハ同年八月衛生材料編纂統計ハ同年十月稿了シテ共ニ印刷ニ附シ次テ衛生勤務戰病戰傷ノ諸編ハ同年十一月ヨリ大正六年二月中旬マテノ間ニ逐次稿成リ概ネ豫定期間ニ全部ノ編纂ヲ畢リ尙引續キ未了ノ印刷校正其他殘務ノ整理ヲ爲シ同年四月全ク業務ヲ終了シタリ  
以下業務ノ細部ニ係ル事項ヲ記述シテ其實施ノ迹ヲ明カニシ且將來ノ參考ニ資セムトス

第二 編纂計畫及其實施

衛生史ノ目次及内容ハ左ノ如ク概定シ其ノ記事ハ明治三十七八年戰役衛生史ニ倣ヒ資料蒐集ノ狀況ニ依リ若干ノ變更ヲ豫期シタリ

第一編 衛生勤務

出征軍及内地ニ於ケル衛生勤務並之ニ關聯スル事項ヲ記述ス

第二編 統計

患者及衛生材料ノ景況ヲ表示ス

第三編 衛生材料

出征軍及内地部隊衛生材料補給消費ノ狀況ヲ記述ス

第四編 戰傷

戰傷總論、射創、爾他ノ戰傷及獨軍ノ戰傷ヲ記述ス

第五編 戰病

戰地、内地ニ於ケル傳染病及主要疾患ヲ記述ス

編纂委員ノ業務分擔左ノ如シ

全般ノ統轄、定稿ノ審査	委員長	陸軍一等軍醫正	下瀬謙太郎
第一編 獨軍衛生勤務	委員	陸軍三等軍醫正	關 郁郎
第三編 衛生材料		陸軍一等軍醫	藤井正真
第五編			分玉 巽
第四編 耳損傷及眼	同	同	同
第二編 患者統計	同	同	同
第五編 獨軍傳染病	同	同	同
第一、第四、第五編中ノ獨軍關係記事	同(兼任)	陸軍三等軍醫正	岩崎小四郎
第四編中、眼損傷	同(同)	陸軍一等軍醫	草間 要
第四編中、耳損傷	同(同)	同	増田胤次
經理業務	同(同)	陸軍二等主計	倉本力雄

(備考) 岩崎、草間、増田三委員ハ大正五年三月増員セラル

右分擔ニ依リ大正四年九月ヨリ實施セシカ大正五年五月上旬藤井委員進級轉出シ兼務トナリタルカ爲陸軍一等軍醫三宅幹夫新ニ專任委員ヲ命セラレ爾來第四編ノ調査起草ヲ兩委員ニテ分擔



セリ然ルニ同年八月藤井委員ノ死亡ニ依リ更ニ同委員ノ擔任記事ヲ關、三宅兩委員分割繼承シテ之ヲ完成シタリ

編纂記事ノ内容及委員ノ分擔ヲ定ムルト共ニ全業務ヲ一箇年半以内ニ終了センカ爲其效程ヲ次ノ如ク豫定シタリ

期	間	區	分	編纂業務ノ效程
第一期	自大正四年八月	至同	十一月	一、人員及事務用品ノ整備 二、編纂要領ノ規定 三、資料ノ蒐集
第二期	自大正四年十二月	至大正五年一月	月	一、資料ノ分類、整理、抄録 二、統計
第三期	自大正五年二月	至同	八月	一、各科委員ノ増員 二、資料ヲ類チ起草ニ著手シ本期間内ニ定稿ト爲ス 一、定稿ノ照合、審査 二、印刷 三、資料ノ整理、業務ノ終了
第四期	自大正五年九月	至大正六年二月	月	

右豫定ハ業務進捗ノ狀況ニ依リ各期間ヲ伸縮スルコトアルヘキハ固ヨリ之ヲ豫期セシカ第二期ニ於テ資料<sup>就中、病床日誌</sup>ノ整理照合ニ意外ノ日時ヲ要シ又在隊患者統計ニハ幾度カ更正ヲ重ヌルニ至リ第三期末ニ於テ漸ク完成スルヲ得タリ之カ爲分玉委員ハ第五編戰病ノ調査ニ専ラナルヲ得サリキ又第四編ノ初稿將ニ成ラムトスルニ際シ藤井委員逝去シ其遺稿ノ整備補訂及未著手記事ノ

草ヲ他委員分擔シタルカ爲進捗上鈔カラサル障礙ヲ受ケタリ然レトモ印刷ノ一部未了ノ程度ニ於テ概ネ豫期ノ日時内ニ完成スルヲ得タリ

各編ノ分類ハ業務ノ進捗ニ伴ナヒ第二編ヨリ衛生材料統計ヲ分離シ之ヲ第五編ニ合シテ第三編ト爲シ戰傷戰病篇ハ第四第五編ニ繰下ケ又閱覽者ノ便ヲ計リテ五冊トナシタリ而シテ編纂ノ效程ヲ顧慮シ稿了ト共ニ逐次印刷ニ著手シタリ

此ノ如クシテ實施シタル衛生史ノ内容、委員ノ分擔及編纂ノ效程ハ左ノ如シ

第一編	衛生勤務	第十九章	效程	分擔委員
自第一章	至第十八章	至第十九章	大正五年三月起稿同年八月初稿了 リ十月定稿ト爲ス 大正五年四月起稿同年十一月定稿ト爲ス十一月印刷著手大正六年二月完了	專任 三等軍醫正 關 郁 郎 兼任 二等軍醫正 岩崎小四郎
第二編	患者統計		大正四年十一月調査ニ著手シ同五年一月ヨリ統計ノ作成ヲ始メ同年七月完成十月印刷了ル	專任 一等軍醫分玉 巽
第三編	衛生材料		大正五年一月ヨリ調査ニ著手シ統計表ハ同年七月完成記事ハ九月起稿十月定稿ト爲シ十二月印刷了ル	專任 三等軍醫正 關 郁 郎
第四編	戰傷總論		大正六年一月起稿、同二月定稿ト爲ス 大正五年四月起稿同七月初稿成リ九月定稿ト爲ス	初、專任後、兼任 一等軍醫 三宅 幹 夫 三等軍醫正 藤井正 眞 三等軍醫正 關 郁 郎 (藤井委員死亡後擔任)
第五編	頭頸部		同 右	
第六編	面部		大正五年九月起稿同十月定稿ト爲ス	







圖表ハ其數ノ多キニ隨ヒ記事ノ説明ヲ省略シ情況ヲ一目瞭然タラシムルノ利益アルハ勿論ナレトモ經費ノ關係上已ムヲ得ス削除セシモノアリ仍テ作戰ニ關スル記事ノ參照上本編挿圖及附圖ニテ明カナラサルモノハ日獨戰史附圖ニ據ルヲ要ス

其二 患者統計

概ネ明治三十七八年戰役衛生史第二卷患者統計諸表ニ準據シ出征部隊留守部隊出征部隊ノ出征前及歸還後ノ三部隊ニ大別シ之ヲ各在隊患者入院患者ニ分類シ又各表共病名別ニハ戰傷ト其他ノ外傷トヲ區分シ入院患者ニハ更ニ戰場ニ於ケル外傷ヲモ區分ス又兵種別中砲兵ヲ野砲山砲重砲兵ニ交通兵ヲ鐵道電信航空隊兵ニ輸卒隊ニ勤務スル各兵科將校以下ヲ悉ク輸卒隊兵トシ之ヲ建築陸上水上ニ衛生機關ニ勤務スル他兵科將校以下ヲ悉ク衛生部トシ之ヲ衛生部員衛生勤務ニ從フ者ニ區分シ又各表共爲シ得ル限リ比例ヲ算出セル等稍詳密ニ過キタル嫌ナキ能ハス以下統計實施ノ概況ヲ記述スハ

在隊患者 各部隊附軍醫ノ提出シタル軍人部隊患者月報ニ就キ部隊別月別ニ其ノ過不足ヲ調査シ之ヲ診斷簿ニ照合シ不足ノ分ハ調製シ誤謬ノ箇所ハ訂正シ尙戰傷ハ更ニ死傷名簿及死傷手簿等ニ對照シテ月報ノ記註ヲ整備シ之ヲ基礎トシテ統合セリ

入院患者 各衛生機關ヨリ提出シタル入院患者調査票第一表ト病床日誌トヲ照合シ病床日誌アリテ調査票ナキ分ハ日誌ニ據リ調査票ヲ調製シ之ニ反スル分ハ當該病院ニ照會シテ送付ヲ受ケ更ニ各衛生機關ノ入院患者名簿ニ照合シ調査票及病床日誌共ニ不足ノ分主トシテ野戰病院收容途亡セルハ繙帶所收容名簿其他ノ記錄ヲ參照シテ調査票ヲ調製シ患者數ト調査票ノ員數ヲ符合セシメ次テ病床日誌ヲ通覽シテ傷病名部位別等ノ誤謬ヲ訂正シ主トシテ戰傷ニシテ例之砲彈子ヲ抽出シテ傷名銃創トシアルカ如キ或ハ

上肢ノ銃創ヲ貫通銃創ト下肢ノ骨折貫通砲彈子創トヲ有スルモノニシテ調査票ノ記註ヲ整備シ之ヲ基礎トシテ統合セリ

戰鬪死傷 此調査ハ戰鬪間各部隊附軍醫ノ提出シタル死傷名簿ニ據リシカ死傷名簿中記載漏ノモノ若クハ記入事項不完全ナルモノハ死傷手簿繙帶所收容名簿其他ノ報告記錄ヲ參照シテ統合セリ戰鬪參與人員ハ戰鬪詳報ヲ主トシ陣中日誌及其他ノ記錄報告ヲ參照シテ算出セリ

還送患者 戰地病院還送患者名簿陸軍運輸部本部及病院船業務報告ニ據リ統合セリ  
歸鄉療養患者 衛戍病院業務報告及特ニ報告セル歸鄉療養患者名簿ヲ病床日誌ニ照合シテ統合セリ

其三 衛生材料

各補給機關業務ノ情況ヲ記述シ就中野戰衛生材料廠ノ業務ハ衛生勤務ニ屬スルモノナレトモ本編ニ記述スルヲ適當ト認メ細部ノ事項ヲモ收録セリ

衛生材料ノ破損紛失及應用品ハ將來ノ參考ニ資センカ爲其ノ概要ヲ記シタリ  
本戰役ニ使用セシ定式戰用衛生材料ノ内容及戰役ニ當リ創製セシ諸材料ハ之ヲ附録ト爲セリ  
衛生材料統計ハ戰鬪間及非戰鬪間ニ別チタル消費ノ關係ヲ明カナラシメ又各補給機關ノ出納ヲ調査シ受授ノ情況ヲ瞭然タラシメタリ  
衛戍病院ノ消費量ハ細部ニ亘リ調査シタルモ經費ノ關係上之ヲ省略セリ

其四 戰傷

編纂ノ方針ハ範ヲ明治三十七八年戰役衛生史戰傷卷編纂要領ニ採リ其ノ綱目及記事ノ體裁亦概不之ニ倣ヒ射創ハ銃創砲創等戰傷種類ニ從ヒテ配列シ各其ノ總論ニ筆ヲ起シ更ニ身體各部ニ分



チテ詳記スヘク豫定セシモ傷者數ノ關係上之ニ準據シ能ハサルモノアリ爲ニ射創ノ綱目ヲ部位別トシ之ヲ戰傷ノ種類ニ分チ全然前戰役衛生史ニ一致スル如ク變更セリ以下編纂實施ノ概況ヲ記述スヘシ

病床日誌ノ整理

第二編患者統計ニ當リ整備シタル病床日誌 第一號紙表面ニ戰傷、銃創頭部、砲彈

ヲ記註シニ就キ更ニ擦過盲管、貫通等主要事項ヲ記註シ之ヲ各部位及創種別ニ分綴シノ損傷アルモノハ創種部位ノ如何各綴毎ニ目次ヲ附シテ索引ニ便セリ

抄録 病床日誌ニ就キ編纂ニ必要ナル事項ハ抄録用紙 附表第三ヲ用キ次ノ要領ニ據リテ之ヲ抄録セリ

一、番號 病床日誌番號ハ衛史受番號 病床日誌ノ送附ヲ受ケタルニシテ原病床日誌ト抄録ト照合スルニ必要ナリ、部類毎ノ番號ハ部類毎ニ其ノ員數ヲ明瞭ナラシメ且編纂ニ當リ抄録ノ缺損ヲ知ルニ必要ナリ

二、除號、等級、兵種氏名 「步四六ノ二、上」等ノ略字ヲ用キ兵種ハ第二編患者統計ニ用ユル種別ヲ記ス例之衛生隊ノ撥架卒、輸卒ヲ步兵、輸重兵トセス衛生勤務ニ從フ者ト記スルカ如シ、氏名ハ病床日誌ニ記載ノ文字ヲ其ママ記ス

三、注意事項 貴重器官損傷ノ有無、創傷傳染病ノ有無等抄録中特ニ注意スヘキ點ヲ記入ス

四、傷名ノ記載 ハ確實ナルヲ要シ負傷部位、創傷ノ種類、形態ヲ決定併記スヘシ例之部位ヲ定ムルハ射入口ノ位置ニ由リ決定スヘキモ上膊ヨリ前膊ニ互レル創傷若クハ胸部ヨリ腹部ニ互レル創傷ノ如キハ其ノ創況ニ鑑ミ部位ヲ決定シテ抄録ニ上シ又射道ノ身體兩側ニ互レル場合ハ兩側トシテ記入ス、戰傷ノ種類ハ銃創、砲創、介達彈創、爆傷(地雷、手擲彈)、白兵創、其他トシテ記入シ對敵行動中ニ於ケル外傷例之突擊中顛倒若クハ墜落等ノ爲ニ受ケタル骨折、脫臼、捻挫ノ如キハ戰場ニ於ケル外傷不慮トシテ記載シ戰傷ニ算入セス、創傷ノ形態ハ次ノ區分ニヨリ略符ヲ用キテ記入ス即チ打撲(○)、擦過(○)、貫通(○)、骨折(△)、挫創、射斷創等トシ砲彈子創ハ略符(○)冠シ銃創ト別チ砲彈破片創ハ(◎)、爆傷ハ(※)ト略記シ地

雷ニ因ルモノト手擲彈ニ因ルモノトヲ區分シ介達彈ノ物質ヲ示ス

五、副傷、兼病 一人ニシテ二創以上ヲ被レルモノハ其ノ内最モ重キモノヲ主傷トシ其他ヲ副傷ニ記入ス但シ副傷ト雖モ一創毎ニ前項ノ記入ヲ爲スモノトス又副傷ニ係ル調査ハ病床日誌ニ依リ當該部位擔任者ニ於テ虛數トシテ抄録スルモノトス、戰傷者ノ經過中他ノ疾病ヲ兼發シ戰傷ヨリ平病ニ轉症セルモノハ兼病ニ轉症病名及轉歸ヲ記入ス

六、負傷日時 記載ノ確實ナルモノノミニ就キ負傷時間ヲモ記入ス是レ治療日數ノ算出負傷後第一編

七、負傷時天候 晴雨、風力、氣温等創傷經過ニ關係アリト認ムル事項ヲ記入ス

八、負傷時ノ姿勢 如何ナル姿勢、體向ニテ負傷セルヤヲ記入ス

九、負傷地名 負傷地名ヲ略記ス

十、射距離 記載ノ確實ト認ムヘキモノノミニ就キ記入シ砲創ニ在リテハ破裂距離ヲ以テス

十一、負傷時ノ一般症狀 負傷時ノ感覺第一期性出血ノ有無等ヲ記入ス

十二、入院前ノ處置 負傷ヨリ第一編帶マテノ時間第一編帶ノ有無、施行者、適否、繃帶感染ノ有無及隊繃

帶所、繃帶所ヲ經由セルヤ否ヤ等ヲ記入ス

十三、輸送區分 戰線ヨリ繃帶所、繃帶所ヨリ野戰病院、野戰病院ヨリ兵站衛生機關等順次輸送區分ヲ記

入ス而シテ患者車ニ由ルモノハ車隊、車坐ニ分ツ

十四、繃帶交換ノ回數 隊繃帶所、繃帶所、野戰病院、兵站衛生機關等戰地ニ於テ繃帶交換ヲ受ケタル回數

ヲ記入ス

十五、射入口 位置、大小、形狀等ヲ記入ス但シ尋常ナル創口ニ於テハ單ニ尋常ト記入シテ異常創口ト區

分スルニ止メ記載ノ詳細確實ナルモノニ重キヲ措キテ調査スヘシ跳彈、側彈ニ因ル異常創口ト認定セル

モノハ判定欄ニ其ノ事實ヲ記載スヘシ

十六、射出口(留彈) 前項ニ準ス(官管創ニアリテハ留彈及異物ノ位置)

十七、留彈及異物發見ノ方法 留彈ニ因スル障礙摘出手術場所、月日、其ノ難易、彈丸ノ種類、形狀、變形ノ有

無、跳彈ナルヤ否ヤ、化酸ノ有無等ヲ記入ス異物ハ前項ノ他竄入ノ景況ヲ記入ス

十八、判定 「跳彈、側著彈ト認ム」「一彈ニ因リ二創ヲ生ス」等判定セル事實ヲ記入ス



十九、貴重器官ノ損傷 損傷セラレタル部位、形態等ノ記入ニ留メ特有ナル各設候及繼發症等ノ抄録ハ  
症狀、經過ノ欄ニ記入スヘシ

二十、轉歸 治療死亡、除役、後遺等決定的轉歸ヲ記載シ歸郷療養後治療若クハ除役トナリタル者再入院  
者或ハ再歸郷等歸郷療養ニ關スル事項ハ補遺欄ニ記載ス

二十一、轉歸場所 病院名ヲ記載ス

二十二、貽後症、死因 退院時ノ貽後症狀死因ノ要點ヲ記入ス

二十三、治療日數 戰地、内地ニ區分シ歸郷療養者ハ其ノ日數ヲ記上ス

二十四、症狀 各部特有ノ症狀ヲ必要ニ應シ記入シ得ル如ク各空畫ヲ設ケタリ例之胸部穿透創ニ於テ  
一般症狀、出血(血胸)、體溫脈搏、咳嗽、氣胸、皮下氣腫、胸膜ノ炎症、肺ノ炎症、骨傷、血管神經ノ損傷等ニ對シ各必  
要ナル事項ヲ記入セムカ爲ナリ

二十五、經過 入院後ノ處置特種ナル手術、場所、一般ノ經過、處置上ノ缺陷、化膿ノ有無、繼發病及創傷傳染  
病ニ關スル事項ニ就キ記入ス

二十六、補遺 特ニ一欄ヲ設ケルニ足ラサルモノ及補遺事項ヲ記入ス

前記ノ要領ニ依リ抄録實施ニ當リ隊號、等級、兵種氏名、負傷地、負傷日、入院日、轉歸場所、轉歸月日、治療  
日數、歸郷療養日數等一般統計ニ係ル諸項目ハ助手ヲシテ記入セシメ特種ノ調査ヲ要スル創種部  
位形態、症候、經過等重要ナル事項及治療ニ關スル要點ハ委員自ラ抄録シ又症例トシテ掲出スヘキ  
材料ハ抄録ニ際シ直ニ取捨ヲ決定シ既定ノ症例様式ニ從ヒ拔萃セリ

編纂ノ實施 記入ヲ終リタル抄録用紙ヲ基礎トシ之ニ戰役間各衛生機關ヨリ提出セル業務報  
告、戰役ノ經驗ニ由リ得タル諸種ノ意見及戰傷治療ニ關スル文籍等統計及治療上有益ナル材料ハ  
努メテ之ヲ蒐集參照シテ編纂セリ

其五 戰病

編纂ノ方針ハ戰傷ノ如ク其ノ範ヲ明治三十七八年戰役衛生史傳染病及主要疾患ノ各卷ニ採リ其

ノ綱目及記事ノ體裁亦概ネ之ニ倣ヒシモ各疾病ニ共通スル綱目ハ努メテ其ノ配列ヲ整一ニシ之  
ニ各疾患ヲ概括シタル總論ヲ増設セリ實施ノ概況左ノ如シ

病床日誌ノ整理 患者統計ニ當リ整備シタル病床日誌第一號紙表面ニ傳染病、平病ノ區分ヲ記註レ  
置ケリニ就キ傳染病及主要疾患並多發疾患ハ病名別其他ハ病類別トシ之ヲ各戰地發病内地發  
病他病ヘ轉症他病ヨリ轉症、他病兼發等ニ別チ更ニ患者ノ氏名ヲ、イロハ順トシ約トシ名乃至百名  
宛ニ分綴シ各綴毎ニ目次ヲ附シテ索引ニ便セリ

抄録 病床日誌ニ就キ編纂ニ必要ナル事項ハ抄録用紙附表  
第四表ヲ用キ之ニ抄録セリ其ノ要領ハ概  
ネ其四戰傷ノ抄録要領ニ準シタルモ各疾患毎ニ要領ヲ異ニシ各箇ニ列記スルハ煩ニ亘レルカ要  
スルニ當該疾患ノ主要症候ハ可及的詳密ニ記入シ其ノ他ハ空畫トスルカ或ハ極簡單ニ記入スル  
ニ止メタリ例之腸窒扶私ノ抄録ニハ熱、榮養器、肝臟、脾臟、善薇疹等ノ狀況ヲ詳記シ赤痢ノ抄録ニハ  
榮養器殊ニ腸症狀及ヒ糞便ノ狀況等ヲ詳記シ脚氣ノ抄録ニハ神經系ノ狀況ヲ詳記セル等是レナ  
リ

編纂ノ實施 其四ニ同シ而シテ傳染病ハ内地發病ノモノト雖モ其ノ潛伏期ノ戰地ニ始マリタ  
ルモノハ戰地發病ト看做セリ又必要症候ノ百分比例ヲ算出スルニ當リ記載不明ノモノハ算外ニ  
置キ明確ナルモノノミヲ以テ算出セリ

第四 衛生史編纂委員及同助手

衛生史編纂委員長及委員ノ氏名左ノ如シ

任 命 月 日 職 務 官 氏 名

附錄 大正三年戰役衛生史編纂記事



大正四年八月十一日	委員長	陸軍一等軍醫正	下瀬謙太郎
同	委員	陸軍三等軍醫正	關郁郎
同	委員	陸軍一等軍醫	藤井正真
同	委員	陸軍一等軍醫	分玉巽
同	委員	陸軍二等主計	倉本力雄
大正五年三月九日	委員	陸軍三等軍醫正	岩崎小四郎
同	委員	陸軍一等軍醫	草間要
同	委員	陸軍一等軍醫	增田胤次
大正五年五月二日	委員	陸軍二等軍醫	三宅幹夫

委員助手トシテ服務シタルハ陸軍屬東山津守ニシテ患者統計及委員ノ庶務ヲ擔當セリ  
 雇員以下ノ人員ハ業務ノ繁閑ニ應ジ増減シ最多時期ハ十一人ヲ算セシカ其ノ延人員雇員三千二  
 十九人筆生百三人圖工二百九十七人儲給仕八十二人小使六百二十三人ヲ要セリ

第五 衛生史編纂經費

印刷費	第一編衛生勤務	三〇二九	第二編患者統計	一一二六〇	第三編衛生材料	一六三二二	第四編戰傷	二五二〇〇	第五編戰病	九九一三	計	九一、九二、七五〇
人件費	旅費	三八二一〇〇	馬匹及糧秣費	四一五	用品	八七〇五、六三五〇五〇	郵便電信費	二二二	運搬費	三三	計	八、九二、七五〇

一、經費中ニハ衛生史配布ニ關スル運搬費ヲ含マス〇印刷費ハ各一冊ノ代價トス

附表 第一

入院患者調査票

本籍	國土別	所管	隊號	兵種	最初收容病院 (患者療養所)	入院年月日	轉症病名	及年月日	轉歸年月日	氏名	生年月日	戰傷非戰傷別	發病負傷地名	發病年月日	轉歸年月日	轉歸病院	治療區分	數日	內地	戰地	兼傷病	備考	
																							提出院名 及軍醫印
						大正		大正						大正									
						大正		大正						大正									

一、本票ハ入院患者ノ病床日誌調査  
 前死亡シタル者ヲ除クノ全員ニ  
 就キ調査シ患者統計資料ニ供スル  
 モノナレハ明瞭ニ記載スヘシ  
 二、軍人以外ノ患者ニ在リテハ所  
 管、階級等軍人ニ準シテ記入スル  
 モノトス  
 三、國土別ハ支那、朝鮮、樺太、内  
 地等ニ分ツ  
 四、所管ハ常設、特設何師團、騎兵何  
 旅團、何軍直屬、留守何師團等ニ分  
 チ隊或ハ入院當時ノ隊號ヲ記ス  
 五、兵種ハ憲兵、歩兵、騎兵、野砲  
 兵、山砲兵、重砲兵、交通兵、工  
 兵、輜重兵、經理部、衛生部、獸  
 醫部、軍樂部及輜重車等ニ分ツ  
 六、傷名ハ部位及種類ヲ掲クヘシ  
 七、治療日數ハ入院當日ヨリ其ノ轉  
 歸前日迄ヲ算ス但シ死者ニ在リテ  
 ハ死亡當日迄ヲ掲上スヘシ  
 八、内地歸著年月日ハ内地陸上ノ日  
 ヲ記入スヘシ  
 九、治療日數區分中戰地ト内地トノ  
 境界ハ内地港灣乘船上陸ノ日ヲ以  
 テス  
 十、本票用紙ハ堅紙ナル西洋紙ヲ用  
 キ其ノ大サハ半紙半分大トス  
 十一、本票ハ最終轉歸ヲ取リタル病  
 院ニ於テ記入シ主任軍醫再查ノ上  
 捺印シ毎月末日ニ其ノ月分ヲ一括  
 シ之ニ枚數ヲ記載シ所管軍醫部ニ  
 提出ス軍醫部ハ管内各病院ノ分ヲ  
 取鑑メ日誌ヲ附シ翌月中ニ陸軍省  
 醫務局ニ進達スルモノトス  
 當月轉歸患者ナキ場合ニモ必ス其  
 ノ旨ヲ報告スルモノトス



No.

附表第二

病床日誌番號	衛史受第 號 No.	隊等兵	隊數補	氏名	氏名	注意項
傷名				一般症狀	一般症狀	
副傷				出血	出血	
負傷日時	月 日 時 分	負傷時刻	射距離	體溫脈搏	體溫脈搏	
負傷地名		負傷時刻		運動血液	運動血液	
負傷時ノ一般症狀		負傷時刻		呼吸咳嗽	呼吸咳嗽	
負傷時聽器ヨリ來レハ症狀		負傷時刻		知覺氣胸尿	知覺氣胸尿	
射入口	位置 大小 形狀	負傷時刻		知覺腹皮下	知覺腹皮下	
射出口	位置 大小 形狀	負傷時刻		其 他	其 他	
轉 歸	轉年 月 日 轉場 歸所	負傷時刻		經 過	經 過	
始後症 死 因		負傷時刻		補 遺	補 遺	
治療日數	戰地 戰內 日 日	負傷時刻				

大正三年戰役衛生史抄錄用紙

附表第三

病床日誌番號	衛史受第 號 No.	隊等兵	隊數補	氏名	氏名	注意項
傷名				耳 翼	耳 翼	受傷後 化膿ノ 有 無
副傷				外 障	外 障	
負傷日時	月 日 時 分	負傷時刻	射距離	鼓 膜	鼓 膜	
負傷地名		負傷時刻		聽 力	聽 力	
負傷時ノ一般症狀		負傷時刻		其 他ノ 症 候	其 他ノ 症 候	
負傷時聽器ヨリ來レハ症狀		負傷時刻		入院後ノ 處置 及 手術	入院後ノ 處置 及 手術	
射入口	位置 大小 形狀	負傷時刻		一 般ノ 經 過	一 般ノ 經 過	
射出口	位置 大小 形狀	負傷時刻				
轉 歸	轉年 月 日 轉場 歸所	負傷時刻				
始後症 死 因		負傷時刻				
治療日數	戰地 戰內 日 日	負傷時刻				

大正三年戰役衛生史抄錄用紙



本番表號	病番日誌	衛史受第 號 No			
簡 人 的 素 因	除 號	轉 歸 二 關 係 ア ル 事 項	發 受 診	日 臨 床 的	
	兵 種		入 院	日 細 菌 學 的	
	役 別		恢 復 期	日	
	階 級		退 院	日 理 化 學 的	
	勤 仕 年 年 箇 月		轉 症	日	
	年 齡 年 箇 月		何 改 正	日	併 症 及
	原 職		日 兼 發	日	發 症
	生 國 府 郡 市 町 村		轉 歸(死 因)		食 餌 及 養
	體 格		轉 送 狀 況		藥 物
	榮 養				本 血 清
原 因 的 事 項	既 往 症 病	前 驅 症	電 氣 按 摩	其 他 理 學 法 的 療 法	
	主 在 鄉 中 發 病 時	發 病 狀 態	轉 送 時 狀 場 所	日 數	
		初 期 症 狀	法 法 結 果	日	
	直 接 原 因	再 發 再 潮	後 療 法		
	素 因	一 般 經 過	合 併 症 及 後 發 症 療 法		
	誘 事 柄				
	因 發 病 迄 日 數		本 症 發 地 日 內 地 日		
	潛 伏 期		轉 症 發 地 日 內 地 日		
	發 病 地				
	發 病 年 月 日 大 正 年 月 日				
感 染 (病 覺) 時	境 遇	高 最 度 分			
	勤 務	持 續 日			
	氣 象	熱 型			
		熱 アノニル事 關 係 他 其 項			

大正三年戰役衛生史抄錄用紙



本番表號		病番號 衛生受第 號 No.		病名		氏名		注意事項																																					
簡 人 的 素 因	隊號	轉 歸 ニ 關 係 ノ 事 項	發 受 診 日	神 經 系 統 及 五 官	顏 貌	呼 吸 器	咳 嗽	榮 養	泌 尿 器 及 生 殖 器	診 斷	臨 床 的																																		
	兵種		發 入 院 日		頭 重 痛		咳 痰				尿 量 狀 態	細 菌 學 的																																	
	役別		恢 復 期 日		眩 暈		呼 吸						尿 蛋 白	理 化 學 的																															
	階級		退 院 日		不 眠		鼻 喉 腫 痛								尿 糖 イ ン ヂ カ ン	合 併 症 及 後 發 症																													
	勤仕年		轉 症 日		嗜 睡		氣 管 支 氣 管										尿 チ ア ツ オ	食 餌 及 養 料																											
	年齡		改 正 日		語 音		胸 膜												尿 顯 微 鏡 的 所 見	藥 物																									
	原職		兼 發 日		意 識 障 礙		胸 水														尿 化 學 的 所 見	本 症																							
	生國		轉 歸 (死 因)		兩 便 失 禁		其 他 呼 吸 器 症 狀																尿 排 泄 障 礙	電 氣 按 摩																					
	體格		轉 送 狀 況		其 他 腦 症		自 覺 症 狀																		尿 道 管 狀 態	其 他 學 法																			
	榮養		前 驅 症		腦 神 經 痛 筋 痛																						心 搏 動	尿 輸 尿 管 狀 態	轉 時 狀 態																
既往症	發 病 狀 態	運 轉 麻 痺		心 濁 音 界	尿 腎 臟	地 方 日 數																																							
主在郷中		初 期 症 狀		上 肢 麻 痺				心 音	尿 遺 精 力	後 療 法																																			
食發病時				再 發 再 潮				下 肢 麻 痺			心 囊 水 腫	尿 精 力	合 併 症 及 後 發 症 療 法																																
原 因 的 事 項								直 接 原 因			抽 搐 強 直			脈 搏	尿 直 腸 門 括 約 筋	皮 膚											治 療 日 數																		
											素 因			誘 事 柄			震 顫	動 脈												尿 裏 急 後 重	發 疹 物	本 症 戰 地 日 內 地 日													
																	因	發 病 迄 日 數	不 隨 意 動 運	靜 脈													尿 痛 痛	毛 及 爪	轉 症 戰 地 日 內 地 日										
																			潛 伏 期	發 病 地	變 異 運 動	血 液														尿 雷 鳴	浮 腫	補 遺							
																					發 病 年 月 日	大 正 年 月 日	知 覺 麻 痺	其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 腸 出 血	榮 養 障 礙					
							感 染 (病 覺) 時																境 遇 勤 務 氣 象		痛 覺 麻 痺	自 覺 症 狀															尿 其 他 腸 症 狀	其 他 皮 膚 變 狀			
			發 病 年 月 日																						大 正 年 月 日			溫 覺 麻 痺	心 搏 動														尿 數 量	其 他 皮 膚 變 狀	
	發 病 年 月 日				大 正 年 月 日	味 覺 麻 痺																						心 濁 音 界																	尿 性 狀
		發 病 年 月 日				大 正 年 月 日			其 他 知 覺 麻 痺	心 音																																			
				發 病 年 月 日					大 正 年 月 日			其 他 知 覺 麻 痺	心 囊 水 腫																																
發 病 年 月 日								大 正 年 月 日				筋 痛			脈 搏	尿 性 狀											其 他 皮 膚 變 狀																		
											發 病 年 月 日	大 正 年 月 日		筋 痛																動 脈	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀													
														發 病 年 月 日			大 正 年 月 日	筋 痛															靜 脈	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀										
																		發 病 年 月 日	大 正 年 月 日	筋 痛																血 液	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀							
																				發 病 年 月 日	大 正 年 月 日	筋 痛		其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀					
							發 病 年 月 日															大 正 年 月 日	筋 痛			其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀			
			發 病 年 月 日																				大 正 年 月 日		筋 痛				其 他 呼 吸 器 症 狀														尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀	
	發 病 年 月 日				大 正 年 月 日																				筋 痛			其 他 呼 吸 器 症 狀																	尿 性 狀
		發 病 年 月 日				大 正 年 月 日				筋 痛															其 他 呼 吸 器 症 狀																				
				發 病 年 月 日					大 正 年 月 日	筋 痛			其 他 呼 吸 器 症 狀																																
發 病 年 月 日								大 正 年 月 日		筋 痛					其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀											其 他 皮 膚 變 狀																		
										發 病 年 月 日	大 正 年 月 日	筋 痛																		其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀													
												發 病 年 月 日		大 正 年 月 日			筋 痛																其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀										
																	發 病 年 月 日	大 正 年 月 日	筋 痛																	其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀							
																			發 病 年 月 日	大 正 年 月 日	筋 痛			其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀					
							發 病 年 月 日														大 正 年 月 日	筋 痛				其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀			
			發 病 年 月 日																			大 正 年 月 日	筋 痛						其 他 呼 吸 器 症 狀														尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀	
	發 病 年 月 日				大 正 年 月 日																		筋 痛					其 他 呼 吸 器 症 狀																	尿 性 狀
		發 病 年 月 日				大 正 年 月 日																	筋 痛		其 他 呼 吸 器 症 狀																				
				發 病 年 月 日					大 正 年 月 日				筋 痛										其 他 呼 吸 器 症 狀																						
發 病 年 月 日								大 正 年 月 日					筋 痛		其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀											其 他 皮 膚 變 狀																		
										發 病 年 月 日	大 正 年 月 日		筋 痛																	其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀													
												發 病 年 月 日	大 正 年 月 日	筋 痛																			其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀										
														發 病 年 月 日			大 正 年 月 日	筋 痛																		其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀							
																		發 病 年 月 日	大 正 年 月 日	筋 痛				其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀					
							發 病 年 月 日													大 正 年 月 日	筋 痛					其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀			
			發 病 年 月 日																		大 正 年 月 日	筋 痛							其 他 呼 吸 器 症 狀														尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀	
	發 病 年 月 日				大 正 年 月 日																	筋 痛						其 他 呼 吸 器 症 狀																	尿 性 狀
		發 病 年 月 日				大 正 年 月 日																筋 痛			其 他 呼 吸 器 症 狀																				
				發 病 年 月 日					大 正 年 月 日													筋 痛	其 他 呼 吸 器 症 狀																						
發 病 年 月 日								大 正 年 月 日							筋 痛	其 他 呼 吸 器 症 狀						尿 性 狀					其 他 皮 膚 變 狀																		
										發 病 年 月 日	大 正 年 月 日				筋 痛															其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀													
												發 病 年 月 日	大 正 年 月 日		筋 痛																		其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀										
														發 病 年 月 日	大 正 年 月 日		筋 痛																			其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀							
																	發 病 年 月 日	大 正 年 月 日	筋 痛					其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀					
							發 病 年 月 日												大 正 年 月 日	筋 痛						其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀			
			發 病 年 月 日																	大 正 年 月 日	筋 痛								其 他 呼 吸 器 症 狀														尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀	
	發 病 年 月 日				大 正 年 月 日																筋 痛							其 他 呼 吸 器 症 狀																	尿 性 狀
		發 病 年 月 日				大 正 年 月 日															筋 痛				其 他 呼 吸 器 症 狀																				
				發 病 年 月 日					大 正 年 月 日												筋 痛		其 他 呼 吸 器 症 狀																						
發 病 年 月 日								大 正 年 月 日								筋 痛					其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀					其 他 皮 膚 變 狀																		
										發 病 年 月 日	大 正 年 月 日					筋 痛														其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀													
												發 病 年 月 日	大 正 年 月 日			筋 痛																	其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀										
														發 病 年 月 日	大 正 年 月 日	筋 痛																				其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀							
																發 病 年 月 日	大 正 年 月 日	筋 痛						其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀					
							發 病 年 月 日											大 正 年 月 日	筋 痛							其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀			
			發 病 年 月 日																大 正 年 月 日	筋 痛									其 他 呼 吸 器 症 狀														尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀	
	發 病 年 月 日				大 正 年 月 日															筋 痛								其 他 呼 吸 器 症 狀																	尿 性 狀
		發 病 年 月 日				大 正 年 月 日														筋 痛					其 他 呼 吸 器 症 狀																				
				發 病 年 月 日					大 正 年 月 日											筋 痛			其 他 呼 吸 器 症 狀																						
發 病 年 月 日								大 正 年 月 日												筋 痛	其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀					其 他 皮 膚 變 狀																		
										發 病 年 月 日	大 正 年 月 日									筋 痛										其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀													
												發 病 年 月 日	大 正 年 月 日							筋 痛													其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀										
														發 病 年 月 日	大 正 年 月 日					筋 痛																其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀							
																發 病 年 月 日	大 正 年 月 日			筋 痛				其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀					
							發 病 年 月 日											大 正 年 月 日		筋 痛						其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀			
			發 病 年 月 日																大 正 年 月 日	筋 痛									其 他 呼 吸 器 症 狀														尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀	
	發 病 年 月 日				大 正 年 月 日															筋 痛								其 他 呼 吸 器 症 狀																	尿 性 狀
		發 病 年 月 日				大 正 年 月 日														筋 痛					其 他 呼 吸 器 症 狀																				
				發 病 年 月 日					大 正 年 月 日											筋 痛			其 他 呼 吸 器 症 狀																						
發 病 年 月 日								大 正 年 月 日												筋 痛	其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀					其 他 皮 膚 變 狀																		
										發 病 年 月 日	大 正 年 月 日									筋 痛										其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀													
												發 病 年 月 日	大 正 年 月 日							筋 痛													其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀										
														發 病 年 月 日	大 正 年 月 日					筋 痛																其 他 呼 吸 器 症 狀	尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀							
																發 病 年 月 日	大 正 年 月 日			筋 痛				其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀					
							發 病 年 月 日											大 正 年 月 日		筋 痛						其 他 呼 吸 器 症 狀															尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀			
			發 病 年 月 日																大 正 年 月 日	筋 痛									其 他 呼 吸 器 症 狀														尿 性 狀	其 他 皮 膚 變 狀	
	發 病 年 月 日				大 正 年 月 日															筋 痛								其 他 呼 吸 器 症 狀																	尿 性 狀
		發 病 年 月 日				大 正 年 月 日														筋 痛					其 他 呼 吸 器 症 狀																				
				發 病 年 月 日					大 正 年 月 日											筋 痛			其 他 呼 吸 器 症 狀																						
發 病 年 月 日								大 																																					



# 大正三年戰役衛生史總目次

## 第一編 衛生勤務

第一章 總論	一
第一節 作戰經過ノ大要	一
第二節 患者	七
第三節 衛生勤務實施ノ梗概	二二
第四節 衛生員及其死傷	一七
第五節 衛生材料	一七
第六節 恩賜及恤兵	一八
第二章 出征軍ノ衛生ニ關スル中央部及師團ノ施設	一九
第一節 中央部ニ於ケル施設	一九
第二節 師團ニ於ケル施設	二七

## 附錄

第一 出征軍下士兵卒衛生心得	三七
第二 蠅ノ驅除法	四五
第三 野戰病院重患者用食品用法	五二
第四 各部隊ノ定期及臨時報告	五四
第五 野戰衛生材料使用上ノ注意	六〇

第一編 衛生勤務		第二編 衛生材料		第三編 衛生員		第四編 衛生勤務實施	
章	節	章	節	章	節	章	節
一	總論	一	總論	一	總論	一	總論
一	作戰經過ノ大要	一	衛生材料ノ種類	一	衛生員ノ種類	一	衛生勤務實施ノ梗概
二	患者	二	衛生材料ノ供給	二	衛生員ノ養成	二	衛生勤務實施ノ詳細
三	衛生勤務實施ノ梗概	三	衛生材料ノ貯藏	三	衛生員ノ勤務	三	衛生勤務實施ノ報告
四	衛生員及其死傷	四	衛生材料ノ管理	四	衛生員ノ待遇	四	衛生勤務實施ノ檢討
五	衛生材料	五	衛生材料ノ消費	五	衛生員ノ福利	五	
六	恩賜及恤兵	六	衛生材料ノ損失	六	衛生員ノ訓練	六	
二	出征軍ノ衛生ニ關スル中央部及師團ノ施設	七	衛生材料ノ補充	七	衛生員ノ研究	七	
一	中央部ニ於ケル施設	八	衛生材料ノ貯藏場所	八	衛生員ノ衛生	八	
二	師團ニ於ケル施設	九	衛生材料ノ運送	九	衛生員ノ衛生教育	九	
		一〇	衛生材料ノ分配	一〇	衛生員ノ衛生管理	一〇	
		一一	衛生材料ノ消費率	一一	衛生員ノ衛生設備	一一	
		一二	衛生材料ノ貯藏方法	一二	衛生員ノ衛生器具	一二	
		一三	衛生材料ノ管理方法	一三	衛生員ノ衛生服裝	一三	
		一四	衛生材料ノ消費方法	一四	衛生員ノ衛生食料	一四	
		一五	衛生材料ノ損失方法	一五	衛生員ノ衛生住居	一五	
		一六	衛生材料ノ補充方法	一六	衛生員ノ衛生交通	一六	
		一七	衛生材料ノ貯藏場所	一七	衛生員ノ衛生娛樂	一七	
		一八	衛生材料ノ運送方法	一八	衛生員ノ衛生休息	一八	
		一九	衛生材料ノ分配方法	一九	衛生員ノ衛生疾病	一九	
		二〇	衛生材料ノ消費方法	二〇	衛生員ノ衛生死亡	二〇	
		二一	衛生材料ノ貯藏方法	二一	衛生員ノ衛生遺骸	二一	
		二二	衛生材料ノ管理方法	二二	衛生員ノ衛生其他	二二	
		二三	衛生材料ノ消費方法	二三		二三	
		二四	衛生材料ノ損失方法	二四		二四	
		二五	衛生材料ノ補充方法	二五		二五	
		二六	衛生材料ノ貯藏場所	二六		二六	
		二七	衛生材料ノ運送方法	二七		二七	
		二八	衛生材料ノ分配方法	二八		二八	
		二九	衛生材料ノ消費方法	二九		二九	
		三〇	衛生材料ノ貯藏方法	三〇		三〇	
		三一	衛生材料ノ管理方法	三一		三一	
		三二	衛生材料ノ消費方法	三二		三二	
		三三	衛生材料ノ損失方法	三三		三三	
		三四	衛生材料ノ補充方法	三四		三四	
		三五	衛生材料ノ貯藏場所	三五		三五	
		三六	衛生材料ノ運送方法	三六		三六	
		三七	衛生材料ノ分配方法	三七		三七	
		三八	衛生材料ノ消費方法	三八		三八	
		三九	衛生材料ノ貯藏方法	三九		三九	
		四〇	衛生材料ノ管理方法	四〇		四〇	
		四一	衛生材料ノ消費方法	四一		四一	
		四二	衛生材料ノ損失方法	四二		四二	
		四三	衛生材料ノ補充方法	四三		四三	
		四四	衛生材料ノ貯藏場所	四四		四四	
		四五	衛生材料ノ運送方法	四五		四五	
		四六	衛生材料ノ分配方法	四六		四六	
		四七	衛生材料ノ消費方法	四七		四七	
		四八	衛生材料ノ貯藏方法	四八		四八	
		四九	衛生材料ノ管理方法	四九		四九	
		五〇	衛生材料ノ消費方法	五〇		五〇	



第三章 獨立第十八師團ノ輸送、上陸及前進……………七〇

第一節 内地及船舶輸送間ニ於ケル衛生概況……………七〇

第二節 龍口上陸ヨリ平度附近ニ到ルマテノ情況……………七二

第三節 平度、即墨間ノ前進及即墨附近開進間ノ情況……………七四

第一 師團主力ノ前進間ニ於ケル情況……………七四

第二 堀内支隊勞山灣上陸前後ニ於ケル情況……………七五

第三 師團ノ即墨附近開進間ノ情況……………七六

第四章 石門山及孤山、浮山附近ノ戰鬪……………七八

第一節 石門山附近ノ戰鬪ニ於ケル衛生業務……………七八

第二節 孤山、浮山附近ノ戰鬪ニ於ケル衛生業務……………八六

附表

第一 石門山及孤山、浮山附近戰鬪死傷表……………九五

挿圖

第一 石門山附近之戰鬪ニ於ケル左右兩縱隊方面衛生機關ノ行動……………九八

第二 孤山、浮山附近之戰鬪ニ於ケル衛生機關ノ行動……………九八

第三 北村綑帶所内之配置……………九八

第五章 攻城準備間ニ於ケル情況……………一〇一

第一節 孤山、浮山附近戰鬪直後ノ情況……………一〇一

第二節 攻城準備間ノ情況……………一〇一

附表

第二 攻城準備間死傷表……………一〇六

挿圖

第四 李村附近一般圖及李村、東李村、下王埠庄野戰病院院内ノ配置……………一一二

第六章 本防禦線攻撃開始後要塞ノ占領ニ至ルマテノ情況……………一一二

第一節 衛生機關ノ配置……………一一二

第二節 攻撃間ニ於ケル戰鬪衛生業務……………一一四

附表

第三 青島要塞本防禦線攻撃間死傷表……………一三九

挿圖

第五 錯埠嶺及上四方綑帶所内之配置……………一四三

第六 鹽灘、浮山後、河西野戰病院位置及院内之配置……………一四三

第七章 青島要塞占領後ノ業務並凱旋……………一四三

第一節 本防禦線攻撃戰鬪後ノ情況……………一四三

第二節 開城後ヨリ十一月下旬ニ至ルマテノ情況……………一四六

第三節 十二月上旬ヨリ凱旋ニ至ルマテノ情況……………一四八

附表

第四 獨立第十八師團衛生隊作業一覽表……………一四九

第五 獨立第十八師團野戰病院作業一覽表……………一五〇



第六	第一野戰病院業務表	一五一
第七	第二野戰病院業務表	一五六
第八	第三、第四野戰病院業務表	一五九

附錄

第六	青島開城規約	一六三
第七	衛生委員業務日誌抄錄	一六七
第八章	兵站衛生業務	一九二
第一節	一般ノ概況	一九二
第二節	兵站衛生機關ノ編成及出發	一九三
第三節	龍口上陸後師團ノ即墨附近開進ニ至ルマテノ情況	一九四
第四節	石門山及孤山、浮山附近戰鬪及其前後ニ於ケル衛生業務	二〇〇
第五節	攻城準備間ニ於ケル衛生業務	二〇四
第六節	青島要塞本防禦線攻撃間ニ於ケル衛生業務	二〇八
第一	戰鬪開始前ニ於ケル情況	二〇八
第二	戰鬪中ニ於ケル情況	二一〇
第七	即墨野戰豫備病院之位置	二一〇
第八	流亭患者療養所内之配置	二一三
第三	戰鬪後ニ於ケル情況	二一三

第七節	十一月下旬ヨリ凱旋ニ至ル間ノ情況	二一六
-----	------------------	-----

附表

第九	兵站司令部附衛生部員患者療養所作業一覽表	二一九
第十	野戰豫備病院第二十九班作業一覽表	二二一
第十一	兵站衛生機關業務表其一乃至其三	二二二
第九章	患者輸送	二二七
第一節	戰地ニ於ケル患者輸送	二二七
第二節	患者ノ海上輸送	二四一
第一	陸軍運輸部本部ノ業務	二四一
第二	日本赤十字社病院船	二四二
第三	患者輸送船	二四六
第三節	内地ニ於ケル患者輸送	二四八
第一	門司、久留米間ノ輸送	二四八
第二	門司、小倉間、門司、下關間及宇品、廣島間ノ輸送	二五六
第三	患者轉送業務	二五六

附表

第十二	獨立第十八師團兵站部患者輸送一覽表	二五八
第十章	戰地ノ衛生概況	二六〇
第一節	一般衛生事項	二六〇



第一 氣象	二六〇
第二 宿營	二六二
第三 給養	二六五
其一 定量	二六五
其二 主食	二六六
其三 副食及加給品	二七一
其四 攜帶口糧	二七二
其五 患者食	二七二
其六 炊爨炊具	二七三
其七 一般榮養狀態	二七四
第四 給水	二七五
第五 被服	二八一
第二節 作戰地方醫事衛生ノ概況	二八二
第一 醫師其他救療機關ノ分布	二八二
第二 地方傳染病及風土病	二八四
第三節 戰地ノ防疫及衛生施設	二八五
第一 師團ノ防疫及衛生施設	二八五
第二 兵站地ノ防疫及衛生施設	二八八
第三 凱旋時ノ防疫	二九一

附 錄

第八 青島ノ衛生事項	二九二
第十一章 運送船ノ衛生事項	三〇一
第一節 陸軍運輸部ノ衛生業務	三〇一
第二節 運送船ノ一般衛生及清潔法	三〇二
第三節 運送船ノ消毒及檢疫	三〇八
第四節 船舶防疫ニ關スル陸上ノ衛生事項	三一
第五節 運送船乗組員及便乗者ノ衛生	三二
第六節 運送船衛生材料	三三
第七節 運送船ノ給水及給養	三四
第十二章 檢 疫	三一六
第一節 一般ノ概況	三一六
第二節 檢疫準備	三一六
第三節 檢疫實施	三一八
第一 編成及分課	三一八
第二 設 備	三二一
第四節 檢疫所内業務ニ關スル規定	三二二
第一 庶務課	三二二
第二 醫務課	三二三



第三	沐浴運搬課	三二五
第四	附屬病院	三二八
第五節	各課業務實施ノ情況	三二八
第一	庶務課	三二八
第二	醫務課	三二九
第三	沐浴運搬課	三三六
第四	附屬病院	三三七
第五	經理	三五四
附 表		
第十三	臨時陸軍各船檢疫人員打合臨檢消毒時間及消毒藥消費數量表	
第十四	臨時陸軍被服裝具隊屬貨物蒸汽藥物消毒作業實施表	
第十五	臨時陸軍沐浴及運搬作業工程表	
附 錄		
第九	臨時陸軍檢疫所官制	三五五
第十	陸軍所轄船舶檢疫規則	三五五
第十一	臨時陸軍檢疫所服務規則	三五八
第十二	臨時陸軍檢疫所設置手續	三六〇
第十三	似島檢疫所ニ於ケル注意事項	三六一
第十三章	衛戍病院	三六四

第一節	一般ノ概況	三六四
第二節	患者收容計畫及其實施	三六六
第一	一般ノ收容計畫	三六六
第二	各病院ノ收容計畫及其實施	三六八
第三節	職員及勤務ノ概況	三七〇
第一	動員セル衛戍病院	三七〇
第二	動員セサル衛戍病院	三七二
第三	篤志看護婦人ノ病院勤務	三七四
第四節	發著業務	三七四
第一	發著部及其業務ノ分擔	三七五
第二	患者ノ收容轉送	三七五
第三	除役及退院	三八三
第四	轉地療養	三八三
第五	歸郷療養	三八四
第六	患者附託品ノ取扱	三八五
第七	病床日誌及證據書類ノ整理	三八六
第五節	庶 務	三八六
第一	庶務業務ノ概要	三八七
第二	病院内ノ取締	三八八



第三 恩給診斷……………三八九

第四 郵便電信……………三八九

第六節 衛生部員教育ノ概況……………三九一

第七節 衛生材料ニ關スル業務……………三九二

第一 藥室勤務ノ概況……………三九二

第二 衛生材料ノ出納及修理……………三九四

    其一 各部隊戰用衛生材料ノ出納……………三九四

    其二 衛戍病院用衛生材料ノ出納……………三九四

    其三 衛生材料ノ修理……………三九八

第三 調劑及製劑ノ情況……………三九八

第四 理化學的試驗及衛生材料ノ鑑査……………四〇〇

第八節 經理業務……………四〇一

第一 經理事務ノ概況……………四〇一

第二 雜器具ノ增備……………四〇二

第三 患者用被服ノ增備取扱及補修洗濯……………四〇五

第四 患者食……………四一〇

第九節 慰問、面會、附添、寄贈及恤兵……………四一三

第一 御慰問及恩賜……………四一三

第二 一般ノ慰問……………四一三

第三 患者面會人及附添人……………四一四

第四 寄贈品及恤兵品……………四一四

第十節 建物及給水……………四一五

第十一節 俘虜患者ノ取扱……………四一七

第一 入院患者……………四一七

第二 收容ノ情況……………四一九

第三 入院患者ノ取締及給養……………四二一

第十四章 除役及恩給診斷……………四二一

第一節 除役……………四二一

第二節 恩給診斷……………四二二

第一 症項策定、服役處分及現認證書事實證明書ニ關スル注意……………四二二

第二 戰地流行病ノ種類……………四二三

第三 俘虜傷病者ニ證明書ノ下附……………四二三

第四 病床日誌調製ニ關スル注意……………四二四

第五 醫務局ニ於ケル恩給ノ取扱……………四二四

第六 恩給ニ關スル諸表……………四二五

第十五章 恩賜及恤兵……………四三三

第一節 御慰問……………四三三

第二節 緋帶ノ下賜……………四三四



第三節 義眼義肢ノ下賜	四三六
第一 思召ノ傳達	四三六
第二 醫務局ニ於ケル義眼義肢ノ取扱	四三六
第三 義眼義肢拜受者員數	四三七
第四節 恤兵品及寄贈品	四三八
第一 陸軍恤兵部ノ分配	四三八
第二 病院直接受理寄贈金品	四三九
第三 其他ノ寄贈品	四四〇
第十六章 人事	四四一
第一節 衛生部ノ人員	四四一
第二節 出征部隊衛生部員ノ減耗及補充	四四七
第三節 衛生部士官以上及戰死者ノ進級	四四八
第四節 衛生部員ノ行賞	四四八
第十七章 日本赤十字社救護事業	四五一
第一節 日本赤十字社救護班	四五一
第二節 日本赤十字社病院船	四五四
第三節 篤志看護婦人	四五六
第十八章 英軍ノ衛生勤務	四五六
第一節 日英兩軍協定事項	四五六

第二節 英軍ノ衛生業務	四六一
第三節 英軍ノ宿營及給養	四六五
第十九章 獨軍ノ衛生勤務	四六七
第一節 獨軍衛生防疫ニ關スル概況	四六七
第二節 開城當時ニ於ケル獨軍病院衛生部員ノ配屬及傷病者	四六九
第三節 獨軍戰鬪死傷ノ概況	四七二
第四節 開城後獨軍患者ノ處置	四七四
第五節 開城後病院內ノ概況	四七四
第六節 獨軍衛生員ノ處置	四七六

附圖

第一 大正三年戰役戰地一般圖	
第二 王哥庄附近及沙子口附近一般圖	
第三 青島要塞本防禦線攻撃間衛生機關ノ配置	
第四 步兵第五十五聯隊第二大隊隊繩帶所浮山後野戰病院發著部	
第五 獨立第十八師團野戰衛生機關行動一覽表	
第六 獨立第十八師團兵站衛生機關ノ位置其一乃至其四	
第七 患者輸送用抄車	
第八 病院船コリ患者揚陸ノ狀況	
第九 臨時陸軍檢疫所一般圖	



- 第十 久留米衛戍病院臨時構築物其一其二
- 第十一 大村佐賀衛戍病院臨時構築物
- 第十二 廣島衛戍病院本院一般圖及基町分病室

### 第二編 患者統計

#### 統計圖

傷病者比例	.....
死亡比例	.....
兵種別戰鬪死傷	.....
患者	.....
第一 總患者.....	.....
第二 總減耗.....	.....
第三 出征部隊總患者病名別轉歸及治療日數.....	.....
第四 出征部隊在隊患者部隊別轉歸.....	.....
第五 出征部隊在隊患者兵種階級別轉歸.....	.....
第六 出征部隊入院患者病名別轉歸及治療日數.....	.....
第七 出征部隊入院患者部隊別轉歸.....	.....
第八 出征部隊入院患者兵種階級別轉歸.....	.....
第九 出征部隊在隊患者病名部隊別患者死亡.....	.....

第十 出征部隊在隊患者病名兵種別患者死亡.....	.....
第十一 出征部隊在隊患者病名月別患者死亡.....	.....
第十二 出征部隊入院患者病名部隊別患者死亡除役.....	.....
第十三 出征部隊入院患者兵種階級別患者死亡除役.....	.....
第十四 出征部隊入院患者病名月別患者死亡除役.....	.....
第十五 病名別還送患者.....	.....
第十六 戰鬪別戰鬪死傷.....	.....
第十七 部隊別戰鬪死傷.....	.....
第十八 兵種別戰鬪死傷.....	.....
第十九 部位別戰鬪死傷.....	.....
第二十 留守部隊總患者病名別轉歸及治療日數.....	.....
第二十一 留守部隊在隊患者部隊別轉歸.....	.....
第二十二 留守部隊在隊患者兵種階級別轉歸.....	.....
第二十三 留守部隊入院患者病名別轉歸及治療日數.....	.....
第二十四 留守部隊入院患者部隊別轉歸.....	.....
第二十五 留守部隊入院患者兵種階級別轉歸.....	.....
第二十六 留守部隊在隊患者病名部隊別患者死亡.....	.....
第二十七 留守部隊在隊患者病名兵種別患者死亡.....	.....
第二十八 留守部隊在隊患者病名月別患者死亡.....	.....



第二十九	留守部隊入院患者病名部隊別患者死亡除役	一八八
第三十	留守部隊入院患者兵種階級別患者死亡除役	二〇四
第三十一	留守部隊入院患者病名月別患者死亡除役	二二〇
第三十二	出征前及歸還後總患者病名別轉歸及治療日數	二三六
第三十三	出征前及歸還後在隊患者部隊別轉歸	二三八
第三十四	出征前及歸還後在隊患者兵種階級別轉歸	二四二
第三十五	出征前及歸還後入院患者病名別轉歸及治療日數	二四四
第三十六	出征前及歸還後入院患者部隊別轉歸	二四六
第三十七	出征前及歸還後入院患者兵種階級別轉歸	二五四
第三十八	出征前及歸還後在隊患者病名部隊別患者死亡	二五八
第三十九	出征前及歸還後在隊患者病名兵種別患者死亡	二七四
第四十	出征前及歸還後在隊患者病名月別患者死亡	二七八
第四十一	出征前及歸還後入院患者病名部隊別患者死亡除役	二八〇
第四十二	出征前及歸還後入院患者兵種階級別患者死亡除役	二九六
第四十三	出征前及歸還後入院患者病名月別患者死亡除役	三〇四
第四十四	歸鄉療養患者	三〇八
第四十五	軍人以外總患者病名別轉歸及治療日數	三一〇
第四十六	軍人以外入院患者病名別轉歸及治療日數	三一〇
第四十七	軍人以外入院患者病名轉歸及職業別	三一二

### 第三編 衛生材料

第一章	一般ノ概況	一
第二章	衛生材料補給ノ系統	二
第三章	陸軍衛生材料廠	四
第一節	一般ノ情況	四
第二節	業務ノ實施	五
第一	購買業務	五
第二	検査業務	五
第三	製造業務	六
第四	試作業務	七
第五	追送業務	八
第三節	戦用豫備品ノ應用	八
第四節	昇禾製錠室及其他ノ設備	八
第四章	廣島陸軍被服支廠字品出張所	九
第五章	戦地ニ於ケル衛生材料消費補給ノ情況	九
第一節	出征前ニ於ケル準備	九
第二節	内地出發ヨリ即墨附近開進ニ至ル迄ノ情況	一〇
第一	船舶輸送間	一〇



第二章 龍口即墨間……………一〇

第三章 堀内支隊及勞山灣上陸部隊……………一二

第四節 石門山及孤山浮山附近戰鬪間ノ情況……………一三

第五節 攻城準備間ノ情況……………一六

第六節 青島要塞本防禦線攻撃間ニ於ケル情況……………二〇

第七章 青島要塞占領ヨリ凱旋ニ至ル間ノ情況……………二三

第八章 衛生材料ノ破損紛失及應用材料……………二九

第九章 内地部隊衛生材料……………三二

第十章 獨軍衛生材料……………三三

第十一章 患者用被服……………三四

附 錄

第一 戰用衛生材料内容品表……………三七

第二 戰傷者用衛生材料補給基準數量……………六七

第三 平病者用衛生材料補給基準數量……………六九

第四 病原菌檢索具内容品表……………七三

第五 患者輸送船醫板内容品表……………七八

第六 運送船醫板内容品表……………八三

附 圖

第一 手術用天幕、列車用擔架、船用擔架

衛生材料統計

第二章 應用野戰蒸汽消毒器急造乾熱滅菌器急造孵卵器

衛生材料統計

一、衛生材料總消費數量……………一

二、戰鬪間衛生材料消費數量……………

其一 隊……………三六

其二 編帶所……………四〇

其三 野戰病院……………四四

其四 兵站部隊……………五二

三、戰地非戰鬪間衛生材料消費數量……………

其一 野戰部隊……………六八

其二 兵站部隊……………九二

四、日本赤十字社病院船及運送船衛生材料消費數量……………一四

五、衛生材料出納數量……………

其一 衛生隊……………一二二

其二 野戰病院……………一二八

其三 野戰豫備病院……………一五〇

其四 第五兵站司令部……………一七〇

六、衛生材料補給數量……………

其一 野戰衛生材料廠……………一九二



患者用被服

其二 陸軍衛生材料廠.....二三四

患者用被服戰地出納數量

其一 野戰病院.....二九八

其二 野戰豫備病院.....二九八

其三 第五兵站司令部.....三〇〇

其四 野戰衛生材料廠.....三〇〇

第四編 戰 傷

第一章 戰傷總論.....一

第一節 敵軍ノ使用セシ兵器.....一

第一 小銃.....一

第二 火砲.....四

第三 地雷.....六

第二節 留彈ノ變形.....七

第一 小銃彈ノ變形.....七

第二 砲彈子ノ變形.....一〇

第三節 戰傷ノ統計.....一三

第一 戰死傷者.....一三

第二 戰傷ノ種類.....一六

其一 全死傷者.....一六

其二 戰死者.....一八

其三 傷者.....二〇

第三 多創.....二四

第四節 戰傷ノ轉歸及治療日數.....二七

第一 戰死率.....二七

第二 入院傷者ノ轉歸.....二九

第三 總死亡率.....三三

第四 治療日數.....三四

第五節 戰傷ノ治療.....三五

第一 治創方針.....三五

第二 傷者ノ收容及第一綑帶ノ狀況.....三八

第三 隊綑帶所ニ於ケル處置.....四二

第四 綑帶所ニ於ケル處置.....四三

第五 野戰病院及兵站地病院ニ於ケル處置.....四四

第六 衛戍病院ニ於ケル處置.....五一

第二章 射 創.....五九

第一節 頭部射創.....五九

第一 總論.....五九



第二 軟部射創……………六七

  其一 軟部銃創……………六七

  其二 軟部砲彈子創……………七〇

  其三 軟部砲彈破片創……………七二

第三 骨射創……………七四

  其一 骨創……………七四

  其二 非穿透性骨傷……………七五

  其三 穿透性骨傷……………七八

插圖

第一 射入出口ノ位置及砲彈破片

第二 頭部穿透射創射入出口ノ位置

第二節 顔面射創……………九二

第一 總論……………九二

第二 軟部射創……………九六

  其一 軟部銃創……………九六

  其二 軟部砲彈子創……………九七

  其三 軟部砲彈破片創……………九七

第三 骨射創……………九八

  上顎骨—下顎骨—其他ノ骨損傷—齒牙損傷

第四 隣接部トノ聯續損傷……………一〇三

第五 貴要器官損傷……………一〇五

  眼損傷—鼻損傷—神經損傷—舌損傷—耳損傷—腦損傷

第六 顔面射創ノ死因及除役因……………一一〇

第三節 頸部射創……………一一九

  員數—彈種別—一般ノ形態—各創ノ形態—轉歸—治療日數

插圖

第三 頸部射創射入出口ノ位置

第四節 胸部射創附脊髓射創……………一二八

第一 總論……………一二八

第二 胸部彈丸打撲……………一三八

第三 胸部非穿透射創……………一三八

  其一 軟部射創……………一四〇

    軟部銃創—軟部砲彈子創—軟部砲彈破片創

  其二 骨傷……………一四四

  其三 其他ノ合併損傷……………一四五

第四 胸部穿透射創ノ統計的觀察……………一五三

  穿透射ト非穿透射トノ比例—彈種別—負傷側—貫通創及盲管創

  穿透射ノ豫後—彈種ト豫後トノ關係—負傷側ト豫後トノ關係—貫



通創及盲管創ト豫後トノ關係—除役率—治療日數

第五 胸腔內器官損傷並胸部穿透射創ノ併發損傷……………一六二

其一 肺損傷……………一六三

    小銃彈ニ因ル肺損傷—砲彈子ニ因ル肺損傷—砲彈破片ニ因ル肺損傷

    其二 併發損傷……………一六七

        骨損傷—脊髓損傷—神經損傷障礙—其他ノ損傷

第六 胸部穿透射創ノ證候及續發症……………一六八

    受傷直後ノ症狀—負傷側ノ胸痛—咳嗽及呼吸困難—出血及空氣ノ出入—血痰—皮下氣腫—血胸並胸膜炎—膿胸及肺壞疽

    附 脊髓射創……………一九三

挿圖

    第四 一彈多創

    第五 胸廓橫斷面圖

第五節 腹部及骨盤射創……………二〇〇

    第一 總論……………二〇〇

    第二 腹部及骨盤彈丸打撲……………二〇六

    第三 腹部及骨盤非穿透射創……………二〇七

    其一 軟部射創……………二一〇

軟部銃創—軟部砲彈子創—軟部砲彈破片創

    其二 骨損傷……………二一五

    其三 脊髓損傷……………二一六

    其四 陰莖、陰囊及辜丸ノ損傷……………二一六

第四 腹膜腔穿透射創ノ統計的觀察……………二二四

    其一 彈種別……………二二五

    其二 創傷ノ形態……………二二六

    其三 豫後……………二二六

    其四 轉歸……………二二九

    其五 治療日數……………二二九

第五 腹膜腔穿透射創ノ經過及症狀……………二三〇

挿圖

    第六 會陰部砲彈打撲

    第七 植皮術

    第八 小銃彈體內橫轉ノ狀況

    第九 胸部及腹部穿透射創射入出口位置

第六節 四肢射創……………二四四

    第一 統計……………二四四

    第二 軟部射創……………二四九



其一 統計	二四九
其二 損傷ノ状態	二五五
其三 經過及繼發症	二六六
其四 轉歸	二七四
其五 治療日數	二七六
第三 四肢骨射創總論	二七八
其一 骨射創一般ノ統計	二七八
其二 四肢骨射創ノ統計	二八一
其三 骨傷ノ状態	二八五
其四 經過	二八六
其五 轉歸	二八九
其六 治療日數	二九二
第四 四肢骨射創各論	二九四
其一 上膊骨射創	二九五
其二 前膊骨射創	三一一
其三 手指骨射創	三二五
其四 大腿骨射創	三三五
其五 下腿骨射創	三五〇
其六 足骨射創	三六五

挿圖

第十 神經縫合	
第十一 敗血膿毒症熱型圖	
第十二 神經縫合	
第十三 下腿骨骨折	
第七節 關節射創	三七一
第一 總論	三七一
其一 員數	三七一
其二 損傷ノ状態	三七五
其三 經過	三七九
其四 轉歸	三八七
其五 治療日數	三九一
第二 各部關節射創	三九一
肩胛關節部射創	
肘關節部射創	
腕關節部射創	
膝關節部射創	
足關節部射創	
第二 各部關節射創	三九一
肩胛關節部射創	
肘關節部射創	
腕關節部射創	
膝關節部射創	
足關節部射創	

挿圖

第十四 上膊骨骨端部孔狀骨折	
第三章 眼損傷	四一三
第一節 眼戰傷ノ統計的觀察	四一三



第二節 眼損傷各論

第一 全眼球損傷

    其一 眼球損傷ノ器械的作用

    其二 全眼球損傷ノ種類

第二 角膜損傷

第三 鞏膜損傷

第四 虹彩損傷

第五 脈絡膜損傷

第六 網膜損傷

    其一 網膜出血、ハート氏黃斑病及増殖性網膜炎

    其二 網膜剝離

第七 視神經損傷

第八 硝子體及水晶體損傷

第九 眼瞼及結膜損傷

第十 淚器損傷

第十一 眼窩損傷及外傷性眼運動障礙

第十二 交感性眼炎

第十三 在隊眼戰傷

第三節 獨軍ノ眼戰傷

四二一

四二一

四二二

四二二

四二五

四二九

四三〇

四三一

四三二

四三二

四三五

四三六

四三七

四三七

四三九

四三九

四四一

四四二

四四二

四四二

插圖

第十五 眼射創射入出口ノ位置

第四章 耳損傷

第一節 總論

第一 耳損傷總論

第二 耳直達損傷

第三 耳介達損傷

第二節 耳損傷各論

第一 耳翼損傷

第二 外聽道損傷

第三 乳嚙突起損傷

第四 鼓膜及鼓室損傷

第五 迷路損傷

第三節 獨軍ニ於ケル耳戰傷

插圖

第十六 鼓膜圖

第五章 爾他ノ戰傷

第一節 爆傷

第一 員數



第二部	位	四七六
第三	損傷組織	四七八
第四	症狀	四七九
第五	經過	四八〇
第六	轉歸及治療日數	四八〇
第二節	介達彈創	四八五
第一	員數	四八五
第二	種類	四八六
第三	症狀及經過	四八八
第四	轉歸及治療日數	四八九
第三節	白兵創	四九〇
第六章	創傷傳染病	四九二
第一節	總論	四九二
第二節	丹毒	四九五
第三節	破傷風	四九六
第四節	瓦斯蜂窠織炎	五〇一
第五節	敗血膿毒症	五〇三
第七章	獨軍ノ戰傷	五〇七
第一節	總論	五〇七

第二節	射創總論	五一〇
第三節	銃創概論	五一二
第四節	射創各論	五一八
第一	頭部射創	五一八
第二	顏面射創	五一九
第三	頸部射創	五二〇
第四	胸部射創	五二一
第五	腹部及骨盤射創	五二二
第六	四肢射創	五二四
第五節	獨軍創傷治療ノ概況	五三三
插圖		
第十七	信管破片	

### 第五編 戰病

第一章	總論	一
第一節	統計的觀察	一
第一	患者數	一
第二	轉歸	四
第三	減耗	五



第四 治療日數	七
第二節 患者發生ノ概況	一〇
第三節 戰病ノ豫防及治療	一一
第二章 腸室扶私	一七
第一節 統計的觀察	一七
第一 患者數	一七
第二 轉歸	一八
第三 治療日數	一九
第二節 流行ノ概況	二〇
第一 戰地	二〇
第二 內地	二三
第三節 原因の事項	二四
第一 箇人の素因	二四
第二 直接感染	二六
第三 誘因の事項	二七
第四節 症候	二八
第一 病型	二八
第二 前驅症	三三
第三 發病狀態及初期症候	三五

第四 一般經過	三六
第五 熱	三六
第六 神經系及五器官	四七
第七 呼吸器	五一
第八 循環器	五三
第九 榮養器	五六
第十 肝臟及脾臟	六一
第十一 泌尿器	六四
第十二 皮膚	六四
第十三 運動器	六六
第五節 恢復期	六六
第六節 再發及再潮	六八
第一 再發	六八
第二 再潮	七〇
第七節 繼發症及併發症	七二
第八節 診斷	七二
第一 臨床的	七二
第二 細菌學的	七二
第九節 豫後	七六



第一章 豫後ニ關係アル事項……………七六

  第二 死亡ノ時期及死因……………七八

  第十節 豫防法……………七九

  第十一節 療法……………七九

第三章 パラチブス……………八三

  第一節 統計的觀察……………八三

  第二節 流行ノ概況……………八三

    第一 戰地……………八三

    第二 內地……………八四

  第三節 原因の事項……………八五

    第一 箇人の素因……………八五

    第二 誘因の事項……………八五

  第四節 症候……………八六

    第一 病型……………八六

    第二 前驅症……………八六

    第三 發病狀態及初期症候……………八六

    第四 一般經過……………八七

    第五 熱……………八八

    第六 神經系及五官器……………九〇

第七 呼吸器……………九〇

第八 循環器……………九一

第九 榮養器……………九二

第十 肝臟及脾臟……………九四

第十一 泌尿器……………九五

第十二 皮膚……………九五

第五節 恢復期……………九八

第六節 再發……………九八

第七節 繼發症及併發症……………九九

第八節 診斷……………九九

第九節 豫後……………一〇一

第十節 豫防法及療法……………一〇一

第四章 赤痢……………一〇三

  第一節 統計的觀察……………一〇三

  第一 患者數……………一〇三

  第二 轉歸……………一〇四

  第三 治療日數……………一〇五

  第二節 流行ノ概況……………一〇五

    第一 戰地……………一〇五



第二節 內地.....一〇七

第三節 原因的事項.....一〇八

    第一 箇人的素因.....一〇八

    第二 直接感染.....一〇九

    第三 誘因的事項.....一〇九

第四節 症候.....一一〇

    第一 病型.....一一一

    第二 潜伏期.....一一四

    第三 前驅症.....一一五

    第四 發病狀態及初期症候.....一一六

    第五 一般經過.....一一八

    第六 熱.....一二〇

    第七 神經系及五官器.....一二二

    第八 呼吸器.....一二三

    第九 循環器.....一二四

    第十 營養器.....一二六

    第十一 泌尿器.....一二八

    第十二 皮膚.....一三八

    第十三 運動器.....一三八

第五節 恢復期.....一三九

第六節 再潮.....一三九

第七節 繼發症及併發症.....一四〇

第八節 診斷及病原檢索.....一四三

    第一 診斷.....一四三

    第二 病原檢索.....一四六

    第九節 豫後.....一五三

    第十節 豫防法.....一五五

    第十一節 療法.....一五五

        第一 食餌及滋養品.....一五五

        第二 藥物.....一五六

        第三 看護.....一五九

附記 アメーバ性赤痢.....一五九

附錄

第五章 脚氣.....一六二

    第一節 統計的觀察.....一七一

        第一 患者數.....一七一



第二節 轉歸.....一七二

第三節 治療日數.....一七三

第二節 發生ノ概況.....一七四

第一節 戰地.....一七五

第二節 內地.....一七八

第三節 原因の事項.....一八〇

第一節 箇人の素因.....一八〇

第二節 誘因の事項.....一八四

第四節 症候.....一八六

第一節 病型.....一八六

第二節 發病狀態及初期症候.....一九四

第三節 一般經過.....一九五

第四節 熱.....一九五

第五節 神經系及五官器.....一九六

第六節 呼吸器.....二〇三

第七節 循環器.....二〇四

第八節 榮養器.....二〇七

第九節 泌尿器.....二〇八

第十節 皮膚.....二〇九

第五節 繼發症及併發症.....二一一

第六節 診斷及豫後.....二一一

第七節 療法.....二一二

第六章 稀有疾患.....二二五

第一節 外傷性急性延髓球麻痺ノ一例.....二二五

第二節 バセドウ氏病ノ一例.....二二六

第三節 共齋運動性神經症ノ一例.....二二七

第四節 遊走腎ノ一例.....二二九

第七章 青島獨軍ノ傳染病.....二三一

第一節 獨軍動員以來傳染病發生ノ概況.....二三一

第二節 赤痢.....二三二

第三節 腸窒扶私.....二三三

附錄目次

大正三年戰役衛生史編纂記事

第一 衛生史編纂ノ經歷.....二二七

第二 編纂計畫及其實施.....二二八

第三 各編編纂ノ情況.....二三三

第四 衛生史編纂委員及同助手.....二三九



總目次 第五編

第五 衛生史編纂經費……………二四〇

(丁)

附表

第一 入院患者調査票……………	二〇一
第二 戰傷抄錄用紙……………	二四二
第三 戰傷抄錄用紙……………	二四三
第四 戰病抄錄用紙……………	二四四

大正六年五月二十日印刷

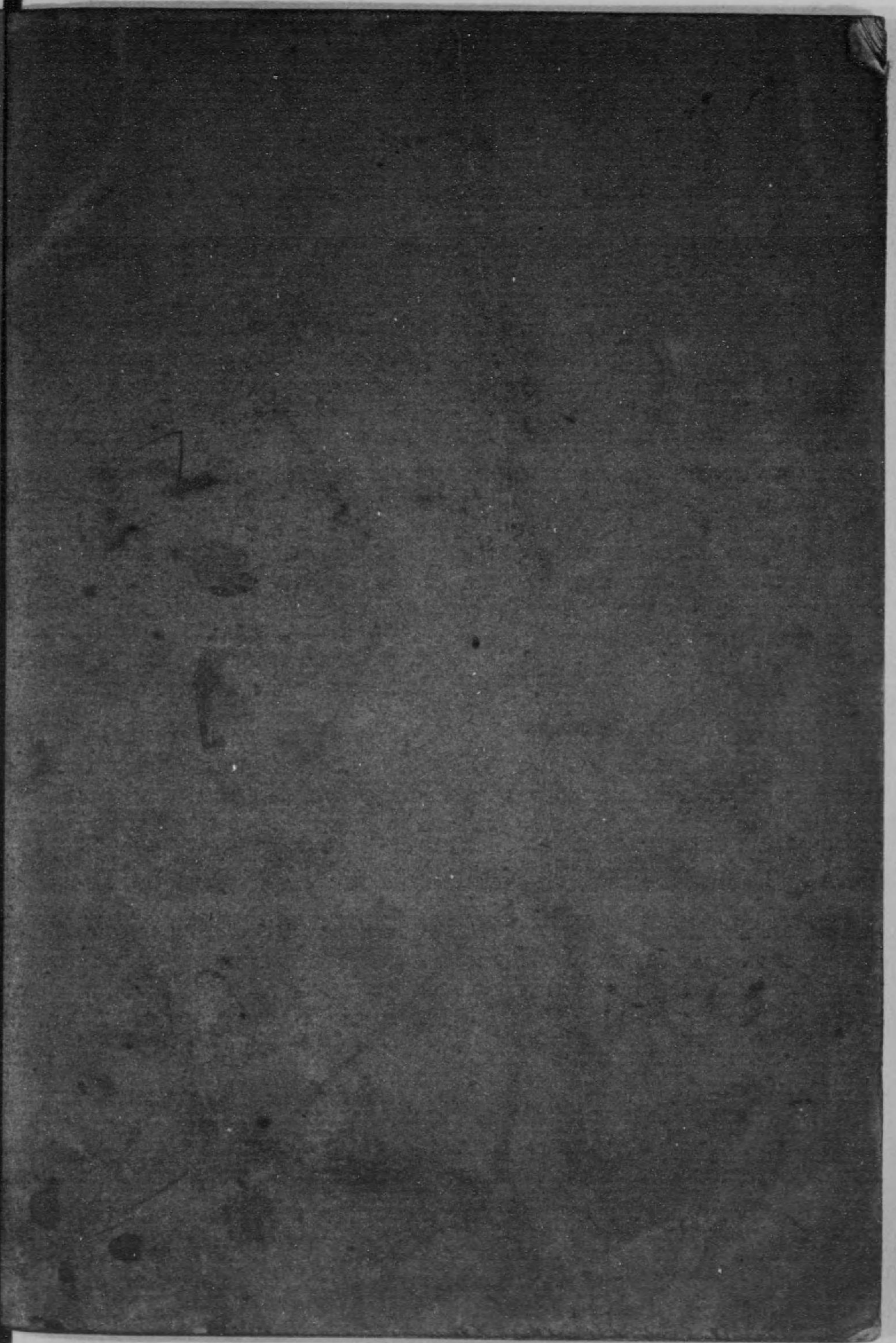
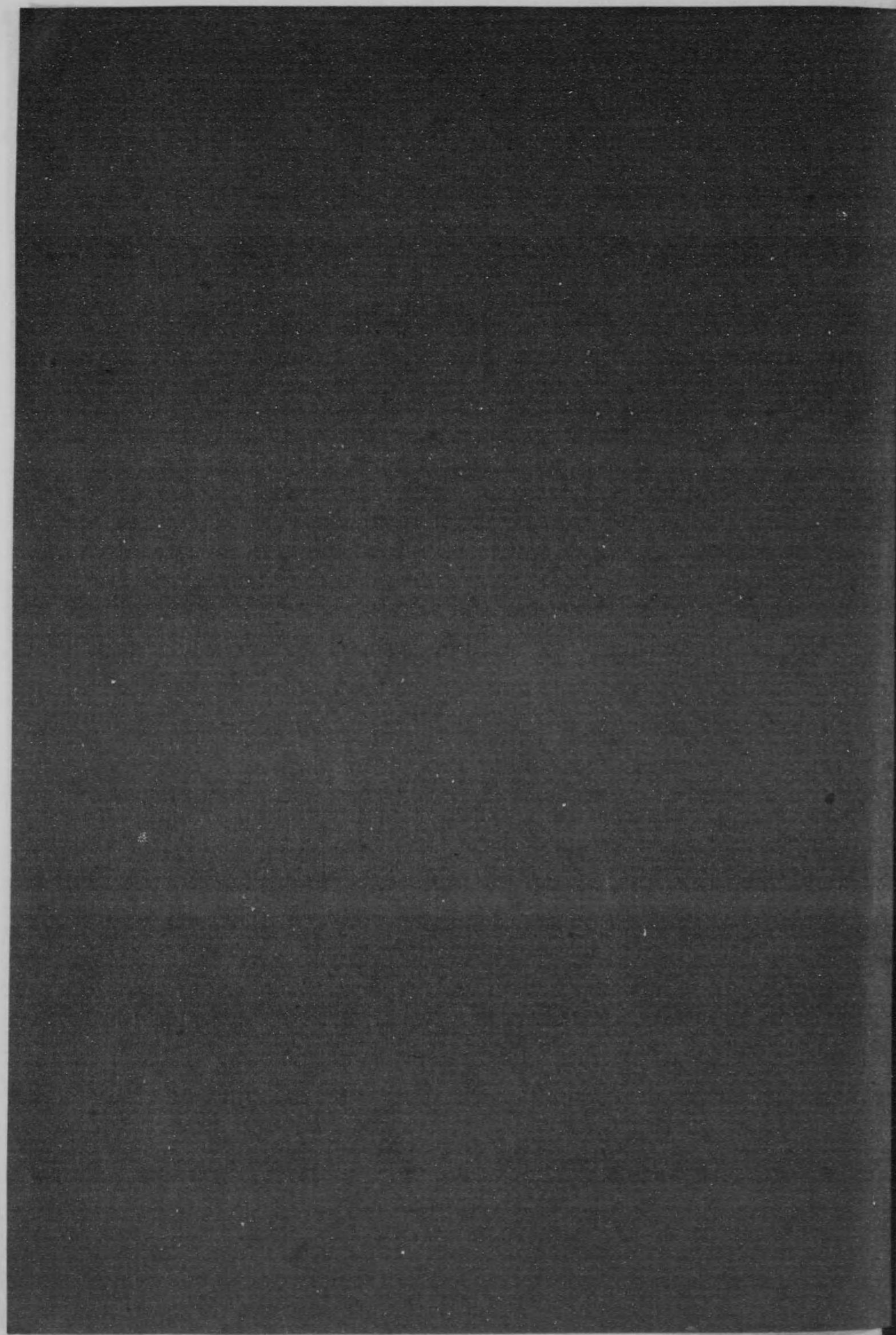
陸軍省

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地

株式會社 秀英舍第一工場

印刷所







終